SPRING 11

大手前自治会

まえがき

何か内容のかわったものを作ろう、という決意のもとで作成したスプリングであるが、前号の模倣に終わったところもかなりあるように思われる。しかし十年間発行し続けた伝統に恥じないものであると編集者一同自負している。大手前高校のエッセンスであると断言できるまではいかずともそれに類するものであると生徒諸君が感じてくだされば、この十一号は一応成功であるのではないか。

前置きはこのくらいにして、とにかく読んでほしい。そして、感じたことを心の奥に秘めていて、来年の十二号の編集が始まった時に意見して下されば、それでこの十一号の役目は終わったことになると思う。

目次

自治会

会長として考える　後期会長　紀本岳志……4

自治会へひとこと　前期会長　小松原良輔……6

新入生に贈る　副会長　渡辺仁……7

小人の戯言　堀辛雄……8

自治会とは何か　木下秀雄……8

行事紹介……10

クラブ紹介

連動系クラブ……11

文化系クラブ……15

クラス紹介……19

先生の紹介……49

他校訪問記……55

先生の回想記

回想記　綿谷芳夫……61

石垣　南景雄……63

私の高校時代　宇塚五郎……64

昭和二十七年四月のこと　森延哉……65

文芸

The Future　吉崎光則……58
血のような乱れた　愛のブレリュード　太田文夫……67
影　よ　副島正純……67
ある日ある時　竹内信博……68
無　題　神頭　徹……68
泉　スプリング　南井生夫……69
イッヒ　リーベ　デイッヒ　山田雅信……70
4・19～12・5　山田雅信……70
つぶやき　副島正純……70
短　歌　修学旅行に捨う……71
日本に於ける詩及び
それからの支離滅裂なる考察　副島正純……73
高校生と麻雀　野端哲朗……74
机　草　子　堀　幸雄……75

編集後記

……77

会長として考える

後期会長　紀本岳志

「ああ、また何も出来なかったか。」と、このごろ僕は思うことがあります。これを書いている今は、後期本部が始まってもう三月になっています。あれこれ考えているうちにあっと過ぎてしまったなあ。そして、あと少しを残して僕等の任期もおしまい。「ほんとに何も出来なかったなあ。」

僕が本部を始める時、一番大切に思った事は次のような事だったんだ。「今までの自治会活動を、もう少し主体的に、また、みんなの団結でやって行ける活動にしよう。」

たしかに、現在の活動では、生徒の主体性なんてものはまるでないんだな。また、生徒一人、一人、自治会なんて必要ないなんて思っている。その上、一番最初にまとまってなきゃ自治会活動なんてできやしないはずのクラスというものがまるでバラバラで、（これは考えてみると当り前なんだが、つまり、入試といっただ単なる点数の序列によって分けられて来た生徒自身が、たまたま同じクラスに毎日カバンを運ぶと言った関係しかないんだから）どうしようもないって状態で、自治会活動をやろうなんて、到底無理なことに決ってるんだ。討論会をするにしたって、「自分はいま忙しいので、こんな討論会には出たくない」とか、「まあ、今日は暇だから聞いてみるか」といった状態なんだ。（こう思ってない奴の大部分は猫をかぶっていて、その他のほんの少しの人は、すごい変人で、真剣になって討論に参加している人だ）　でも、どうしてこんな状態になったんだろう。

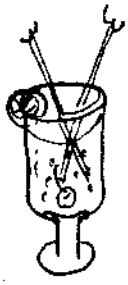
その一つには、今の教育体制といったものに完全にのまれてしまっているってことがはいると思う。つまり、我々、ある程度以上の点を取って、大手前に入って、それからまたまじめにカバンを運んだり、運動したりして一種のエリート（このごろのエリートは万能を要求されるね）の卵となって、大学へ入って、いわゆる「安定」した（この言葉が僕は重大な誤りだと思うんだが…）マイホーム主義かなんかで、きれいな奥さんをもらって、一生を平穏に暮す。てな具合に、意識的にだか、無意識的にだか、思い込んでしまう。

だから、自治会活動だとか、ほんとの意味のクラブ・グループ・サークル活動なんかは、このレールからそれてしまうんだ。それで、つまらない、こんなことしてもなんのためになるんだい、なんて調子になってしまう。

それに、僕が今年はその渦に巻き込れる、受験体制なんかも、相当大きな弊害を出している。また、自治会自体が、アメリカ合衆国（いわゆるベーテ！）の戦後民主化教育の一環として入って来たといった、おしきせがましい教育体制の延長から、現在も脱皮できないで存在しているってことにもあると思うんだが。

そういった中で、僕がさっき言ったバラ色のレールがほんとにバラ色なんだろうか。（よく巷ではバラにはトゲがあるとか申しますそうな）そうやって考えていくと僕らの考えているレールが、あまりにも本末転倒な曲がったレールであることがわかると思う。そし

て、今僕等のいる大手前高校自体が、内部までどっぷりと泥沼につかっていることがわかると思うんだ。そしてこの泥沼の改革を可能にするのは、みんなの団結だけだと思った。みんなただ、〇〇先生の授業はあまりにも受験体制に乗っとったもので、ほんとの勉強を教える態度ではない。とか、社会が悪いんだ。学歴偏重、受験地獄だからこそ、勉強以外に何も感じない無気力な高校生が生まれるんだ。といった文句ばかり言ってるだけじゃなく、自分のまわりの解決可能な問題からでもみんなで解決していこうじゃないか。そして、それが大手前の真の改革につながるんじゃないか。



だったら、団結はどうすれば出来るものなんだろう。

それにはまず、今、全然だめなクラスという集団で、みんなの意見を反映したまとまりが必要じゃないかと思った。たとえ、グループ・サークルが主体的で、かつ指導性に富んでいて、うまく動けるとしても、それでみんなをリードして行けるなら、僕はそこに、そのグループがどんなにすばらしくとも、なにか一つの独裁的な危機を感じます。それがうまく行けば行くほど…。ぼくの言っている団結とは、あくまで民主的な意見で行動出来る団結です。それで僕はあえて最も非主体的な集りであるクラスを相手にしたんだ。

ところが、ここで根本的な誤りがあったんだ。それは、僕達は泥沼にはまってしまうとその中のほうが住み易くなるということなんだ。確かに僕自身もそこにどっぷりつかっているから、頭の中ではわかるんだけれど、実感としては湧いてこない。そこにいるとエリートといった、おいしそうな餌が与えられるし。つまり、結局みんな、今のままのほうがいいなんてすごくおかしな意見に落着いてしまう。それで自治会とかいったものは、なんのためにもならないバカな事として片付けられ、討論会は、まあお付き合い程度でと言った具合になってしまう。まったく「天下泰平」だ。それで僕らもない知恵しぼって考えたのです。でも、相手と術が違いすぎ、またしても「ああ、また何も出来なかったか」となったのであります。

確かに今までの方法としてまずい点もあったと思います。例えば、役員と一般会員の連絡が不十分だとか、一般会員が自治会に接する機会が非常に少ないとか、役員と一般会員の離反的な感情といったものの是正をも含め活動を行って来たつもりでしたが、結局、その背後の大きな問題につっかかってしまったような気がします。

今まで述べてきた中に、今の高校の自治活動の大きな壁を感じ、また、僕は言いようのない敗北感に襲われます。しかし、これは、決して敗北ではなく、断念であると僕は信じたい。そして、また次の人達がこの問題を正しく把握し、新しい挑戦を行うことを切に望みます。

自治会へひとこと

前期会長　小笠原　良　輔

前期自治会役員をつとめて、その後は一会員だから、いわば私は自治会の裏も表も知っているといえる。というと自治会本部は、何か悪いことでもやっているように聞こえるかもしれないが。とにかく、そんな経験があるから自治会発展のために、思っていることを書いてみようと考えてみた。しかし、自治会を斬ってみたところで、今までくり返し強調されてきた意見を、またくり返すだけだと思う。また、自治会を活発にするには！という問題意識を少しも持たない自治会員はないだろう。そこで考えてみると、必要なことは、むずかしい言いまわしの意見ではなくて、もっともっと根本的なことをいう意見だと思う。少なくともその方が、自治会発展への道に沿っていると思う。そこで、さきほど言ったように、役員をした経験からちょっと感想を述べることにする。

最初に思うこととして、一般の自治会員は自治会という存在に対して、なにかとりつきにくいという感じをもっているのではないだろうか、ということである。これが自治会の発展を妨げる最大の原因だと思う。では、なぜ自治会はとりつきにくいものなのだろうか。思うに、一つは役員の責任である。役員という立場に酔狂して、ついむずかしいことを言ってしまいがちだ。また、自治会は代表会議その他の機関で構成された組織であるから、その中の運営が一般会員にとっては、宙に浮いたものと思われるかもしれない。それでは、どうすればよいのか。自治会員は、自治会がとりつきにくい存在だという固定観念を捨てるべきだと思う。

次に、本部としては、事務的処理にあまりこだわらずに、正面から、本部は自治会員すべてのものだという姿勢をとるべきだと思う。その点、後期本部はスタートからこの姿勢であるのはすばらしいと思う。私自身は役員のとき、こうは考えなかった。前期は、文化祭規定条文の問題があり、自治会行事も多かったから、既定の行事を押し進めて、自治会の目標に近づこうとしたのである。

さっきも言ったように、自治会を活発にするには！という問題意識を持っていない人はないだろう。また、会員一人一人の意見など表面的には無に等しいと思われきえするが、そんなことはないと思う。クラスのみんなの前で自分の意見を発表した人もあるだろうし、友だちと、あるいはグループでいろいろ意見を交換している人もあろう。そのような意見を自治会でとりあげてみるのはどうだろう。自治会というものは、そんな意見をとりあげ、広く押し広めるのに絶好の組織ではないだろうか。学校内でのいろいろな問題は、自治会を利用して押し広め話し合うべきである。もし初め意見をもっていなかった人も、どんどん参加できるように。

これは理想であろうか。このようなすばらしい自治会を築いてくれる人たちが現われることを期待する。

新入生に贈る

副会長　渡　辺　仁

入学おめでとう。どうです。この学校の感じは。みなさんの中には緊張と不安でいっぱいの方もいるでしょうが、その緊張をほぐす為、これからいろいろ大手前高校について書いてみようと思います。

一、まじめな人ばかりだから、窮屈で仕方がないと思っている人へ。

まあ、最初はそんな雰囲気ですが、すぐに化けの皮がはがれてきます。半年もたつと、居眠りくらいは毎度のこと、五百円やるからと言われて服のままプールに飛び込んだり、冬になるとストーブで餅焼くやつなんかも出て来ます。そして、みんなあんまり自分と変わりないことが、わかります。予習をかっちりしていくというのも初めの二カ月くらいです。

二、ガリ勉ばっかりで運動能力は自分が一番優れているだろうと思っている人へ。

なかなかどっこいそうはいきません。水泳なんか、みんなかなり上手です。しいて言えば器械体操は少々苦手なようですが。

三、三年間勉強に追われて過ごすだろう、と考えている人へ。

毎日、普通に勉強しておれば十分間に合います。高校へ入ったからといって、勉強の仕方をガラッと変えなくちゃならん、ということはないと思います。学校のムードにしても、スキー、スケート教室はあり、一年生は水泳の特訓もあります。校内行事は非常に多いですし、クラブ活動もなかなか盛んです。生徒の自主性が大きく認められていますから、大いに自分自身を開発することができます。ですから、早く大手前になじんで、思う存分活動できる場を見つけて下さい。

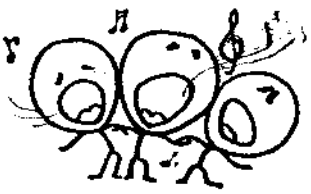
四、運動クラブへ入りたいが勉強も気になるしという人へ。

さっさとクラブに入ればよろしい。勉強は十分間に合います。それから、むちゃなシゴキなんてものはありません。入る前から勉強なんか気にしているようでは、少々気合いが足らんです。

五、本校の問題点について

話がやや堅くなりますが、我慢して下さい。

今の教育のあり方を考えてみますと、どうしても良い点数をとればいい、ということになりがちです。しかも、その点数にしても、全教科まんべんなく良くないとだめです。まあ勉強だけについて言えば、高校はいろんな知識を吸収しなくちゃだめですから、ある程度止むを得ませんが、今の学校教育が全然タッチしていないことで、私達が学びとらなければならない事が多くある、と思うのです。本校では、かなりそういう面に力を入れて、よくやっていると思います。しかし、やはりいろんな弊害が生じてきます。つまり、自分の好きなことをやってりゃいい、という利己的な人間がふえていると思うのです。学校のことについて言えば、もっとクラブに熱中したり、学校行事やクラスのホームルーム活動にもっと一生懸命になったり、自治会活動にもっと真剣になってしかるべきだと思うのです。それから、遅刻が多くなったり、授業をさぼって家に帰ったり、授業中にふざけたりするのも、弊害の一つのあらわれだろうと思います。そこで、一年生のみなさんにお願いしますが、そういう悪い



風習にそまらないで、自分自身で判断して、良い方向へ努力して下さい。さて、この話はこれでうち切りましょう。

肩がこりますから。言い忘れましたが、帽子はかぶらないといけないことになっていますが、そのうちにとれてきます。これから新しいスタートですが、あんまり堅くならずに、リラックスして高校生活を始めましょう。そして、あなたの隣にいる人が愉快な仲間だ、ということがわかったら、今度は上級生に話しかけて下さい。いつでも気軽に親切に相手になってくれるはずです。

小人の戯言

2ノ7　堀　幸雄

実に様々な者が大手前に存する。住みづらいものもいればゴキゲンなのもいる。そんな中で悩み、喜び、イチビッテ若人達は暮らしている。彼等（自分を含む）は大手前や世間という川を流れる清き水のようなものだ。彼等は自分がどんなにつまらぬ原子の集合にすぎないかを痛感する。そう自分一人で頑張っても川底には何も残らず海へ流れてしまう。やはり川底には何か残すべきである。

そうするには重い密度の高い者に変化しなければならない。水銀は迷惑になるから金になればいい。大手前川では、いろんな液を混ぜて水を金にしようと考えている。しかし残念ながら、それだけでは金はできない。ある触媒が必要なのである。それは水と水を激しく混合し合えば簡単に生成できる。それと工場の液を加えれば金が誕生する。

この練金術で行けば、この世は金で満ちる。水が交わりさえすればまたその回数が多ければ多いほど良い触媒ができるのだ。

具合いいことに大手前を流れる水は生来にしてよく混じり合う。しかし流れが速いのか、川の中で右往左往しているうちに流れてしまって仲々交じり合う機会が少ない。

でも互に協力し、ちょっと努力すれば素晴らしい触媒ができ川底は目をおおう程、まばゆい砂金で輝くことになる。

君は知っていよう。水は一滴では無力だが、多く集合すれば岩をも押し流す力のあることを……　水よ互いによく交じり合い、素晴らしい触媒を作ろう。

人とは全て水のようなものだ。その運命は上から下への単調な流れに終わる。しかし、いつの間にか大河の流れを変えてしまう大きなエネルギーをもつ。ぼくらは余りに無力かも知れない。しかし交わり連帯すればする程、そこにはすばらしいものができる。

ぼくは諸君らに、そうあることを望んでやまないのである。

自治会とは何か

3ノ4　木下　秀雄

三年間学級代表をやって自治会について考えたことを書く。これからの活動に少しでも役立てば嬉しい。

自治会とは何か。案外答えにくい問いと思う。僕は三年間いろいろ考えてこう答えることにした。

自治会とは、まず第一に自治と民主主義を我々高校生が学ぶ組織である。

「自治」とは、互いに協力して自ら計画し組織し実行することで

ある。去年やったのと同じようなこと、だがそれに何か新しいものを注ぎこもうとする努力、いろんな困難を仲間と力をあわせて克服すること、これらの中に自治がある。そして、困難を克服する過程で、意見の違う人といかに協力するか、意志を疎通させるか、それが民主主義である。

七十年代は激動すると言われている。その中で成長する我々は、何よりも大切なことは自分で考え行動できるようになることである。そのために自治する能力、民主主義のルールを学ぶことがどうしても必要なのだ。

それを学ぶのが自治会。

次に、自治会とは、具体的に生徒の権利を守り、要求を獲得してゆく組織である。

先生が生徒をなぐるなら、それを問題にする、トイレットペーパーがいるなら、それをとりつけてもらう、そういう組織である。

そういう活動がまた自治を学び民主主義を学ぶことになる。

多くの会員の無関心、一方「府教委通達」「文部省見解」に見られる権力の自治抑圧の動き、これら内と外の（根源は同じだが）自治破壊から自治を守り育てる、それが自治会自身である。また、生徒の小さな要求でもそれを実現する、そうすることにより、より生徒の自治会にしてゆく、それが自治会である。

では現実の自治会はどうか。

それについてはこう思う。

たしかに僕の見た歴代の執行部はみな、残念ながら、先にあげた二つの役割を僕が期待したほどには果せなかった。

H。Rの不活発。諸行事の自主管理の不十分さ。etc。

けれど、一部の人々の言うように「解体」し「第二自治会」をつくるよりないとは思わない。

今の自治会を発展させて、先の二つの働きを十分行えるようにすることが可能であり、そうするのが正しいと思う。

そこでどうすればよいかという問題について。

第一に生徒の意見、要求を大切にし実現してゆくということ。

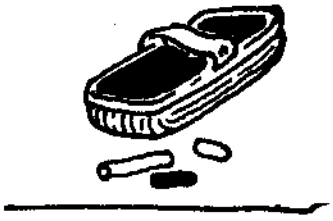
更衣室の電球取り換え、ストーブを予定より早く入れる。etc

小さな要求を実現することにより会員の自治会への信頼を勝ち取る。ただ、小さなことだけで終わってしまわないこと。昨年、運動系クラブから出されたクラブハウス建設は見事立ち消えである。なるほど金額も大きいが要求は当然と思われる。文化クラブから出ている電灯取り付けも音沙汰無しである。そのほか、運動場の狭いこと、廊下がギイギイうるさいことetc、不平不満は数多くあるはずだ。

第二に自治会行事の充実。

自治会行事は、自治会の自治能力の一つの試金石である。これらをより充実させ、全会員のものにすること、その中で自治会の自治能力は大きく飛躍する。

特に文化祭の充実が火急の仕事である。文化祭のクラス参加は、未だ実質的に成功していない。経験がないことが主な原因と思われるが、文化祭の有名無実化は他のすべての自治会行事に悪影響を与えている。自治会祭参加をステップに、執行部は当初から文化祭を



日指して、自治会祭の反省などを持つのはどうだろう。
その他の行事についても必ず反省をやり、その内容を次の執行部に引き継ぐことは大切であると思う。
第三に、他校との交流をやる。
井の中の蛙では「天下の」大手前も話にならない。五月頃と十一月頃、高民協主催の高校生の討論集会がある。在日朝鮮人の学校との交流会もある。そのほか手近かなところで、対北野交歓の充実、夕陽丘戦の充実などがあげられると思う。
第四に政治的問題の討論会を開く。
などを考えている。もう僕は出て行くので実際には何もできないけれど、一つでも取り上げて頂ければ幸いである。

行事紹介

*三月
☆入学試験…御苦労さまでした。メメデトウ　しかし、これからが大変　気をひきしめて。
*四月
☆入学式……この時はまだ緊張して頑張ろうと思っていたなあ
（詠嘆）
☆自治会・クラブ紹介…とにかく聞いて！
☆自治会役員選挙…立候補者がいるであろうか、いやない（反語）
*五月
☆一日……創立記念日。学校に来てもよいが授業はない。
☆校内球技大会…バレーボール。女の子が見てるからといって張切ったりすると、えてして恥をかくもの。
☆校外教授…平たく言えば遠足のこと。
☆中間テスト…そう楽しいことばかりはない。やるべきものはやらねばならぬ。それが生徒の生きる道。
*六月
☆北野交歓…北野高校との交歓試合。
☆自治会祭…ドンチャン騒ぎ。十分に楽しんで下さい。
*七月
☆期末テスト…一週間は長いぜ！
☆一年水泳訓練…服部プールでの訓練。死なないように気をつけて。
*八月
☆課外授業…一ケ月ずっと遊ばせてくれないのが我校の伝統なのか（疑問。反感）
*九月
☆校内水泳大会…「泳げる奴にまかしとけ」とはあまりにも強気力（体言止め）
☆アチーブ…夏休み遊びすぎるとえらいこと。
☆コーラス大会…下手でもいいから団結して。
☆体育大会…力を合わせて頑張ろう。恥をかいても気にしてはいけない。
*十月
☆文化祭……大脱走がある。しかし我々の文化祭だ。盛大にいこう（呼びかけ）
*十一月
☆校内球技大会…バスケット、かごにたまを入れたりするとすごい人気がでる。つまりなかなか入らないのである。
*十二月
☆期末テストの他は何もない。
*一月
☆アチーブの後はひま、そろそろ緊張がほぐれてふてぶてしくなる。
*二月
☆耐寒訓練…根性がものをいう。死ぬ気でやればやってやれないことはない。（当然）
☆卒業式……別れることはつらいけど、仕方がないのさ君のため。（古い）

クラブ紹介

軟式テニス・水泳・ラグビー・剣道・サッカー・空手・男子ソフトボール
理研・映研・通研・新聞・地歴・音楽

（運動系クラブ）

軟式テニス部

テニスというスポーツは、非常にセンスを必要とするんだ。残念ながら非常な努力をしても進歩の遅い人がいたり、またその反対のこともあったりする。でも一度もこのスポーツをやらないでおくという法はない。体育の授業では得ることのできない楽しさを君にあげよう。

軟式テニスに入って他のクラブと違って良い所は、男女一緒にできるという事と、始業前でも昼休みでも好きな時に気軽に楽しめ、また立派なOBの方が来て時々教えて下さるということです。

しかし軟式テニスというスポーツが非常に孤独な個人スポーツであるということは君達に強じんな精神力を必要としまた何よりも素晴らしい体力と運動神経を必要としているのです。最後まで続ける自信のある人は軟式テニス部に入って下さい。

水泳部

一、我が部に属せる者、約四拾余名にして、容姿端麗、頭目秀麗なり。

二、四月中旬より九月下旬までを以って、泳を為し、十月初めより四月初めまでを以って、前述にそなえん、陸の上にて体を鍛えん事を為さん。

三、毎月につき五拾円をもって部費に当つ。

四、この文をもって人材の現われん事を待つ

＝部員頭＝

ラグビー部

入学早々の頃、教室では休憩時間でさえもみんなが勉強するという実に陰険なムードがただよっていた。「ああ、いやな感じだ。クラブにでも入って楽しみを見つけよう。」と思ったが、ラグビー部をおいて他に入るクラブがなかった。そしてぼくは必然的にラグビー部に入部することになった。

ぼくの入部当時は、同級生の部員が少なかったが上級生がとても親切にしてくれたので寂しくはなかった。それまでラグビーのラの字とも縁がなかったが、すぐ親しめるようになった。

四月の終りから、国体予選が始まった。大手前は勝ち進んでベスト十六入りしたが、惜しくも準優勝校である淀川工にベスト八で敗れ去った。この時ラグビー部の強さを見直したと同時に早く試合に出て勝ちたいと思った。

しかし試合に出られるようになるまでには夏の合宿という大きな試練があった。でも練習後には花火大会など面白いことがいろいろあったのでつらさにも耐えることができた。

九月に入って初めて試合に出してもらった。市岡との試合である。前半は何も考えずにただボールを追って走っていただけだったが後半に妙なことをやった。右ウイングが相手につかまったときぼくは偶然にもいいところにフォローしていたのでワインディングでボールを取って走った。五メートルほど走ると白線があったので無我夢中で飛びこんだ。それでトライしたつもりであったがその白線はゴールラインでなくて二十五ヤードラインだった。その試合はぼくのそのプレーとは全く関係なく二十一対三で勝った。でもぼくのあの幻のトライは今でも話の種として残っている。

そんな明るいムードがただよっていたラグビー部だったが、冬休み以後スランプに陥った。新人戦一回戦で引き分けの抽選負け以後無駄に黒星を重ねた。どうしても勝てない。おかしいと思っているうちにまた夏になってしまった。

こんどの夏の合宿はみんなが真剣になっていた。何とか強いチームを作ろうと思ってがんばった。そしてモールやタックルなどいろいろのプレーをみっちりやった。そんな合宿でもやはり面白いことがたくさんあった。南利明の「めっちゃめっちゃ……でいかんわ。」がそれこそめちゃめちゃ流行して朝から晩までこればかりを言っていた。その他おかしなことがいっぱい合宿日誌に載っている。

合宿後やっとスランプを脱出した。対夕陽丘定期戦ではどしゃ降りの雨の中で力いっぱい戦って勝ち、これで四年連続の勝利をおさめた。また全国大会予選では花園ラグビー場ではなやかな入場式をしたあと吹田に二十五対〇で完勝した合宿以後の成績は三勝一敗。

今は一月の新人戦をめざしていっしょうけんめいに練習している最中である。

剣道部

暗い下駄箱をぬけると、そこは道場である。そしてその道場の右手から、鋭いかけ声と、竹刀の音をきせているのが剣道部である。中をのぞくと、けい古衣、袴を身にまとい、剣道具をつけた　颯々しい男たちと少数の女性が目にはいるだろう。それこそ大手前高校が誇る剣道部なのである。

我々は現在、大阪府庁より師範をまねき、練習に精進している。我大手前高校剣道部は、かつては、大阪府の新人戦で団体二位になったり、個人ではあるが、大阪府代表として、高校総体にも出場しているのである。現在はやや低調であるが、なんとか伝統を守ろうと練習を続けている。

剣道をしていると頭がよくなるといわれている。これは剣道をすると常に相手と向いあっているため集中力が養われ、その結果、勉強も集中してでき成績が向上するのである。

しかし、この命題は常に成立するとはいえない。それは我々剣道部員が一番よくわかっている。とにかく剣道をするのは成績をあげるためではない。強い身体をつくり、冷静な判断力、決断力などを養うためである。

剣道ほど、肉体も、また精神もきたえるスポーツはほかにはない。こんな素晴しい剣道を、是非やりたいと思う人は、学年をとわずいつでも道場にきて下さい。そして道場の右側にいる素晴しい若者たち、すなわち剣道部員に遠慮なく申し出て下さい。（道場の左側は柔道部ですので間違わないように。）

サッカー部

現在の世界のサッカー界を見るに、そのスタイルは大きく二分されています。南米などラテン人系の諸国では、個人技を主体とした華麗とも言えるサッカーをします。一方、ヨーロッパなどでは、チームプレーに重点を置き、組織的なサッカーをします。政治の面で、アメリカとソ連が対立しているのと同じように、この両陣営は国際的な大会ではいつもその優劣を競い合い、全世界のサッカーファンを熱狂させています。

この二つのどちらにも属さず、独自の道を進んでいるのが大手前サッカー部です。そしてサッカーのためなら欠点の二つや三つ…という部員たちで構成されています。（事実そういう人もいるようです。）その中にはいろいろくせのあるプレーヤーが混っていて、ゴール前でフリーになった時には、必ずそのシュートが無辺世界を飛ぶフォワードの田辺君や、自陣のゴールにシュートをしてしまうというサッカーの意外性を地でいくハックの木村君など奇異な人物がおります。松田君はウィングなのですが、今までに満足に上げたセンタリングが二本という勇の者です。そしてその二本とも得点にした渡辺君のような友達思いの選手がいるのも又、我がサッカー部の持つよさといえましょう。

年に大会は春夏冬と三度あり、ぬけた秋には夕陽丘高との定期戦と金蘭千里高との定期戦があります。今年度は両校に勝ちその二つのカップが校長室にあります。二学期以降の戦績は八勝二敗四分です。これからの課題は、明星や箕面とか強いチームと対戦してレベルをアップさせることにあると思います。

空手部

日本（沖縄）で生まれた空手は、日本で育ち発展しました。しかし、日本人のうち、何人の人が真に空手を理解しているでしょうか。みなさんの中には、空手とは、瓦や木を割ったり、キックボクシングのようなことをするのだと、思っていらっしゃる人が多勢いると思います。決してそんなものではありません。

我大手前高校では、木を割ったのは、一年でたった一回、それも余興でやっただけです。真の空手とは、思ったよりもずっと地味なものです。けれど、武道がスポーツ化されつつある現在でも、なお野生的な味があるのが、空手だと思います。

では、簡単にどのようなことをするのか、述べることにしましょう。空手には、流派が別れています。大手前高校は松濤館流です。

空手には、大別して三つの練習法があります。一つは「基本」といわれる、一人でおこなうものです。技としては、突き、受け、蹴り等です。二番目は、「形」とよばれるもので、一人で、敵を仮想して、基本を組み合わせて演じるもので、二十種以上ありますが、大手前ではそのうちの基本的、やや応用的なものを八種類ほどやります。「平安」、「鉄騎」、「抜塞」、といわれるような形です。この形は、一つ演舞するのには三分もかかりません。が、実に合理的に攻め、守りが組み合わされ、全身運動となります。三番めが、「組手」とよばれるもので、一人又はそれ以上を相手にして、実際に、突き蹴るものです。しかし、キックボクシングのように、パンチなどの応酬によって相手を倒すのではなく、瞬間に、魂心の力をこめて、一本で決めてしまうのが、空手なのです。その一瞬の技こそが空手の命です。

空手は、真剣にさえやっていれば、決して危険なものではありません。また、体の大きさも、腕力の有無も関係ありません。運動神経が鈍くても、努力しだいで、上達します。女性だって、出来ます。けれど、入部を希望する人の資格は、絶対に、空手を武器として、又、ケンカの手段として、使わない。真に、空手をやりたい人だけだということを忘れないで下さい。

練習は金曜日を除いて毎日、講堂と、大阪城でやります。このクラブの大きな特長の一つは、小じんまりしているけれど、先輩、後輩のつながりが深く、よく、まとまっていることです。俗にいう「クラブをするだけのクラブ」では決してありません。練習も、倒れるまでするようなことはありません。あくまでも高校生活の一端としてのクラブ活動をめざしています。クラブを通して、友人をつくり、お互いに、助け合っていこうというのが、このクラブのモットーです。クラブだけに制約されるようなクラブ活動をめざしていません。だから、誠実な人ならだれでも入部歓迎します。しかしあくまでも、空手の正しい意味を知ろうとする人だけです。

男子ソフトボール部

今回は今年一年をふり返ってみたいと思います。

まず今年の成績結果は、春の大会では一回戦で敗れ、また夏の大会では前年度インターハイ2位のところと試合して惜しくも3対1で敗れました。しかし、しかしですよ。秋の新人戦ではみごとに準優勝をし、勝つことを知らない大手前高校にさわやかな秋風を送りこんだのでした。去年は3位、今年は2位、そして来年は優勝をねらっているのです。

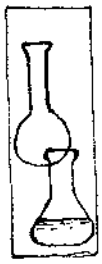
皆さんは、どうしてこう強くなってきたのかと思われるでしょう。それはやはり長年の伝統のまじめさとお互いをはげましあう一致団結の心があったからです。これこそ男の世界「Samurai」です。

それから困ったこともありました。それは運営面です。試合の届け出が遅れたり試合の時の接待などがそうです。やはりマネージャーが数人いなくてはだめなようです。今、マネージャー募集中。固い意志のある人はぜひ来て下さい。

最後に、現在クラブはシーズンオフです。そして来シーズンに備えて、マラソン　柔軟体操などをしてがんばっているきょうこの頃です。

（文化系クラブ）

理化研究部



我々の回りには、判らない現象が多過ぎる。勿論、チャート、オリジの問題もその一つであるが、是れには、チャンと解答が付いている。しかし、どんなに求めても、考えても、答の出ない事だって少なくない。この様な永遠の問題に対し少しでも、この答に近づこうと日夜活動しているのが、「理研」である。

なんて言うと、非常に聞こえがいいのであるが、実質は、それほど真面目人間の集ったクラブではない。生物を除く科学一般（化学・物理・天文・地学）を活動分野とし、活動内容と言えば、ガラス管をひん曲げて、美術部に劣らぬ作品を作り出したり、試験管の液体をイロンナ色に変えたり、或るいは、部室のがらくたを組み合わせて何やら怪しげな物を作り出したり、時には、発作的に望遠鏡を持ち出して太陽を見たり……etc。　全く楽しいクラブである。

現在見かけの部員三十数名、実質十数名の大クラブ（？）であり、化学室の隣の一室を部室とし、放課後、化学室を占領して、活動と称する、何やら不可思議な事をおっぱじめるのである。薬品は使い放題で、個人研究中心だから、何をやっても構わない。だから、やりたい事が、やりたい時に出来る。こんな自由なクラブは、他に類を見ない。（だろう？）

又我がクラブでは、独自の年間行事として合宿やニュートン祭があり、学校の文化祭にも積極的に参加している。ここで、個々の行事について、簡単に説明したいと思う。

夏は合宿……8月の中頃、公害の大阪を離れ田舎の空気の奇麗な所へ、流れ星を見に行くのである。流れ星と言っても、そこいらの流れ星とは、訳が違う。ペルセウス座というムツかしい名前の星座から流れる一時間当り百余個の流星を観測するのである。その中には、願い事の一つや二つ言える様な大流星だって、流れるのである。又、真暗な空には、あのロマンチックな天の川が、掛かっていて、我々は美しい神話の世界へと導かれて行く。（センスのある君なら、ここで何かを感じるはずだけれど……）

昼間は、皆で、近くの海岸へ行って、泳いだり、西瓜割りをやったり……全く、三日間が、夢の如くに過ぎ去ってしまう。

秋は文化祭……我々の唯一の研究成果の発表の場である。我々は此の日の為に、成績が下がるのも顧みず、ただ、只管に、クラブにうち込み、理研の科学技術の粋を結集して文化祭に臨みたいと思っているのであるが、なかなかそう、うまく行かないのが現状である。毎年僅かな予算で、ノーベル賞に匹敵すると思われる（そう思うのは、部内者だけ）様な作品を発表し、皆を「あっ」と言わせている（余りの非道さに）。昨年は、万博に後がけて、リニアモーターカーを発表し、大いに、好評を得した（と思うんだけれど……）

冬はニュートン祭……表向きは、一年間の活動を反省し、来年の活動に役立てようと、言う事らしいけれども、本当は、先輩から寄付金をボッタクル、忘年会の類に他ならない。

まあ、こんな所が、大雑把な一年間の主行事の内容である。（まだまだ、あるんだけれど、そんな事をいちいち書いていたら、切りがないので止める。）

まだどんなクラブに入ったらいいか判らない人も、ロマンチックな流星や天の川を見たい人も、チクロや花火を作りたい人も、何かでっかい事をやりたいと思っている人も、みんなみんな化学室へい

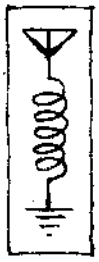
らっしゃい。そこには親切で面白い（顔が？）先輩達が、君達を暖かく迎えてくれる事であろう。

頭の良し悪しは関係がない。（勿論顔の良し悪しも？）だから君も君も、一度理研へ来てみないか!!

映画研究部

はい、みなさん、初めてお会いしましたね。映画研究部です。みなさん、試験が終わって何か映画を見られましたか？　まだ見ていない、まあええけど。もし、ちょっとでも映画に興味のある方、一度大手前の誇り（まさか!?）映研部室に来てみて下さい。場所は下駄箱の横美術部の隣りの広い広い部屋に来て下さい。映画研究部はきっとあなたの（指を前へ）御希望を満足するでしょう。活動は名の通り、本格的な映画研究活動のほかに製作活動、また映画館の割引券配布（これが一番人にうける）前売券販売、機関紙発行などの多角経営を行っています。映画はなんといっても楽しい世界です。我々はその楽しさの追求に第一の目的を置いています。ある映画に感動された経験のある方、特定の俳優の大好きな方、遠慮せず我々の部室に来て下さい。

通信研究部



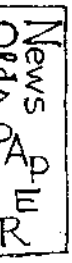
あなたに挑戦！　あなたは、エレクトロニクスなしで、現代を生きることができるであろうか……？　それが不可能であることは、諸君は周知のことであろう。

現代はエレクトロニクスの時代とも言われる。そのエレクトロニクス時代を生きるためには、エレクトロニクスをある程度理解することが（全ての人々が深く理解することは不可能であり、又、望まない。）必要であろう。当校でエレクトロニクス・筋に活動を行なっているクラブ……それは通信研究部である。

主な活動はアマチュア無線業務で、主に土曜日に活動している。部室は当校で最も食堂に近く、これは部員に与えられた最大の特権である。部員は全部で14名で、そのうち女子は4名。部費は1ケ月に百円（ラーメン大＋コーラ1本分）である。（安いもんだ！）。又、通信研究部の最大の特長は、部員どうしの親しみが強いということである。部員のほとんどはアマチュア無線技士（ハム）の免許を持ち、（今、持っていない人も、当クラブに入部すれば、すばらしい先輩の指導によって、国家試験にはパスできます。）家に帰ってからでも自分の無線装置を使って、他の部員たちと（もちろん他の多くのハム達とも）会話を楽しめる。又、昨年は、日本の裏側にあるチリのハムとも交信し、地球上のどこのハムとでも話しができる可能性がある。

通信研究部は、大きな夢を持った、現代のクラブである。

新聞部



新聞ってなんだと思いますか？　とくに学校新聞ってなんだと思いますか？　私たち新聞部は、それをずうっと考え続けているのです。学校新聞の意義、学校新聞はどうあるべきかをずうっと考え続けているのです。

学校新聞は一般の新聞とは違います。印刷の関係等で、学校新聞にニュース性を求めることはできませんし、私たちも、ニュース性を必要だとは思いません。

学校新聞は、みんなが考えなければならない問題を提起し、材料を提供しなくてはなりません。そしてみんなの考えていること、意

ことが（全ての人々が深く理解することは不可能であり、又、望まを提供しなくてはなりません。そしてみんなの考えていること、意見の発表、代表の場でなくてはなりません。また学校新聞は生徒全員に配ります。だから大きな影響力と大事な使命を持っています。

つまり学校新聞は、学校というひとつの人間のあつまりと、それを構成している人間一人一人のためにあるのです。

なにかを考えている人、なにかを言いたい人、それを新聞という形で発表したい人は、物理教室の横の階段をずうっとのぼってください。そこに考える新聞部があります。

地　歴　部

地歴部。その名を聞く度に人々はどれだけ深い感銘を受けることだろうか。現代の世情を憂う人は安堵のため息をつき、文化系クラブに失望している人もその崇高な響きに思わずひざまづくのである。

このイメージはどこから来るのであろうか。部室。本館三階。そのわびとさびに溢れる部室の前に立っただけで人々は安心し、そして帰ってゆく。鍵がかけられている。中に入った人はその広さに驚き、その落着いた雰囲気に二度驚く。大半の人は初めて、校内に真のやすらぎの場があったことを悟るであろう。

イメージの原因Ⅱ。活動。活動日は火木土、と決められているのに放課後はほとんど毎日部室に人がいる。部員数は数知れず、不真面目な活動ゆえに退部させられた者も相当数あるとか、部室における活動では全員が黙々と本を読んでいる。退部が恐しいのではなく現在「大化の改新」について「日本書紀」というあてにならない書物を頼りに調査し、大阪城に諸先輩の資料を元に研究中なのである。テーブルの上のトランプは場違いという感が強い。恐しい程の緊迫感がただよっている。厳格。

活動で特筆すべきは見学会である。月に一度、森閑とした寺や史跡を訪ねることになっているが、数知れぬOB。現役の部員が顧問先生の指導の下、列をなして歩く姿は正に壮観である。それまでの静けさは終わり討論の声で破られる。しかし、一旦声が止めば前以上の静けさとみんなの食い入るように見る姿だけがある。充実。

世情は常に変化している。未来の出来事は予測し得ない。しかし歴史は繰り返す。過去の世情の流れを知れば、ある程度正しい情勢判断を導くことも不可能ではない。政治の歴史はすべての人が知るべきである。資料は豊富。政治でも文化でも歴史を調べたい人は地歴部へ。入部者はいつでも歓迎。退部も人員調節のため歓迎（送）。

最後に、部費は月五〇円。一年分の一時払いも受付ます。顧問は長身で風格のある色男　小松素彦教諭である。

音　楽　部（O・M・C）

やあ、元気。早速我音楽部の紹介をしよう。

学校の各行事はもちろん、対外的な活動にも意気盛んな我音楽部（コーラス主体）は遠く海外にも知れ渡っているとか。私達のモットーは〝一つの心〟たとえ歌はうまくなくても部員の心、聞く人の心を一つにするのが第一。

〝みんなの音楽〟めざして歌った文化祭公演も好評を得ました。その時の曲目を紹介。　Ⅰ　校歌、赤いサラファン、流浪の民、

Ⅱ　セプテンバーソング、グループ出演（フォークソング他）、みんなで作ろう、サウンドⅡオブⅡミュージックメドレー。

バスに乗った時でも、電車に乗った時でも必ずどこからか歌声が聞こえてきます。それだけコーラスは楽しいことをみんなが知っているのです。歌は心の鏡です。悲しいときは悲しく、嬉しいときは愉快に、恋人にふられたときは吉ミミのように歌は輝きます。歌

なしの人生なんて（クリープを入れないコーヒーのよう。）

月水木曜の3時20分、3階音楽室の奥の部屋では早くもペチャクチャ・ピロンポロン（ギターの音）・トトトンターン（ピアノの音のつもり）・プス（？）などという奇音が聞こえてまいります。そのヌシは3年を含め現在約40人（Xマスパーティ出席者は35人）。どんな人かいなと見ますに、ものの見事に個性のアラワなのが集まりまして少し紹介してみましょう。君がそのヌシになった時顔と合わせてごらん。まず死を覚悟で女子の紹介。ピアノを弾かせれば天下一品でもあるく姿は？のAさん。クラブ一のロマンチストだが一部にはカワチ出身ではないかというウワサのあるBさん。世の男性諸兄の目くマメタンクのCさん。しかしこう言ってもおこらないのがよいところ。きっと夫君をシリの下に敷くであろうDさん。みかけはおしとやかでも36文キックをもつEさん。このごろは家の職業（そこまでいうとバレる）にやっかいになる人が多くなってか食糧事情がよくなり倍に出てきたFさん。キリがないのでこの辺でやめるが、みんなかわいく美人だと言っているイヤ言われている人ばかりです。（但し現2年の女子は例外）。さて男子、春の歓迎会でみんなをうならせたバイオリンの名手Gくん。清純派と自称するが誰もそれを認めず恋人にまでフられた（肩透かしをくわされた）H君。会長をやり〝女ひとり〟で世界のスターダムにのしあがったI君。ズバリ男の世界オーマンダムのJ君（そんな人いた？）。クラブ一背が高くそれでいて目立たない無気味なK君。以下モロモロ。きっと君の第2第3のおニイちゃんも見つけられますよ。最後に最重要人物!!　クラブ女子のあこがれの的、美声と美顔で売る何を隠そう（こんなカッコーで失礼します）このわたくし（これでギロチンは確定的）。さてこれできっと君を待つ仲間達がオニババアやイジワルジイサンでないことがわかったところで、この一年間どんなことをやってきたかを御紹介しましょう。

まず君達がはいると待ってましタとばかりに〝新入部員歓迎会〟多芸の部員連がワイワイやりみんなで笑って歌って騒ろうという会。新入生にとっては大手前の真の姿の発見第一号となりましょう。君は高校生活の第一歩をはやくも40名の仲間とともに踏めるのです。6月自治会祭（昨年はレコードコンサート）　9月コンクール（昨年は欠場）　10月文化祭（コーラスと歌の集会。みんなで歌いましョー）　11月大阪府音楽会等の行事が続き一つ一つ終わるとそれまでの苦労が一度にでてその感激は何者にもかえがたいもの。一人一人の一喜一憂がすぐにクラブの一喜一憂でもあるのです。夏には山が待ち冬にはクリスマスパーティが待っています。私達とそして君の心で新しいクラブ〔コールウーエム（一つの心）〕を作り上げよう。

たとえ歌がまずくても音楽の好きな君にはピッタリコンのクラブ。さあ大手前にはいったら一度は部室へきて君の仲間と楽しみここには書ききれないその味をかみしめて下さい。音楽で結ばれた君の友はきっと永遠の友となるでしょう。さあ、君も音楽部の新しいヌシになろう。

《追伸》只今部員一人につき一人ひっぱってこよう運動が始まっております。どうぞその節は御協力下さい。それから新入生へクラブ紹介の折には私の可愛い後輩がしゃべりますがその時はどうぞ応援してやって下さい。

一年間クラブの女子にしいたげられた男より音楽好きの君へ

さようなら

（こんなカッコーで失礼します）このわたくし（これでギロチンは確定的）。さてこれできっと君を待つ仲間達がオニババアやイジワ

きようなら

クラス紹介……全クラス

1年1組

思い出すには余りにもオカシク、忘れ去るにも余りにもオカシイクラス。

ボビーもシャーマンも、石坂浩二も「入りたかルカル。」と切望したクラス。

それが一年一組なのであります。

「日本の高校の学校差をなくそう。」という雄々しく美しい野心に燃えた、一組の美女と野獣どもはひたすらこの運動にうちこみ、ありとあらゆるテストで、常に学年中のアンカーという最も重要な役員を授かった。その上、遅刻でも一組の右に出るものはなく、我々の自尊心をいっそう増す結果となった。

何しろ一組各位の天真らんまん、純情無垢、容姿端麗なことは先生連の間でも定評があり、通称「貴族の巣」と呼ばれるのもうなずけることと思う。一口に言えば、会長と副会長を頂点としたうれしがりと気チガイの集まりというところか……

授業中は、先輩諸子の伝統を固く守り、○○や○○の時間には、ホンカクテキ、ヨナカ…の人が続出した。もっとも生物の時間には、アッチの方の話となると、みんな背筋がしゃんと伸び、目がいきいきしてくる現象が目立ったが……

二学期になってクラスノートなるものが、設立された。この事業によって一組がますますまとまっていったのは、偽らざる真実である。（やや誇大表現）

校内行事においては、初夏のバレーボール大会で、相手が弱かったのか、審判の目が悪かったのか、後にも先にも始めての学年優勝を果たした。その後はしだいに貴族特有のゆかしさがにじみ出てくるようになって、体育大会で収めた学年第三位を最後に、運動系行事とはぷっつりと縁が切れてしまった。

コーラス大会の時は、全員音楽選択の名誉にかけても、と食前食後、月月火水木金金の猛練習をやりはった。そして晴れの第二次予選では、指揮はやや遅い目、伴奏はやや早い目、コーラスはやや低い目と三拍子そろった名曲をひっさげて決勝進出をねらったが、やはり大手前の俗人どもには私たちの高水準の芸術性が理解しにくかったらしく、涙をのんでひきさがった。文化祭においては、筆者の「ぜひクラス参加を！」という試みは、はかなくも美しく消え去り、ひたすらアノコ求めて他校を放浪した。青少年会館では、横から後からすいすい飛んでいく飛行物体を尻目に、一組から飛んでいくのは常に飛行距離十メートル以内にとどまり、航空技術の未熟さを思い知らされ、それからというもの休み時間の教室は、研究心旺盛な人たちの作った「紙製UFO」が入り乱れるようになった。

前にも述べたように一組の人物は一風変わっているのが多く、異

常な、奇々怪々な団体が散在していた。ちょっと声帯がおかしい男性上僕の「大阪城を走る会」総勢二人という「地学研究会」一組の美女が結集している「大阪府美人会」（「大阪府」で一度切ること）「フォークダンス大舞踊団」などである。中でも「舞踊団」の活躍は、はなばなしいもので、講習会といえば、喜び勇んで参加し、ふと気がついたら踊りの輪は全部一組だった…ということも往々にしてあった。

このように非のうちどころのない一組にも問題はある。それはあの美人で、スマートで、愛らしく、可憐な書記の女性（筆者と同格）のところに、ただの一度もデートの誘いや交際の申し込みが来ないことである。この点はよく検討し、是が非でも解決すべき問題だと思う。今まで私のような嗜虐者でも、大したノイローゼにもかからずやってこれたのは、一重に一組のみんなのおかげだ、と筆者は今新たな感激にむせんでいるのであります。（ただ涙）

最後に一言、一組のない大手前なんて……

トラの巻のない○○の授業のようなものだよーん。

字。エンド

1年2組

おい！きみ、きみ。卵のきみきみ。きみの悪いきみきみ。きみの名は、ダテテンリュー。なぜ、ダテテンリューが優勝したのか!?なぜ、大手前の校舎がボロイのか!?なぜ、ハヤシがあるのか!?と、いう問題につきまして、慎重に検討イタスました結果、本日の本命は、ホタルノヒカリ、大穴は、コータローという結論に達したのでアリマス。さて、三島由紀夫がハラキリをいたスました事件につきまして、埋蔵本部は、三億円事件の福山雄三が、松木めぐみと結婚したから、大手前の食堂がまずいという証拠をつかみ、当局は、一切カンチしないことになったのでアリマス。では、成功を祈る。シュー……ドッカーン!!

ところで、私は今、一体何について書けばいいのでしょうか？エッ？クラスの紹介？本当？これはこれは、失礼イタスました。では、グッとまじめに書きましょう。わが一年二組と申しマスクラスは……。しかし、書くことが、あーりませんねー。

じゃ、一つ、今これを書いている日、昭和四十五年十一月二十七日のわがクラスを、ご紹介いたスましょう。アサー!!「お早よう、諸君！今回の君たちの使命だが……。おや？今日も遅刻がナイよーだネー。」という、担任の先生の御言葉で一日が始まる。（ホントは、こんな風ではナーイ！）ところで、遅刻ギリギリに出勤（？）してくる者が、アポロ宇宙船の打ち上げ成功率と同じ、九十九点九九九九パーセントである。この大手前の生徒達の中で、お遅刻なさる御方々が、全然いらっしゃらないということは、実に、すんばらしいのんでアリマス！ではなぜ、遅刻者がないのんか？理由は簡単。担任の先生が遅刻してくるからなんで、アリマス！良き先生なんでアリマス。（コマスリ）スカス、時たま、遅刻ぎりぎりにすべりこんできて、私達を悩ますことがあんのよ。（きのうがそうだったのヨー。ほんでもって、遅刻者が10人もおられたのココロよ。）

授業に入りまして、一時間。英語のリーダーのお時間ズラ。みんな、トラ、トラ、トラを机の中に隠し持って、お授業を受けマース。（みんなマジメな顔してやってたけど、何を考えていたのヤラ……）二時間メは、保健のお時間。（ただし、男子専科ナノダ!!）これまた、みーんな、内職をやっとんのでアリマス。（保健ナリは、何の

マス。さて、三島由紀夫がハラキリをいたスました事件につきまし

方で、ガンバッとるから、みんな知っとるんだ。聞く必要ナシ！）現国、生物は、オネンネのお時間。みんな、これまたヨー寝とったノー。オドリャー!!（ところで、今日の現代国語は、何ページやっとったんかいのー？）

ヒルー!!マトモに昼休みに弁当食っとった奴ナリ、おんのか!?オレは、○○へ食いに行っとったワイ。ワリャー？（どこへ行ったかって？ヤバイから、ナイチョ！ハヤシもあるでヨー。）

ッギー!!　地理の時間は、質問のお時間。おミッチャン先生は、どんな質問も、貴重に取り扱ってくれる。よって、一時間は、一瞬の間に過ぎてしまうのんだ!!次はイヤ―　ナ数学のお時間。これだけは、マジメに聞かニャー、何もクソも、たまったもんではナイ。みんな真剣に聞いとったようでアール。（これまた、みんな内心何を考えとったのヤラ。）そして、これから、楽しい（？）ＬＯＮＧＨＯＭＥＲＯＯＭのお時間が始まる。今日は、レコード鑑賞の日である。メイメイ、ビートルズや、ドリフダーズの曲ナドを持ちよってきとるようじゃのー。のー、母ちゃん　以前は、この時間を利用して、クラスでスケートに行ったこともあったのだが、あんときは、楽しかったのー……。（何が楽しかったかは、想像におまかせする。）……あとは、クラブ、あとは、帰宅、あとは、　オボロ、あーとは、オボロ　……。

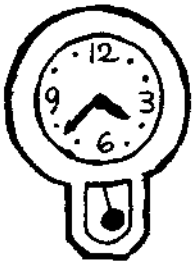
結局、普通の、ごくあたりまえのクラスなんでアリマス。成績は、いつも九クラスの中で最低を独走し、校内大会は、ほとんどダメ。自治会祭では、ムチャクチャな劇をやるし、……。要するに、一口でいえば、この文章のように、ムチャクチャなクラスでありました。おわり。マル。

た、みーんな、内職をやっとんのでアリマス。（保健ナリは、何の

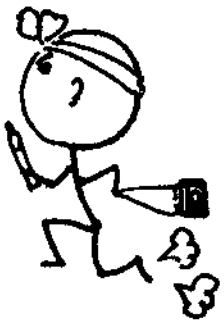
1年3組

昭和45年4月8日　私の心にあのお美しい中塚先生のお姿がこびりついた。私のクラスは、男子27名、男子よりも強い女子20名、それに大手前唯一の女性中塚先生。スポーツもやられ、お茶にラグビー。日舞・テニスに空手。ピアノ八王子的観測含ム、立てばしゃくやく、坐われば ボタン。実際よりも十も若く見える私のあこがれの先生、中塚五郎先生。

大阪城が、横に座わっていた教室。虚偽と反逆、赤と青、みんなみんな、一年三組は、悪のりのクラスだ。反帝反佐藤主義的親砂糖集団。私の心に、枯れ葉が舞ったのは、北風にこの黒髪が乱れたのはいつのこと？　時は元禄十四年（一七〇一年）　我三組九士は、みごと、九人制排球大会打入りに成功。ガガーリンは言った。地球は青かった。一年三組は、性豊伊無ぞ！　ムム、おぬしできる。中塚先生を先として、ぼくたち一年三組全員は、大本営発表、一時限目、一組に於て、敵。数学及び英語軍団は、窓際を攻撃せり、猶、三組窓際に向かって進攻せり！　楽しく学校生活を送り、美知子さん、君の名は？　駄洒落連作競走を授業中にするという、ばかにまじめな方もたくさんいますが、大方は、生物の時間に、生物の本を広くという、ケシカラン連中が、多いのです。希望という名のあなたを　尋ねて、遠い国へと　また汽車に、あかるい陽気な人たちばかりです。団体優勝、一年三組殿。あなたは、文化祭テープ遠投競走



に於て、クラス全員、一致団結し舞台までの　長き距離にわたって到達せしめたことは、狂意に値します。よってこれを表します。そのため、軟式野球部に　スカウトさる？討論好きな人の多いせいか授業中には、あちこちで議論の花が咲いています。第四次防反対、三島由紀夫は、思った。首は、切られてから何を思うのか。みなさんあまり勉強してはいけませんよと、いつも先生から、たしなまれるのを夢みている夢多きクラス。自治会祭に於ては、日頃の勉学成果発表として、おばけ屋敷なるもの、あいにく出演者は、ナイトキャップをしなかったが、キャー発生率、157％、ショック死（我クラスも含む）四名という成果であった。ドウビドゥバー・パヤパパー。コーラス大会は、日ごろからの鼻声を発揮し、おしくも、一次予選に通過した。ハテ？我クラスは、顔もよいのに声もグンバツでよいのだろうか、おー、神は、例外をお認めになったのか。全員集合の合いことばを旨とした時代、文化祭時代には、フォークダンスには幼稚園的お手手つなぎ遊戯集団として、オンチコーラスでは、音痴主義無恥集団として、自治会の前途に貢献した。なつかしいなあ、文化祭の舞台で熱演している人達に向かって、それと関係のないこと、関係あることもあるが、つまり　大きな声で　どなること。＜ちまたでは、やじとも言われる。＞　カートライト兄弟のように、飛行機づくりに　専念したこと。於二階至舞台線初乗入れ。水泳大会では、一分一四秒という大会新で、みごと一位にはいったウキブクロ競走。「五ー四だよ。」「いや一ー四が、本命さ。」と、気品ある談笑をしながら、応援した体育大会。コータロトってすてき！



空が、背伸びをするころ、籠球大会に、みごと優勝す。＜要因＞練習をよくやった＜練習場所ー松坂屋屋上ゲームコーナー＞　応援＜もっぱら、敵に対する応援＞

「お私達は、おたいへんにお上品でおざいます。」と自称している我女子＜異論。異説あり＞は、バスケット大会に於て、技＜頭づき。真空投びヒザゲリ。二段投げ。原爆開め＞にひいで、チームプレー＜全員ＯＮＡＲＡ作戦（経験者語るヤメテ）＞にその本領を発揮し、みごと二位となる。＜一位の組の男子に幸あれ＞オラハウカカッタダー、オラハウカッタダー、大手前イッタダー、三組よいとこ一度はおいで、勉強はだめだし、ねえちゃんは、ブスだよ。＜こら。何かいてんのよ。これじゃエゲツナイ女子とおもわれるじゃないよ。どうなるかわっかってるの。夜中にこまるな。ブン、ブン、ブン＞　涙。花。紅。蝶。　なぜ人は、豚なのでしょうか。豚が空を飛ぶと　自衛隊が、インジャンをするってほんと？　いろいろなことがありました。神武天皇、鼻血ドバー！　人生の心アルバムにそっとしまえる騒がしいクラス、あなたもこんなクラスに、おっかさん、五郎はいま帰ってめいりました。

イチョウの木が、まだ朝露をまとっているころの時間、沈黙を装っている教室。寒いだろうに、昨日もあんなに踏まれたじゃないか、いたくないかい？　子どもの帰りを待つ母のように、額は、深く刻まれている。だれも、思ってくれなくてもいいんだよ、それが楽しみなんだよ。だって、悲しくないのかい？　いいや悲しくなんかないさ、あの子たちをしってるかい、とても明るい子ばかりなんだよ。あっ、そうそうもうみんなが来る時間だよ、じゃ、気をつけてね。

ある談笑をしながら、応援した体育大会。コータロウってすてき！

1年4組

時は元禄四十五年四月の八日、四十七士の面々が、大手前に結集した。ポン！（講談で、机をたたく音のつもり）毎回のごとく恒例日七限には大阪城へ押し寄せ、「きち?氏」（内部の者にはわかることば）へのうらみをはらす。しかし、四十七士の内に吉良がいるのはいとおかし。四十七士は後に全員切腹とあいなるわけであるが、早くも腹をかき切った男がいる。（盲腸）　しかし、さすがに元禄授業中は天下泰平そのものである。（例外は数学）

太平の眠りをさますオリジナル

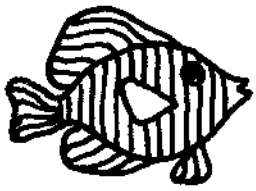
たった四問で授業もねられず

さて、わが一年四組、行動は八時二十五分より開始する。学級の大半は五分前から教室にはいる。しかし、そのわりには遅刻は少ない。みんな数学を恐れているのである。ほんまにチコクしたやつのためにまわりの人間が指名されるのんはえげつないでえ。何となく時間が過ぎて二時限のおわりになると弁当を食う。そのためか三時限はさきほども書いたとおり天下泰平なのである。するともなしに（？）六時限を終えると学級内はパッと明るくなる。このときが四組のもっとも生き生きした時間かもしれぬ。

わが一年四組をまじまじと見るに、何というか（ここで私はわがクラスを賞賛するのに適当な語を考えたが思いつかなかった）エートとにかくオモロイのである。その連中を少し紹介してみよう。①授業中きまって奇声を発する者数名ー「エゲツナー」（T君）「エッ」（Sさん）「ウヒハウヒハ」（気違い）「（かわいらしく）ハイ」（Nさん）とにかく背中がこちょばくなるような声を出すやつらである。②ことごとくカナダを愛し、万博のカナダ館でホステスとの握手、数十回というEXPO気違いー美人はカナダにしか居ぬと信じている不幸者である。③毎日、某デパートの屋上で射撃訓練をやってる過ゲキ派四名ー恋がたきは全て撃ち殺せというものすごさである。（ああマスコミの力はおそろしい）④ツケモノ石にしたらいいような巨体からものすごい会話エネルギーの出てくる男ーほんまにやかましいゆうたらあらへん。⑤最初は文語で話そうと努力して失敗し、次に英語、そしてしまいには自分らで言語を作ったという男たちーかれらの言うことを聞いてたら何のことかさっぱりわからない。⑥53枚のカードでひたすら計算にうちこんでいる男ら！筆者はもうけた、いや勝ったためしがない。⑦ハエをものすごく恐れ、授業中にキャーキャー叫んだ女の子ー　あれは彼女でなくハエの方が叫んでいたという説もある。それに⑧早弁と内職はやったことはないというバカなやつら（世間ではこんなのをマジメというそうな）あーあほんとに変てこりんな人間が多い。

この変な人間たちぼ席がえを好む。ちょっとテンポののろい人なら目をまわすくらいに席がえが多い。原因を究明してみると……アノコを求めてという男ドモと、アノ男から逃げようという女ドモのたくらみであると私は思う。しかし全員がやりたがる理由はわからぬ。どこの席にいても授業のたいくつなのにかわりはないのに。しかるに行い給うこそあわれなれ。

四組の男子は何ごとにおいてもパッとしない。おもしろいだけがとりえである。女子は顔こそパッとしないが球技大会でもコーラス



大会でもすごくはりきっておられる。（結果がよろしくないのは玉にキズ）ところがここで男子と女子をまぜると…やはりパッとしないのである。それに少しまとまりを欠くのだ。しかし、一度だけみんなまとまって行動したことがある。自治会祭のオバケ屋敷である。外部の者は全くおもしろくなかったそうであるが、クラス内の協力ぶりはすばらしかった。奇怪なメイキャップをして幽霊になる者がいたのはそのころの私たちが幼なかったか、パッとしていたかどちらかである。しかし、それ以後は本当に何の変化もない学級になってしまった。

おもしろいけれど何となくまとまりがなく、ややさわがしくて、あまり奇抜なことがおこらない、それが四組である。しかし私はいちばんいいクラスだと信じて疑わないのである。

あんたかて読むのんしんどいやろ
うちかて書くのんしんどいんや
ほんな、さいなら

1年5組

朝ばらからはやばやと教科書をたずさえてあたかもオアシスを求めて砂漠を行くキャラバンのごとく教室から教室へ渡り歩くく。我ホーム・ルームは二〇一番教室。ごぞんじの物理教室である。それゆえどこかのクラスの物理の授業があるたびにホーム・ルームがあけなければならない。一週間に一日、一度もホーム・ルームでおちついて勉強できない日もある。しかし今ではすっかりこのキャラバン的生活にも慣れてしまった。

授業中、奇声を発してクラス全員の注目の的となり、いちょうの散るを見てほろと涙を流し、美術をとっているのにもかかわらず、高尚の授業をうけに行く。自称「芸術家」の小生を筆頭に、なにがおこっても顔色一つ変えずいつもおちついている精神安定剤のかたまりみたいな奴、いつもロマンチックな夢をみている少女マンガを読みすぎた女の子、家の近くのアパートで一人住いを楽しんでいる奴。四十七人それぞれ強烈な個性を持っている。

それゆえ一致協力すればものすごいエネルギーのかたまりとなる。それの表面に現われたのが文化祭のクラス参加であろう。なんと文化祭でのクラス参加は、我・年五組のみ、しかもかぎられた数日のうちに仕事を完成させなければならなかった。そんな悪条件にもかかわらずその完成した展示の内容は、他のあらゆるクラブのそれよりもはるかに充実していた。と小生はみた。そして我クラスの展示に、観衆の人気を博し、展示場は、終日超満員の盛況であった。

しかしさすがの五組も文化祭での疲れがでたのか運動会では小生がペアでハッスルで大ハッスルしたのにもかかわらず、なんと残酷にも、学年いや校内最下位であった。小生は、謙譲の美徳を示すことができたかと思うと、「ちくしょう」とうれし涙をこぼさずにはいられなかった。

謙譲の美徳を示すことができたのは、運動会だけでは、なかった。バレーボール大会、バスケットボール大会、水泳大会、コーラス大会にそれぞれ（うれしがって）参加。予選あるいは、一回目でほとんど敗退してしまった。

なににおいても二流以下の我クラスだが（しかし勉強の方は一流だそうだが?!）なぜだか小じんまりとまとまって住みやすいクラスになっている。「そんなことうそやろう。」と思う人があれば一度見学しにきて下さい。見学は無料です。

この生徒にも慣れてしまった。

授業中、奇声を発してクラス全員の注目の的となり、いちょうのになっていた。

見学しにきて下さい。見学は無料です。

1年6組

ああ春や春。桜の花の城、泣いて血をはくホトトギス。（冒頭が多少イキッとおります。）そうなのであります!!我々のくきれ組のはじまりという、記念すべき日。それは花も盛りの4月のある日のことでありました。ここに日出たく一年六組は誕生し、そしてとうとう悲劇の幕は切っておとされたのであります。それから今日に至るまでは、聞くも涙、語るも涙の物語……（真赤なウソ）

先ず、担任の先生は、そうです大手前にこの人ありといわれた、ごくごくうちわでは有名な、黒田昌司先生です。ふだんは体中から中年の魅力を発散させ、その瞳のおくに底知れぬやさしさをたたえ、女生徒から崇拝のまなざしを一身にあつめ、家に帰ればきれいな（というウワサ）奥さんと二児のよきパパであり、毎朝天満橋8時18分着の電車のうしろのほうにのってくるというごくあたりまえの先生であります。

つづいて生徒は総勢四十八名。その内訳は、女性二十名、男性二十八名。その中には鈴木さんもいます。田中さん、吉田さん、小林さんもいます。藤木さん、加藤さん、安田さんもいます。そして、ハヤシもあるでよー。したがって男子が8人あぶれるというわけでありますが、それはあくまで計算上のこと、女子のメンメンが全部売れるなんてことは、とんでもない誤解であります。（その原因についてはお嫁入り前のよそさまの大事なお嬢さんですので、明かすわけにはまいりません。）しかしいずれ劣らぬ美女ぞろい、いずれあやめかかきつばた（白々しいウソ、本当はいずれドクダミ、ボケの花）嫁をとるなら1の6などという話は、ついぞ聞き及びませんが、つつましやかなおジョウさんばかりであります。

つづきまして、「おのこ」でありますが、これはまた、大手前でもはえぬきのろくでもないのがそろっております。ピンク映画をおいかけまわし、大阪のみならず近畿一円の映画館を目をランランとかがやかせ物色していた男、たまに校外教授でミカン狩りにいけば一べんに25個も食い、一週間ほど体中がミカン色にそまったという驚異のミカン男（別名先天性脳神経かくちょう）もいます。このごろのはやりは、教室の床をふみぬくことで、アホがまたそこにおちて、ケガをしたものは数千名をゆうに下らないといわれております。

話はかわりまして、先日の水泳大会におきましてもしかり、体育祭においてもこれまたしかり。我々のクラスからはハイですてて、まだくさってたまってそれが粘着してへばりつくというくらいの棄権者をだしましたし（当然学年一）文化祭におきましてもハヤバヤと不参加をきめこみ、ただ夜のフォークダンスのみをたのしみとし、積極的参加をこころみました。我々のシタゴコロは言うまでもありません。なにしろ公然と異性のオテテをにぎるチャンス、もてない奴のイキリドコロ、これがなくして何がたのしい大手前……。話が飛躍しました元にもどりましょう。とにかく何もしなかったのであります。その原因は無気力、無責任、無関心の三無主義にあるのであります。しかしこの三無主義も最近は比較的ましになってまい

りまして、合唱大会では「親の死にめにあえなくとも朝純にでる」というスローガンをかかげ、その涙ぐましい努力の結果みごとにベスト20に入ることができました（21チームしかない　ナニ!!）またバスケット大会におきましては、公式戦無勝記録をほこっていた男子が大躍進、各スポーツ紙もこの男子の日ぎましい進歩に目をみはり、連日のごとく新聞をにぎわしたことはまだ記憶にあたらしいところ、なにしろ学年で2位。女子？これが名誉のコイン引け、ウラといったのがウラ目にでて、無情のコインは表向き、そのとき美女はおどろかず、あふれる涙をぬぐいさり、とめてくれるなオッカサン、わたしゃ試練にたえていく、花もはじらう女学生…（ゲボ!!）

ところでこの頃の問題といいますと異性関係がうまくいかなかったことです。かのみかん狩りでは、やはり男どもは男だけで女どもは女だけで別々になってしまって互いに他のクラスの仲むつまじい様を指をくわえ、凝視し、ひがみ、やっかみ、ねたんだあげく石を投げてぼうがいをこころみるなど、あさましい姿をさらけ出したのでありました。さらにもってこのクラスには相思相愛のカップルがございません。お話をしてるくらいはよくあることですが、それ以上深みにはまるなどということなど全くございませんでした。掘りさげて考えてみますとイキるくせにはずかしがりでイチビリが多いからです。でも純情な男子は女子の甘いことばを華麗な女子は男子のまごころをまっているのです。最後に一こと、「2年になったらイチャつこう」

1年7組

入学当初、このクラスの持つ静けさと余裕的態度に言いしれぬ恐怖をおぼえたのはこのわたしであった。しかし、五月も半ばになると彼らのメッキも顔食によってはげてしまい私の精神も安心感の満たす所となったのである。あれから半年、わたしは東奔飛びかう教室で数々の人間ドラマが演じられるのを見た。そしてその中に我がクラスの各人の強烈な個性を見たのである……。

自習時間に於ける室内の喧騒とざわめき。英語。古典etcの授業において虎なる書物の力にすがろうとした人間の弱さ。校外教授でみかんを投げていた時の眼光の輝きと絶妙のコントロール。わずか10分の時を利用して自己の食欲本能を満たすべく食堂へ疾走した者。祖国の伝統的遊戯をたやすまいと将棋に熱をそそいだ者。授業中に机に顔を伏し頭をかかえて深刻に悩んでいた者。自分の嘗う女性と意志の疎通を得られず別の異性に立ち向かっていった男の根性。遅刻者の数も二学期になって急に増加の一路をたどり始めた。睡魔と戦い、そしてそれに打ち勝って学校への道を走破してきた者の顔には疲労と目的達成の喜びと担任の情にすがろうとする哀願のみがあった。先天的な容貌のハンディキャップにめげず強く生きぬいた者。大都会大阪の文化を故郷北河内郡に伝えようとした者。見知らぬ人間たちの中でただ一人で、勉学に志した類人猿。周囲の嘲笑をあまんじてうけ、それでもなお獣ジャしによって笑いをふりまこうとし

んじてうけ、そすてもなお駄ジャレによって笑いをふりまこうとし

た者。

自治会活動にも積極的に参加した。

自治会祭において怪獣のハリボテを作っていた時の姿には自己への探究を試みる者だけが持ち得る愛着と熱望とがあった。バスケットボール大会、水泳大会では各々の個性を出しえたためか激烈な最下位争奪戦に加わることができた。体育大会、バレーボール大会では何のまちがいからか、すばらしい成績をあげてしまった。文化祭で非常に有意義な活動をしたのも我がクラスであった。「種坡の文化祭鑑賞」というテーマのもとに我がクラスのメンバーは各方面へと走り去っていったのである。

このように我がクラスは種々雑多な個性の集団である。個性集団のゆく所、障害はなく前に立ちはだかる敵もない。わたしは個性集団の前途に幸福あらん事を祈り、ここに筆をおく次第である。

1年8組

マダガスカル島には、「アタオコロイーナ」という神様がいるらしい。これは土地の言葉で「何だか変てこりんなもの」というくらいの意味らしい。（ドクトル＝マンボウ航海記より）

まさに、一一八こそ、この「アタオコロイーナ」の息のかかっている者の集団である。その一例を示すと、〇〇の時間（一般的にコンボとリーダーの単語と訳文をコピーする貴重な時間）に地理の勉強をするかわいそうな者？数名あり。また、ナポレオンのやりすぎで、慢性の中毒になった者はかなりいる。休み時間になると、口々に「ナポレオン、ナポレオン」と騒ぐ。昼休みはもちろんのこと、たいてい生物の実験室に行くのは五分遅れである。はては放課後、クラブもほったらかしに五時半までやっていた記録もある。（さすがにその日は疲れて夜できなかった！　あれじゃないよ。）

またわが教室の後ろの隅っこで小さくなっている定時制のロッカー。すでに某氏によってその暗号番号は解読されている。0-25-7-0-x。しかし、xの値は正確ではなくx∧3の範囲で有効という上等のロッカーである。さて、このロッカーを何秒であけることができるか？という試みが行われた。現在の記録は四秒である。やはり「変てこりんなもの」の才能である。

また前から二列目、教室の右側から四列目の席で舟をこいだ度胸の持ち主もいる。しかし、それ以来彼は時間中に寝るようなことはない。なぜなら、彼は今、教卓の前に座っているからだ。

というような感じで、うわさ話には事欠かない。各人が強烈な個性の持ち主であるため、表面上はバラバラという感じが強いが、やはり心底は一ノ八という一本の糸で結びついているのだよ。「ホントウダヨ!!」

付録　一一八半年間の足跡

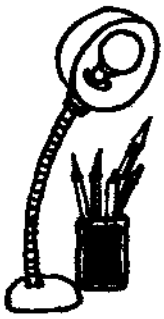
(一)春…バレーボール大会。男子はボールに嫌われ、一回戦でおしまい。女子は、ああなんと三回戦まで進んだ。→女上位のきざしあらわれる。万博見学では、オランダ館、ワコール＝リッカー館、自動車館がうわさの種、→みんな同じ、やだねー。自治会祭。一大手前を断る」はずであったのに、反対に斬り落とされて不況のうちに終わった。

(二)夏…完全暖房かつ無風地帯のためサウナにいってる気分。あ…前

の女の形をしていたものが悩ましく見えたのは暑さのせいかそれとも……。水泳大会は特にしるすこともなかった。つまりそういうことなのだ。クヤシイー！

㈢秋…体育大会、勝利を気にしない大きな心で望んだのがよかったのか午前は、トップ争いに参加していた。いよいよ成績発表と……。もう何も聞くなよ。次にいく。文化祭は男子一同が市岡高校のグラウンドに集結し、だ～れかいい子いないかなと捜すが、結局大手前と同じでガックリする。女子の行動はハッキリせず。また夜のキャンプファイアーは雨の中……。互いが互いを互いの相手には互いがあまりに不足すぎて、ものわかれの内に終わってしまった。だって体育館の中はあまりに明るすぎたんだものね。（筆者はこのことが心残りであるのだ。もう一時間、火が燃え続けていたら今ごろきっと……。）バスケットボールでは男子、あっさりと相手に勝たすようなことはしなかった。（ザマーミロ。しかしクヤシィー、女子は接戦で楽しかったわい。しかしながら、男子の応援のかいもなく、ボ、いやコイン負け。よくよく金には縁のない女達だ。（少し背筋が涼しくなったよ。助けくれ～～～。）

さて、あと二ケ月余がまだ残されている。その二ケ月をみなに紹介できないのが残念だ。きっとその二ケ月の間におもしろいことが起こるのに、ザァマミロ！イッヒヒヒ。ＥＮＤ



１年９組

一の九を振り返って　討論会

司会者「きょうはどうも」（頭をかく）

Ｃ男君「ドハハハハ～～ハ」一同うなずく

司会者「エー、さて一の九は簡単にいえば、どうなりますか？」

Ｃ男君「ケケ、オイラのクラスにゃハヤシもあるでよー」一同大笑いする

Ａ助君「よせよ　そんなバカナことというの」

なお「よせよ」というのは私のなみなみならない努力によって９組全体に広まった、所謂流行語であると信じて疑っていない。

Ｂ三君「そうやおまへんか。わてが思うのはや何ちゅうてものりすぎたことなんやおまへんか」

Ｄ子さん「うちはそんなこと思えへんで」

Ｂ三とＤ子つかみ合いのけんかをする、Ｄ子圧勝（つきおとし）する。ここにまで女性上位の波は押し寄せてきている。

司会者「本台は一の九がどうかということですけれど」

Ｄ子さん「本台とちゃうやろ本題やんか　あんたあほやなー」

司会者涙にむせびながら言い直す

Ａ助君「運動にしても何にしても悪くはなかったと思わないかい。もちろん変わったやつも少しはいたけどね、何んかの小説にあったのとちがうかい」（注）変わったのはクラスの大半であると私には思われる

にあったのとちがうかい」（注変わったのはクラスの大半であると私には思われる

C男君「そんなむずかしいことというたらいかんでー」一同また笑う
B三君「そうやおまへんか。うちの家に三時ごろ来てみ、ばあやが一万円見せいてるから」
D子さん「あんた、なにいうてんのん。じゃまやから出ていき」
B三しおれて出ていく。うしろ姿が淋しい。B太郎が入ってくる。
B太郎君「みんなようやってんな、ぼく数学全然わかれへん、聞いてこ」
A助君「どこのクラスも結局は一緒だろ、ウン要するに改たまっていわれてもはっきりとはないということだね」A助君いつも得意顔、感心する。
B太郎君「この問題さっぱりわかれへん。xは何でyとちゃうのかな」B太郎すすり泣く、一同もらい泣く。
C男君「あ　そうやクラブがあるでよいってこ」一同おいおいと別れを悲しむ
「司会者「本題は一の九がどうかということです」
D子さん「あんたうるさいな、ちょっとだまっとき」司会者をうんなぐる。
E太郎君「9組バンザーイ」
突然叫ぶ、一同急に活気づいて　バンザーイをくり返す。
司会者「なごやかな中で進んできたきょうの討論、すばらしかったなあ」
大阪城を見て一句よむ。　つづく
筆者、御病気のためやむなくここで筆を断たれました。なお続きは御病気がなおりしだい連載することにいたしましょう。
完。

2年1組

一組の朝は書号で始まる

端的に言えば、雑頭鼠尾支離滅裂、米をチーズで包んでしょうにをかけ、紅茶の中に突っ込んだようなクラスだ。

学者的天才、気違的天才、秀才各一名ずつ有する。学者氏ー数学に精通し、他方面にも色々と手を出しておられる、石川啄木サンギョー革命論は、二ー一の知識人をアッと言わせた。気違氏ーバイタリテイーに溢れる。クラスを牽引しようと頑張るが、純大手前二ー一はついていこうとせぬ。秀才氏ー柔道にコッておられるが、彼と対戦したあとは、すねだけが浅黒くなる。

残り大部分は、チャート数学妄信的狂信者である。勉強を趣味とする不心得者も、二、三人見うけられる。

しかし、二ー一の名声（？）を築いたのは、もひとつ残りの者数人である。

変わったところを紹介しようかい。

邦画界のエログロ路線に続く「汚ない路線」の本家。。授業中は珍音奇音続出。（数学は、ある時は誇らしげに高らかに、ある時は控え目に、はたまたある時はすごい勢いで、放屁の音が教室の大気を震わせる。最初はn氏一人で全て請け負っていたが、分業化が進んだ。それでも、修学旅行までは、彼は常に新分野の開拓を志ざしその道のオーソリティ（〇〇〇リティじゃないよ）であった。しかし、旅行中、K氏が天性を遺憾なく披露。二ノ一WWC放屁ベルトをn氏から奪取。n氏はリターンマッチで奪還を試みたが、遂に力及ばず、一発きめ技がなかったのが弱味だった。元気を失ったn氏

にT氏とA氏が追討ちをかける。ゲップ杯である。辛うじてその座を死守しているn氏には、悲壮観さえうかがえる。汚ないゲップでは、O氏に勝る者無。

トイレットペーパーをクラス専属として設置した。赤青黄色アンド、ホワイト。少々固いのが難点だが、鍛練にはうってつけだ。このおかげで突発的不慮の危機を間逃れた者も多数いる。設置に貢献したA氏の行動は、高く評価されねばならない。

また、修学旅行中の話だが、ある男が、部屋の窓際の女子に声をかけた。夜のことで、こっちの方の顔は見えない。

「あんた誰？」ー適当に答える。

「何組？」ー適当に言う。

「ウソ〜ッ！そんなヘンなコ、一組にしかいてない。アンタ一組ヤローッ」

おみごとでした。

両者コミのカップルは組中には見られぬが、どっちか片側だけなら幾人か居る。もっとも、苦労して築き上げたのをケッて、乗り換えを狙うフトドキモノもいる。ウーマンリブの先頭に立てるごとく、たくましいのに、ソノ方面では、純情可憐というか、大手前的白痴ウブというかーカマトト説が最も有力ー何となくすっきりしないのもいる。

筆者はメンクイである故、我が校内では、相手を捜さぬことに決めている。

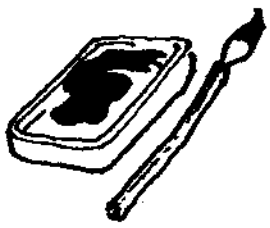
二ー一は純大手前だと、チラとほのめかせたが、何故か。それは情が数字を愛するからだ。数字こそ、世の極みとでも思っているらしい。筆者は、この観念を破壊すべく、その温情のなき、生命のなさを説き、情操教育の徹底化および、言語学ーとともにこの美しき日本語を愛せよ、学べと叫び続けている。しかし、二ー一の諸君の目線の、何と冷たき!!たしかに、筆者は常に成績面で重大任務ーアンカーを務め、平均点をなるだけ低めて、ほっと安心できる人がふえるよう、相当の努力をしているし、反体制超左翼であり、天才的白痴である。故にか否か!? 二ー一は、ある程度までは耳を傾けても、最終的には数字の世界へ帰っていくのだ。

それでいいのかもしれない。あしたの日本を負って立つのは、科学者であり工学者なのだから。我が国のGNPを世界一に引き上げてくれるであろう役者は彼らなのだから。二ー一からは、きっと将来、そんな方面に優秀な者が続々出るだろう。日本は発展する。欲しい物は何でも手に入るーたった一つ、人間らしさというものだけを除いて。ヘドロだってスモッグだって、慣れれば、皆気にしなくなる。日本人ってそういう種族だから。日本は繁栄する。繁栄なくして何の国家ぞ!! もちろん、現在の延長だから、貧乏人は放っておく。貧乏するヤツが悪い。

だから、二ー一は、明日の日本の基礎なのだ、皆どんどん東大を目指して、サトー君みたいなりっぱな人になろう。

明日を目指して、走れ!! 二ー一。

ただ一つだけ二ー一の諸君にお願いがあるのだ。将来、この筆者がおちぶれて物乞いをした時は、せめてカドミウムを含んでない米を与える位の慈悲だけは、心のどこかに持っていてほしい。三島由紀夫が日本の美を再発見させようとした意図がわからず、バカな奴だと嘲笑っても、もう反論しようとは、決してしないからー。



2年2組

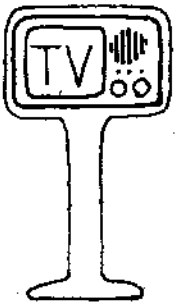
世の中に、絶えて二の二のなかりせば、
　大手のまなびや　のどけからまし。

ソヤ。まったくもってその通りですネ。筆者は春休みの課外に不参加だった為に、クラス分けを見ていなかったのですが、翌朝の新聞にも発表された通り、二組に配属されていました。

さて、朝、家を出て長足で4分、短足で7分の天満からの通学路を通り門をくぐり昇降口を抜けます。その先の旧別館の廊下のつき当り、行きづまりが吾がクラスなのです。その戸を開くと、小生は、愕然としてしまいました。いや、先生がすでにおられるからではないのです。ここに集まった大阪府下の原住民を見たからなのです。そのメンバーたるや、アゴ・胴・足・目・ハゼ。その酋長は俗名クマゴロー、本名ホガ夫氏だったのです。ホガ夫様が欠席と遅刻の常連をつけ終りますと、一週間の内の三日、つまり、丁度半分は、酋長によるリーダーが始まります。授業が原住民の笑い声と酋長の溜息の内に終ると、ホガ夫様が教室から出るよりもはるかに早く、男女混じえた10余名が、室を飛び出して食堂に集合します。この時にラーメン大とコロッケの大半が消え去るのです。その後も、毎時間ごとに食堂は、二組のモノとなります。でも、小生も参加している為に他クラスの女子数名も、食堂の常連となりました。その間、食堂に行かなかった者は、どこからかボールを取り出して、テニスコートなども使って野球をします。（皆さん、この事はテニス部の人にはナイショですよ。）二組は、別にテニス部にコネクションがあるわけでもないのに、ボールには事欠きません。ただ気にかかるのは、体育の先生だけなのです。この間、奥方達は教室の隅で、ワイ談に花を咲かせ、そして、五時限の生の出現と共に花は散り、眠りのつぼみとなります。

ベルに目ざめての放課後は、ヒマをもて余すこれらの者による将棋大会が始まります。ヒマと言うのは、恐ろしいもので、この将棋大会は日暮れまで続き、松坂屋で解散します。筆者も一応は参加するのですが、「眠れる獅子」よろしく常に横でボサッと見物していました。でもとうとう最後には、「眠れる猫」であることが見破られてしまいました。

このような、充実した日々が過ぎて、やがて楽しい、羨ましい、修学旅行となりました。仲良しの二人を横目に男どもとバカ話をする情けなさは、手前ども三枚目にしか分らないですよ。とは言ってもやはり旅行は楽しかったですネ。バスの中でのバカ歌にせよ、夜更けのワイ談にせよ、でも室割によって、クラス全体が大きく二つに分かれていたのは楽しい中にもやはり寂しかった。その分裂も、和解して来た、今日この頃の二組です。



とは、決してしないからー。

2年3組

おひかえなすって、私、このたびの文集に二年三組の代表としてクラス紹介を執筆させていただくことにあいなりました。若輩ものですが、以後どうぞよろしくおみしりおきをお願い申し上げます。

我クラス、まったく「ウッシッシッ」である。

担任はケムンパス大先生、会長は「ドジ」の川崎君。以下諸々の級友を含めて四十九人。女性上位時代を象徴する「あねご」あり、マンダムを誇るおれきれきありいろいろである。修学旅行以後はいっそう団結が強くなり、強くなりすぎて自習時間騒ぎすぎて先生におこられるくらいである。しかし、後期役員の学級代表に選ばれた純まじめ派（でもないよ！）戸部君の出現によりムードのもり上がりがかけてきたようだ。戸部君がどのくらい大勢の反圧に耐えられるかが見ものである。

授業中は静かなもので、みんな起きているのか寝ているのかよくわからん。

○我がクラスの数学担当は担任のケムンパス大先生で、黒板の字と質問にあっというまに五十分。計算なんかなんのその、「このくらい暗算でやらなあかん。」

○リーダーは松田氏。単語力にはみんな敬服する。（商売とはいえたいしたものだ。）

○コンパは鈴木氏。授業時間の延長がないのがなによりの助け

○現国。漢文は永年勤続賞授賞者の杉野氏。

○古典は森氏。我々の先輩だけにやさしい。

○化学は桑原氏。乱れおちる髪をふるいあげ、左右両腕で字が書けるなど楽しいものだ。「化学、楽しいでしょ。」

○物理は清水氏。ややこしい計算はおいとこう。まず帰ったら物理三十分！

○日本史は近松氏。坊主すてて庶民に生きる男近松、どこへ行く。

○世界史は……英国帰りの……？　ようわからん。

○倫理はハタ坊とミッキーマウス氏。たまには僕らにもわかることも話して下さい。「小松」死去で大騒ぎ。

だいたい以上が一週間に我等が前に登場する先生方である。みんなで感謝の気持ち「まんまんちゃん、あん」（占いなあ）

クラスの中心はやっぱり「ドジ」君できすが会長であり、クラスの統率者である。以下諸氏は省略させていただく。筆者、勉強不足で、「ようわからん。」

以上でクラス紹介となったかどうか、いささか疑問であるが、筆者のような文才のないものに執筆させた文化委員も同罪である。なお、この文は授業中に執筆したものなので、うまく書けなかったことをおわびする。それでは各々がた、ゴメン。

つまらん文章に、ながながおつきあいくださいましてありがとうさんにございます。この御恩は一生忘れはいたしゃせん。

感謝感激あめ〃あられ〃はやっぱりとよすでございます。

○古典は森氏。我々の先輩だけにやさしい。

2年4組

我クラスの紹介をする前に、我クラスに関する詳しい資料（二分所あいたし）をあげましょう。

その一　性別分類

男性的男性	二十七名
女性的男性	十八名
男性的女性	一名
女性的女性	全くなし

その二　ルックスによる分類

よし	一名
よろし	○名
わろし	○名
あし	残りすべて

その三　職業別分類

山口組系荒井組のおんな幹部	おおぜい
極右翼的極左翼	いちぶ
日本国有鉄道広報課専属漫画家（浪漫派）	一名
ベレー帽着用行動者	二名
積分派学生	ひとり
児童および園児	若干
その四　四次元特殊分類	ぎょうさん
経験者（？）	五名
未経験者（？）	四名
わからない（？）	二十七名

（チャート式二年五組より引用）

さて右を詳しくじっくりと三年程経験いたしますと、我クラスの昭和四十五年四月以来の歩みが解るのであります。しかし筆者は、この文の読者のため特に次行より一年間の歩みを書くのであります。

自治会祭では校内一と評判をとった、すばらしい展示、恐怖と笑いの世界をこの大手前に現出させました。又、バレーボール大会では女子が優勝し、男子もそれに負けず一回戦で敗退したのであります。又、水泳大会、体育大会においては、男女共、他のクラスのことを考え、力をセーブしましたので、優勝は他のクラスに譲ったのであります。さて、バスケット大会こそ男女共に優勝をめざし、そのかいあって、女子は見事優勝、男子も見事一回戦で負けたのであります。

さて四組は、クラス結成以来、分裂と多極化に悩まされていたのでありますが、会長の甚大な努力により、四組にはセックス・アピール抜群の四組旗が生まれ、修学旅行以来、よくまとまった、行動力のあるすばらしいクラスになることができたのであります。会長万才!!　この四組の行動力は、現国の先生を震えあがらせ、倫社、日本史の授業をつぶすこと（？）に成功したのであります。

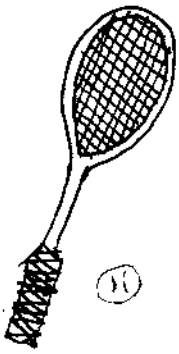
又、このクラスには、多くの他のクラスと同様「おめでたき人」がたくさんおられ、何かというと記念撮影をするカメ吉（カメラキチガイ）という人が特に多いのであります。まあ6人は下りますまい。（例えば、自習時間を記念して記念撮影をする。）ともかく、四組万才!!

以上我クラスの情熱的絵画詩人先生（会長と同値）の話のとおり、この四組はたいへん個性的なクラスである。（この先生は近々精神病院に入院するというウワサもチラホラ）ここで我二年四組の環境要素を述べてみると、別館二階の奥から二番目の教室は、本館から遠く離れ、勉学に最適（？）のところにある。このことが四組の文化に大きく影響を与えているという説もあるので以下四組文化史を一言。

一学期早々、一年のときから根強く残っていた将棋ブームがたちまち巻き起こり、昼休み、放課後は教室の至るところで将棋盤を囲んでわざを競い合ったのであります。連日、大盛況で、熱心な崇拝者は授業中はもちろん、朝礼のときも寸暇を惜しんで対局を行なったのであります。やがて将棋ブームも去り、しばらくは大きな発展はなかったのでありますが、二学期になると、某大先生の指導のもとにマージャン教室が開かれ、これまた熱心な者は、自家製のカードを用いて、放課後の一時を中国文化の研究に励んでいたのであります。

物思う秋になると、皆秋風が心の中を吹き抜けるような淋しさを感じ、哲学的瞑想に耽る（フケルとよむ）者、人生論、恋愛論を繙く（ヒモトクとよむ）者etc……　そして、クラスノートには心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつけ、同じ心ならむ人と、しめやかに物語して、をかしきことも、世のはかなきこともうらなく言い慰めたのでありました。（たびたび教養をきらけ出したことを、筆者心から反省しております。）

きてしかし、今までダラダラと書いてきたことは、我クラスのほんの些細な事であり、いわば虚像でありましょう。筆者は、筆者の希望も交えて、倫社の教科書より次の一節をクラス紹介の代りに紹介します。（以下〃人間〃のところを〃二年四組〃とおき換えて読んで!!）「人間はまず先に実存し、―中略―　そのあとで定義されるものだ　―略―　人間が定義不可能であるのは、人間は最初はなにものでもないからである。人間はのちになってはじめて人間になるのであり、人間はみずからがつくったところのものになるのである。―略―　人間はまず、未来に向かってみずからを投げるものであり、未来のなかにみずからを投企することを意識するものである」キザダナ～



2年5組

いったいクラス紹介でクラス紹介のことを書くなんて、クラス紹介よりくだらない。どうせ書くならクラス紹介を書くべきだという、崇高な論理体系に支えられて、二年五組紹介の陰謀は展開するのである。「陰謀を有るとそこは宇宙であった。」南を向けば府庁の建物が、あの思い出してもゾッとする刑務所の壁の如くそびえ、一生陽の目を見ない大手前番外地、そこが我らの根拠地である。「誰が光を見たでしょう。」神は最初に光あれといわれた。そして五組に光はなかった。ゲーテ曰く、「光を、もっと光を。」とにかくこんなに寒いとこなのに、みんな簡単に自己満足に陥る。「卒にゃ今日

おります。）

なに寒いとこなのに、みんな簡単に自己陶酔に陥る。「空にゃ今日

もアドバルーン。さぞかし学校じゃ今ごろは、お忙しい」と思っている純な親たちの期待を、ここでもあっさり裏切っている。全員三く、「眼前に見る黒板の文字。疑うらくはこれを写の文字かと。言をあげて経書を写し、頭をたれて就寝を司る。」全く無理はない。しかし小生の如く、睡眠学習及び○○未経験者という、非五組的五組生の存在も忘れてはならない。けれども、誰しも人には好みというものがあって、あなた好みの授業には、誓いを破って参加に踏み込み、解答をば、「ユニーク」と賛美される者もありて、をかし。

スポーツ面では、能力こそあれ、そこが二年五組。「能ある鷹は爪を隠す」というか、「義理と人情をはかりにかけりゃ、義理が重てえ二年五組」というか、学年初期においては謙譲こそ最大の美徳とする倫理が広く普及し、かつ試合において実践にうつされた。まさに思想と実践の完璧なる一致、「行動の美学」である。しかし、近頃貴の義理とは、「親分さんにゃ何の恨みもございませんが、渡世の義理。死んでもらいます。」という、あの哲学であることに目覚めだした五組勢は、体育大会、バスケットボール大会において、はからずも優勝という偉業をなし得たのである。この原因について、信頼できぬ某筋によれば、小生が、クラス全員の絶大、かつ熱狂的要望のかいもむなしく、出場を辞退したことにあるとか。

自治会祭においては、大衆の域にとどまることを潔しとしなかったため、来訪者は珍重されるに至った。どこか狂っている。三島由紀夫の死について討論しているうちに、どうして「首がとんでから天井が見えたかどうか」という問題に変わってしまったのか。

ひとり勉強すれば角が立つ。遊んでいては流される。とかくこの組は住みにくい。住みにくさがこうじると恋人が欲しくなる。しかし五組は、小生に言わしめると、一人の美男と（もちろん小生であるが、いきまつのためらいを感じそなりのよう言葉できぬ事実である）大多数の有色男性と、たった一人の女性の集合体である。**誠に小生は、重臣達を生発する。もしこの組の、女子用の写真を看て、小生とちょっとばかし嘘造の違う方々（やつたんていった日にゃ、すぐにも校舎裏に呼び出しを喰う。）をつくったのが、向こう三軒両隣りにちらちらする人々であったなら、土曜日の五時間目に数学の先生がとびこんで来て、いきなり日本史の授業を始めるようなもんだ。**しかし、そのようなどぎつさ、エロ・グロ氾濫の中にも、五組なりの結合と調和が生まれようとしている。二年五組に栄光あれ。（尚この小生の華麗なる文章を全く模倣し、あるいはそれに準じたる文章が、他のクラス紹介にあったとしても、一切のオリジナリティはまさしくこの文章にあるから、そのつもりで。一読を感謝する。）

2年6組

僕たちのクラスの紹介（詳解）をしろというのかおぬし！

そんなこと、もはや言うまでも無く、みんなも知っていることだろう。あの素晴しい旗（他のクラスから見たらボロボロの旗なんか振ってアホちゃうかと思った人も多分にあったとは思うが。）の下に集まった、たとえ旗が無くても、おそらく集まったと思うが、素晴しい団結力のある前代未聞のクラスであったことは、確かではないだろうか。

二年生の最初の頃には、緊張して前のクラスの友だち位しかなじ

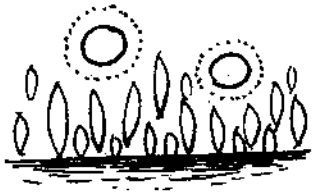
めなかったみんなも、一学期を過ぎる頃から親しみを増してきたことは、言うまでもない。自治会祭では、お化屋敷を作りメリケン粉やバケツの水をかぶせられて、迷惑した人も多かったことだろう。

しかし、かなり評判が高かったことは、認めざるを得ないことである。お化屋敷の中で汗だくになり、煙幕に悩まされた、わがクラスみんなの努力を忘れないで頂きたい。

水泳大会では、惜しくも破れたが、あの運動会でのわがクラスの活躍ぶりは素晴しかった。あのニャロメの絵と岡田組のゼッケンは、他のクラスの注目の的となったのではないだろうか。それに開会式での、あのわがクラスのシンボル旗の揺れ動いたことは、大手前史上始めてであったことは、疑がうに及ばない。そして、みんなの「やったろう」という団結力で、学校で四位という素晴しい成績をおさめた。また運動の秋になって、いろんな競技種目があったが、男子のバスケットは第一回戦で惜しくも敗れたが、女子のバスケットではいつもは女性らしい（年に一度とない御世辞）連中が、この競技において素晴しく持前の男らしさを見せ、他のクラスの女生徒を倒しては投げ、投げては倒しみごと準優勝をおさめた。男子ラグビー大会では、優勝戦で隣り組である七組と大手前史上初めてと思われるくらいすばらしい試合をし、結局は負けたけれども、みんなも悔いなかっただろうと思う。しかし、次のサッカー大会では、念願の優勝を見事はたした。

修学旅行での行動は、他のクラスよりは、かなりひいでていた。フロでわがクラスの歌う声と壁越しにとびかった水で迷惑した他クラスの生徒も多いことだったろうと思う。頭のよさでは、抜群とまでは、いえないけど、運動やその他ではかなり活躍したように思う。これもわがクラス持ち前の団結力のたまものであった。

クラス内では、二つのカップルもできたし、なかなかバランスのとれたクラスであった。たくさんのことを述べて来たが、ほんとうに素晴しいクラスであったことは、誰も疑わないことと思うし、クラスのみんなも自覚していると思う。



最後になにかとお世話になった我がクラス担任の岡田先生のクラスに対することばを述べてもらおう。

「なんなと勝手におやりやす。触強だけが高校生活じゃないってこと。ホームルームでつい口をすべらせたらたちまちかくの通りだけどまあいいじゃないの。大手前にも一つ位変なのがあっても。皆気のいいやつだからな。頭の方も自覚しているようだし。顔の方もまあまあ別嬪さんもいるし、スタイルだってミニにハイソックスの勇ましいのから大根をロングでかくすつつましいのまで。とにかく別にどうってことないさ。」

おちまい。

修学旅行での行動は　他のクラスは　かたずをのんでいた
フロでわがクラスの歌う声と壁越しにとびかった水で迷惑した他ク

2年7組

これぞ大手前校の決定版、ついに成る！我が校はじめての本格的学級。驚異的な人材48名を収録し、あらゆる分野の先駆者を余すところなくとらえ、ここに大手前生の真価を世に問う!!とかなんとか言いたくなるぐらいで本校の諸先生方が、涙を流しながら、やけくそで集めたといわれるこのクラス。なんちゅうても後光などもさずにおられないという、偉大なるふきだまりなんであります。

その内部構成たるや、よく戦争映画に出てくる、各人がそれぞれ特技を持った一チームのようなものを想像してもらえば結構。事あるごとに必ず誰かがシャシャリ出て、クラス全体としてのその行動力のすごいこと、というよりえげつないこと、伝統的に傍観的ムードの強い大手前校の中にあって、まさにこれこそ青春だァと叫びたくなるようなしろもの。号令一下、その一丸となるすばらしさ。朝練、自習時練とすぎし日の帝国海軍も舌を巻く程。それにみんな乗るわ乗るわ。若干悪乗りしすぎ、というわさもチラホラ。それでも全員誇りをもって悪乗りしてるから、これまた憎い。

その熱き団結心の燃えたぎる炎でもって、バレーボール大会、バスケットボール大会ともに、男女とも一回戦出場という栄誉を獲得し、加えて水泳大会、体育大会共に、学年のベスト8入りという偉業を成し遂げる。またコーラス大会において、青少年会館という晴れの舞台で、H君の抜群な演技をとり入れた「ボルガの舟歌」をもって、全校の称賛を一身にあび、文化祭の最大の花とし、堂々五位に入選。今またラグビー大会において、優勝まちがいなし、とちまたできゃかれ、おまけにマラソン大会の上位独占を、虎視タンタンとねらっている火の玉学級。

何といっても二年七組といわれるくらいで、文化的学級活動においても、クラスノート。討論の活発なことはもとより、修学旅行におけるリクレーションにも、他クラスをよせつけないまとまりをみせ、スケートへ、ハイキングへ、大阪城へと非常に多彩かつ主体的な学級活動を見せている。

とにかく一度はいったら、食堂のカントダキも喉を通らないというほどの、我が校始まって以来最初で最後の黄金学級なのである。

オシマイ。

2年8組

ぼくは時々、男の子が生きていくってのは相当にややこしいところがあるらしいとしみじみ思う。とくに、二年八組になってからなんかがそうで、どういうわけか、かならず、あーあ、やんなちゃったなんて感じになっちゃうんだ。もちろんぼくには（どなるわけじゃないが）やましいところはないし、「やんなっちゃった」に悪気があるわけではない。それどころか「やんなっちゃった」には、ぼくのクラスの他の連中に対する、まるで巨大なシャンパンのびんみたいに好意が溢れているくらいなんだ。特に最近はいけない。例の修学旅行へ行って以来、カップルが（いろんなのが）雨後のたけのこみたいにできちゃって、ぼくなんか口を閉じる間もないって感じなんだ。そのうえ、ぼくのような紅顔の美少年というか旧恋人候補生（？）というやつは、「可哀そうだ」という点で一種のナショナル・コンセンサスを獲得したおもむきがある。なにしろ志賀高原や黒部で奮戦した大リーガーたちまで、「候補生諸君にはすまないと

思うが」なんていうほどなんだから（いったろうか？）これは大変だ。かくしてぼくたちは、まるで赤い羽根の募金箱か救世軍の社会鍋みたいにまわり中から非難と同情を注ぎとまれたうえ、これからどうするの？　四条畷へ行くの？　といった一身上の問題に始まり、男女交際をどう思うとか、男と女のどっちが好きか（？）といったアンケートまでとられて、それこそ、あーあ、やんなっちゃったということになるわけだ。それに言い遅れたけれど、ぼくの学校が例の悪名高い大手前高校だということは、同情するにしろからかうにしろ、すごく手頃な感じがするのではないかと思う。

ところで二年八組の話に戻るけれど（そういえばぼくはクラス紹介を書いていたんだ）、このクラスをたったひとことで表現するのは（芸術派にだってできないくらい）相当至難のわざじゃないだろうか。というのも（話はまたはずれるけれど）今日のホーム。ルームの時間にやった久しぶりの相当はでな討論会で、議長のA君（「A君」なんて小説みたいな言い方はもちろんゴマかしてるわけだ、迷惑かけてはいけないから）の口からでたことばなんだけれど、うちのクラスの人間ってのは個性を余りにも強調しすぎるんだ。（個性尊重そのものは個性喪失の現代では貴重なことなんだよ）、こういうクラスというものの中にいて自分の主張を通そうとするだけではいけないんじゃないのか、ということに集積されているような状態だから。今日の討論だって、どうしてやらなければならなかったかは、そんな原因があったからなんだ。お陰で、予定していたスケートに行けなくなって、最初はすごく険険な雰囲気だったんだ。まあ、それでもいろいろな連中が、少なからずクラスのことを考えていたことが分って気分がいいんだ、今は。それに、時間が過ぎても閉会動議が五回も否決されて（そのうち三回は支持者もなかったんだ）心も軽い。

ところで、クラスの雰囲気なんだけれど、よくよく単純に考えれば、非常に楽しいというかうれしがりが多いというかほんとうに高校生活をエンジョイしようとしてできないクラスじゃないんだ。特に修学旅行以来、その傾向が強くて、今月の最初の日曜日には、有志二十一人が正倉院展へ行ったり、その帰りに延哉ちゃんの家に押しかけて奥さんと記念写真撮ったりして、昨日あんまり気持がフワフワしすぎてると延哉ちゃんに説教されたところなんだ。

延哉ちゃんというのは、ぼくたち八組のシンボルであり担任でもある森延哉という名前の友達（先生？）の愛称なんだ（あーあ、ほんとうに言い廻し考えるのに骨が折れちゃう）。そもそも森先生が延哉ちゃんに変わったのは若いことや大手前出身の先輩（だから友達？）だということもあるけれど、ほんとうは志賀高原でのちょっとしたできごとのせいなんだ。けれども、それを書くにはきっとあと五十ページはかかりそうだからやめる。

最後にまたクラスのことだけれど、一人ひとりの気心は信州で涙したこともあって、もうかなり知れてるみたいだ。それに、ぼくのクラスは、いろんな競技やなんかに（抜群ではないけれど）かなりの器量を発揮して、体育大会では総合三位を奪ってるんだ。だから四十八プラス一人団結してやれば、なんだってできるんだってことは目に見えてるんだ。それが一番大事なことなんだ。

翌日読んでもらいたいささやかなあとがき

白状しちゃうと、二年八組のぼくってのは、実は兄貴の書いた小説の主人公かなんかじゃないかって気がするんだ（だって、大手前の名簿を見ても薫という名はあっても庄司薫なんて見つからないのだから）。これはほんとうに恥ずかしいような困ったようなことだ

いたことが分って気分がいいんだ。今は、それに、時間が過ぎても閉会動議が五回も否決されて（そのうち三回は支持者もなかったんの名簿を見ても嘆という名はあっても証言嘆なんて見つからないのだから）。これはほんとうに恥ずかしいような困ったようなことだけれど、でもぼくはまあまあまり気にしないことにするんだ。何故って、もし誰かがこれを読んで、ぼくにとって八組にいたことがとてもよかったんだということを少しでも分ってくれれば（そしてほんの少しでも喜んでくれれば）、ぼくはもうほんとうにそれだけでいいんだから。

2年9組

風呂屋から払い下げられたような古めかしいげた箱を通りすぎ、校務員室の前の階段を上り、左へ曲がると我九組がある。窓の外には府庁がデンと腰をおろしている。おかげで日光があたらず日照権の問題で知事と争ったとか。隣は音楽室と生物部室。まさに「三階の孤島」だ。この中で、授業中に活躍しだすのが音楽室。ここから流れでる清らかなバックミュージックに、眠けをもよおす者もいれば、その音に陶酔しすぎたあまり目を血ばらせて鼻から血を流し、白い歯を出してにたっと笑う奴もいる。かと思えば鉛筆で机をトントンたたき、リズムをとっていい気になって鼻歌をうたっている奴もいる。とにかく皆やる気十分なのだよ。

と、ここで教室の概観を語っておきたいと思う。天井にはすりの足跡が点々とつき、教壇には底しれぬ深きのおとし穴（これは教師を落とし入れようと我九組の野郎どもが作ったというウワサがチラホラ）。また後ろの黒板にはスバラシイ絵画が並んでいる。さらにその横には清掃用具BOXがある。その中には、ほうきやちりとりの姿は殆んどなく、箱いっぱいに柔道衣がいれられてある。このことからみても我クラスが、いかにソウジに熱心であるか測り知れようというもの。

さて次に九組の連中について語ろう。我クラスはオモロイ奴の集団である。がそのオモロサは唯のオモロサと違うんじゃ。どこが違うかというと、そこには常に真理を求めてやまない心と、深い思いやりがこめられている。したがって九組は全体としてパッチ（パッチではない）りまとまっている。がしかし個人をとってみても、実にすぐれたものが多い。それを断片的に羅列してみるとタイガーマスク、遠藤幸吉、アントニオ猪木、カエル兄弟、ホモホモ十三、アシュラ、座頭市、シャーロックホームズ二世、第二の江戸川乱歩、チエ遅れ、マンタムトリオ…etc。男子について言えばハンサムぞろいで大映から話がかかったとか、かからなかったとか。女子についてはこれまた美人ぞろいで（ポコン）教室はいつも美女でビジョビジョにぬれ、授業をっちのけで、水のくみだしに青春のエネルギーを爆発させている。

九組には「愛」がある。「真理」がある。よく世間で話題にのぼるのも無理のない話だ。このようにとってもすばらしいクラスなのに校内大会の成績はよいとは言えない。バレーボール、バスケットラグビーは、みんな予選で失格、なぜか、これは今だになぞとされている。ただ水泳大会は全体で二位だ。これもなぜ優勝しなかったかと疑問点が多い。コーラス大会は、やはり日ごろ音楽に親しむ時間が多いところから、予選には軽く通過した。でも優勝という吉報はまだ我クラスには届いていない。

以上、述べただけの結果をみても、いかに我クラスがまとまりのある。ない（好きな方に○印）クラスであることがおわかりできたことだろう。ああ、そうそう。一つ書き落とした。我クラスには、スポーツ、芸術以外にギャンブルの天才も多い。いっちょ来て、やれへんけ。ナポレオンがはやってるで。

3年1組

寒くなってきた。冬の朝ってこんなに寒いものかしらと首をすくめる私。ポケットに手をそっときしこむ。空には、凍りついたガラスのようにキラキラ輝く日の光。美しい朝。このすがすがしさに心踊らせながら、学校へと足を早める私。教室にはまばらな人影。小さく嘆息する私。「今朝も、遅刻が多そうだわ。」―遅刻の多いのが〝3の1〟の悩みの一つ。放課後のラグビーの試合。文化系のクラスなので、男子は数が少なく全員出場している。目の前に展開する男同士の激しいぶつかり合いに引きつけられる私。「しっかりー」と、大声で声援を送る私達。男女一体となった熱戦での敗北。精一杯やったのだからお互いに満足。残る爽快さ。帰り道、空を夕焼けが、赤く染める。夕闇が迫る。夕空に星が光をふりまき始める中で、私達グループを呼ぶ声。見ると、向う側の舗道で、「さよーなら。」と手を振っている〝3の1〟の男子達。暖かい心のふれあい。きわやかな青春。私の青春。

私が弁当を食べ終って横をみると、北口君がうつろな目で黒板の方をみていた。「どうしたの？眠いの？」「ああ。」「勉強のしすぎと違う？」「そうかもしれない。」教室内を見回すと、あちこちに数人づつの人の輪があった。「なんだか、うちのクラスはバラバラという感じだね。」北口君は私に話しかけてきた。「一年二年の時のクラスのようには表面的にはクラスとしてのまとまりの見えないこのクラスだけれども、互いに相手を尊重し、各人が自分の目標めざしてまい進する姿は、これからの大学生、社会人につながる大人の態度の根ざしであると私は思う。」「うん。涙を流してまで、クラスの連帯感について語りあったりなんていうのは高校ならでは味わえない素晴しい経験だよ。」「そうね。」「僕はみんなが熱心に討論している中で、自分が何にも発言できないのに、絶望感をおぼえたよ。」「絶望感？すごく大げさね。……でも、どうして言えなかったの？」「そうね、あの時は、みんながクラスのまとまりについてとてもよく考えているのに比べて、自分のことしか考えてなかった僕が小さい人間に見えて、それで絶望しちゃった。」「それで、ずっと絶望してるの？」「えーっ。そんなことないよ。あの頃崩壊してしまうかと思ったクラスが、今では元通りになったように、僕も僕なりにクラスのことを考える中でなおっちゃった。」「ふうん。」「しかし、さっきの大人の態度の根ざしって、いい言葉だな。このクラスをずばり言い表わしている。」「……」

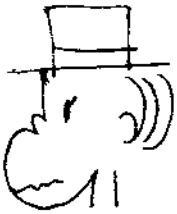
私は彼の顔を黙ったままじっとみつめていた。彼はちょっと当惑した表情で、「よせよ。」と言った。「はずかしいの？」「うん」私はほほえましくなった。このクラスの男子のこんな純情さが、女子との間を疎遠にし、クラスにまとまりがないという感じを与えるのかも知れない。「大人の態度の根ざし」「男子の純情さ」その他どれをとっても、男子16人、女子30人の女性上位であったこの〝3の1〟というクラスは私にとってはいいクラスだった。とかく受験日前というので、無味乾燥になりやすい中で人間らしい暖かさで私をつつんでくれる雰囲気があったから。

ブラボー！　3の1。

読んだところ、これはクラス紹介としては甚だ物足りないし、僕が聞いた、このクラ

人の態度の根ざしであると私は思う。」「うん。涙を流してまで、は甚だ物足りないし、僕が聞いた、このクラ

スに対する女の子の感想をそのままとりあげたにすぎない。といっても、僕（北口雄吾）自体、3の1の名簿の中にはない。この原稿は、実際にクラス紹介の記事を書くことになった3の1に在籍する僕の分身みたいな男から無理やり頼まれて書いたんだ。僕の分身はひどい男で、僕に手渡してくれたメモといえば、「担任は井手先生。3の1はいいクラスだった。コーラス大会で1位を獲得した以外は、殆んどの競技で中位以下。成績も普通。チャーミングな女の子は、こけし、ミミ、オマサ、その他女子は抜群。男子は、野球、ラグビーで張り切っている者もあるが、総体的におとなしい。」だけなんだ。これだけのメモでも、3の1というクラスはほぼ言い表わされてしまっているのだから、僕がこんな程度のクラス紹介を書いたのも我慢してもらうしかない。



窓をあけると、心地よい風が頬をなでた。僕は中庭に目をやりながら、冬の到来をひしと感じた。最早、僕は消え去らねばならない。やがて来る雪解けの日まで。春の息吹きまで。入試の荒波が通り過ぎるまで。僕は、僕の分身の中に身を埋めねばならない。僕の分身が僕の形を必要とする日まで。魂とならねばならない。僕の分身が再び文筆活動をする日に、現として甦るのだ。永劫に不滅のフェニックスとして。不死鳥。……それは、僕が3の1の仲間に寄せる願い。仲間よ、未来に大きくはばたけ、不死鳥であれ。

（北口雄吾　記）

3年2組

今までを振り返って言うことは、実に手発たクラスであったということである。

まず、麻雀、パチンコの話である。（ことわっておくが筆者はこの行為によってもらっていない。）又、一日遅刻の欠課、遅刻数のトータルが100＋αという莫大な数字を記録したのも我がクラスである。この結果かどうかは知らないが、テストの平均点はいつも悪い方に参加している。（このことは筆者の責任が大。）こんなことばかり書くと「ひどいクラスやなあ。」と思われるかもしれないが、すばらしい結果も残しているのである。コーラス大会は優勝したし、バスケットボール大会でも男子は優勝したし、女子も一年に敗れて優勝はのがしたもののよく頑張った。

さて個々の人間を見てみると、やはり大手前の特徴であるように個性的＝アホな人間が集まっていた。女子のことは専門でないのでよくは知らぬが、男子はアホ揃いで実に楽しかった。いつも自分のことを天才だ天才だといっていたアホ（天才的アホ）がいるし、又ラグビーでスクラムを組む時、前の奴の股の間に頭をつっこんだアホ（変態的アホ）もいた。その他考えるときりがない。

結局、私としては非常に住みごこちがよかったしみんなもそうであったと思う。こんなことで「クラス紹介」ができたとは思えないが、一端は知ってもらうことができたと思う。

3年3組

「いいなあ文科系のクラスは。女子の数が多くって。」三年になったばかりの頃、理科系の友人達の口から、何度もこの言葉を聞いたのを覚えています。まさにその通り、我々は実に華やいだ気分の中で一年のスタートを切ったのです。しかし悪夢は五月にやってきました。校内バレーボール大会で女子が学年優勝を成し遂げたのに対し、男子は一回戦敗退、しかもL・Hのバレーボールでは、男子が女子の前に屈したのです。我々男性にとってこのことは、舌噛み切って死んじまいたいような口惜しい事件だったのです。この時点で我クラスのウーマン・リブは完成されました。同時に男子ははにかみ屋さんになったのです。

それからというもの、談話会は一度だってうまくいった試しがありません。男子は原始人が野獣に対してそうであったように、いつも教室の隅っこでグループをつくって小さくなっています。（何も女子が野獣のようだというつもりはありません。本当は愛い付きたくなるような美人揃いなんです。それも特にあの娘は。）と書いてきますと、まるで女尊男卑のモーレツな女性上位のクラスのようですけど、そういうわけではありません。でも男子と女子の間の交流が少いことは事実です。つまりお互いにモンロー主義を通しているのです。それでもクラスは明るく（アルミサッシの大きな窓のせいかも）笑いが絶えず、すばらしい世界一のクラス　それが壱千九百七拾年度の三年三組なのであります。

おちまい

3年4組

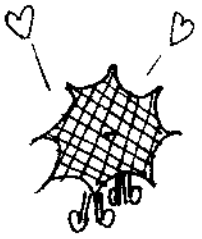
☆女子の服

かわりだね、個性のつよい者多数。かように個性のないワタクシメなどは、まっ赤にそまってしまう気配じゅうぶんのクラス。

ゴーゴーあり、雨の高雄あり、万博あり、発電所あり、てるてるぼうずあり、スケートあり…etc。あっ大事なものを忘れてました。なんたって「クラス日記」であります！第二号ともなると存在は忘れがちだけど、人気最盛期のときなんてもう、ひっぱりだこ。生き方、恋愛論、プロ野球状況、はては株式状況まで、なんでもありの日記だから、読みだすとやめられなくて、授業がはじまってもニヤニヤしてしまう。〜あのノートを通じて、いろいろな考え方を知り、力づけられたこともありました。

掘りおこせば何が出てくるやらわからないそんないろーんな可能性を秘めたクラス。

三年四組は、おもしろいクラスでしたが、成績は悪くて、上位1～10番の中に6人しか入っていないくらいでありました。女の子が29人もいまして「かしまし」は3人ですから、その3乗なのです。ところがまたそれが幸か不幸か話が合って、男の子はそっちのけで、毎日楽しくおしゃべりをして暮したのでした。心の中のどこかが、四組の誰かの心の中とつながっていて、誰ひとりはずれる事なく、



クラスの輪は、いつもウワ〜ンと動いて回っていたのでした。コーラス大会では、特にそい威力が発揮され、すばらしいノドを披露した結果名誉ある文化祭出場をとげたのです。シトシト雨の寂しい日、てるてる坊主の素朴な旋律にきっと慰められる事でありましょう。

あれもこれもありましたが、クラス単位の行動は高校時代で終わりです。それを思うともっとああしておけばよかった、あれもやりたかった、という後悔の念におそわれることしきり。とにもかくにもサヨウナラ。「いつまでも絶えることなく友達でいよう。今日の日はさようなら、又会う日まで」バイバ〜イ。

☆男子の服

三年の某情報網の信頼できる報告によれば三年四組は美男美女の集合体であるとのことだ。なるほど、相対的見方でなら、うたがはよう。しかし、それにしては、この一年間、全く一つもカップルが誕生しなかったのはどういうわけなのだろう。

我々は一応、待望？の入試に備えて勉強している。しかし、もちろん、それだけではございません。クラスの中には、安物の万年筆（18禁）に通いづめの者、中国文明同好会長、また、チューリップに関しては絶対の権威者もいる。もっと、尊敬される人になると、ジャーナリスト志望とかで、教科書がわりに週刊誌を使っている女史もいらっしゃる。

知らず知らずのうちにクラスの親しみが育ってきたのでしょう。教室にものうい秋風が吹きぬけても、壇上の会長一声出せば、みんなよくのる。

自治会祭があればゴーゴー。万博があれば、行って暑い暑いといい、ホームルームがあれば、寒空にもスケートへ行く。そして校内大会でも大建設。

このるの4をネタにした伝説もいくつか出来た。例えばあのゴーゴーラザ「エリスand喜太郎inユートピア」（この題などは国語担当の岡先生のクラスだけのことはある。）には、あまりのすさまじさに、他クラスの者は恐れをなして誰一人近づかなかったとか。

☆K君の3−4女性論

ランカ系とは、即ち「女の子」の多いクラスのことである。いるいる男子の二倍近く「女の子」がいる。オット言ぶのは早い。マジメなマジメな大手前の男子生徒の中には、「女子生徒」を大きく大きくそうメッチャメチャカマしていかんほど誤解しているウブな人が多いことだろう。そこで「女子生徒」とは何か、その実態を晴天のもとに曝してみよう。一、二、三時間目。あっ、やっと現われました。授業中の先生にニッコリ微笑を送りながら教室へ。そして昼弁。「カロリー抑えてんネン」と言って珍しく小さい弁当。おやっと思えば御安心あれ。デザートにミカンやらなんやら「あげよか？」さて四時間目はゆっくりと食後の休憩を取って、昼休みはスワッ出陣。クラスの名誉を背負ってバスケットの試合へ。「あれ、女子もラグビーやってるのか？」と体育の教師に言わしめるほどの大奮闘。形相ものすごく敵陣を突破し、ボールにクライつき、右へ左へ上へ下への大騒ぎ。五時間目は、敗北の疲れを癒すため可愛い寝息をたててお休み。六時間目ぐらいは目をあけて、放課後はほうきに

雑布持ったことなし。スタコラサッサと御帰還。あとに残った男子共、エッチラオッチラふき掃除。皆さん、なんとまあ可愛いのでしょう。3−4の女の子はいい。ある男子曰く、「女とは、毎日恥しげもなくスカートはいてくる人間」と。でもでもいいんです。僕らはシアワセなんです。まだあなた方程度で。

3−4をのぞいたあなたなら、きっとこういうでしょう。「なんとなく明るい感じだなあ。」って。数多い女子にも圧倒されずハッスルする小紳士的男子連。教卓の花がそれを物語る意外な？レディぶりを発揮する女子連。

なかなかいいではありませんか。

3　年　5　組

ムム、そうだったのか。そんな事が現実にありえたのだ。仮にα体とでも呼んでおこう。それは物質的実体と精神的存在を兼ねそなえたものだったのだ。それはいつもホワイトグリーンの直方体空間（それをβ空間とでもしておこう）に約4ダースが集まり、それぞれ不確定な運動をくり返している。

その中には種々のα体がみられ、頭部が他のα体のようにブラックの純毛の毛皮ではなく、クリーム色で異様な光を反射するもの、レンズを4つもつもの（うち2つは取りはずし可）、また副固有名詞を有するもの、例えば「Oyama」「Kaeru」「Yatani」「Nyu o lo」　などがある。また全α体は個有の空気振動発生装置を各々2個ずつ有している。一つは頭部に一部分品として付着しており、もう一つは下部に隠されている。後者は特有の芳香をともなうが、α体はあまりそれを使用したがらないようだ。それで、以後前者の方をγ装置と呼ぶことにしよう。

γ装置はそれ固有の振動数と波形があり、γ体仲間ではそれによって仲間を識別できるようである。中にはγ装置ばかりを非常に活動させるα体もあり、主にあい色のα体に多く見られる。あい色α体とはα体仲間で恐れられ、このβ空間を牛耳っている大ボスもあい色α体の一つである。これらあい色α体の前では黒色α体は著しいリトマス反応を起こす。つまり、赤くなったり、青くなってふるえたりするのだ。

多くのα体は頭部各部品の配置が不行届きであるにもかかわらず、その点に関しては慎重に検討を重ねた結果、各α体はそれぞれ異常なまでの自尊的精神作用が過剰であるという結論に達した。つまり自らの頭部部分品配置が最も美なるものだという迷信を堅く信じて疑わないのである。

さて、ここでα体とβ空間との時間的関係を説明しよう。t＝7：50からt＝8：15の区間において、まず黒いα体2、3体とあい色のα体1、2体が出現するのが普通であり、ほとんどそのメンバーは決定されている。そしてt＝8：15からt＝8：25の区間において約半数のα体がこのβ空間に現われる。そして最後のt＝8：25からt＝8：30の間に残り約半数が飛び込むのである。ここで集ったα体の数をMで表わすと $M=k(t+t_0)^4$ なる関数が成立する。またα体がβ空間に飛びこむときの速度Vは $v=\beta(t+t_0)^3$ で表わせる。これらの関係式を一大スペクタクルに乗せた一ジョウ最大の悪戦苦闘」また「サンジョウに駆けるアシ」などはあまりにも有名な映画である。

そして t＝8：37にこのβ空間に現われるのが色不定の特別α体

り、もう一つは下部に隠されている。後者は特有の芳香をともなう

そして 4!!8:37 にこのβ空間に現われるのが色不定の特別α体

である。本来ならばこの特別α体が一番最後に現われるはずなのだが、時として、いや、しばしばそれ以後に現われるα体もある。それは 仲間では「chikoku」 と呼んで賛美するのだが、不思議なことに特別α体はそれに対して拒否反応を起こすのである。そして、その件に関して珍しい定形音声「チコクノサタモコネシダイ」もあるのだが、果してどういう意味があるのか、とんと見当もつかない。

さて、このα体の知性が非常に高度なのには驚くべきものがある。例えばこのβ空間のそばにはそれとそっくりの直方体空間がいくつも並んでいるのだが、なんと今だかってまちがって他の空間に飛び込んだα体は一つもないのだ。また、しばしば「Tesuto」と呼ばれる儀式において、「Heikinten」というものにまきに追いつかんとする勢いがみられる。ただ追いぬかしたとは目多にない。

いかがだろう。上記のことは驚くに値するではないか。そんなことが信じられようか。いやしかし現実にあったのだ。嘘だと思うなら「野小組5年3」という整理記号らしきもののついたβ空間をさがすがよい。現実にあったのだ。おお、美しく、はかなく、ふてぶてしいα体！全能なる月の神、月光仮面のおじちゃんよ。かのα体の上にめぐみをたれたまえ……。

3年6組

12人のかわいいかわいい女の子と、36人のこだまたかッコイイ男の子。

この48人が集うは310番その名も高い金魚鉢。

この教室をグルッと見回わすと、きたないヤブレカブレの教室だけど、アッ、アルアル あざやかに光るもの、それは賞状4枚。

校内水泳大会第3位、体育大会第1位、ラグビー大会学年3位、コーラス大会第2位、なんとすばらしい集団!!

ギターの名手も多数そろい、休み時間には、名曲が流れる。すばらしいのは生徒だけではないのです。担任はこれまた大手前きっての名物男、平正人。そうです!!

「ザル、目かんで死ね、退場!!」で有名なあの平正人大先生です。

48プラス1の日々の生活の楽しいこと、もうおわかれとは残念だ〜。

3年7組

今年はどういうわけか三年もクラス紹介をするらしい。でも、書いたとしても、これが出る頃には俺達はほり出されている。従って他の連中の目にふれる心配はないハズである。スプリングを正直に隅々まで読むのは新入生とその父兄ぐらいのもんだから、対象をそ

の辺において書くことにする。

今年の三年は非常にのんびりとしていた。昼休みの三ー七は、我らが担任上総教諭を称える歌の合唱や、ナポレオンに興じる連中の喚声で満ちあふれていた。幼稚であったといってもいいが、去年の三年も、三階から酸化水素爆弾を落したりして喜んでいたから、同じようなものだ。しかし、これでも出だしの頃はすごかったのである。数Ⅲの時間など目をつぶるひまもなかったくらいだ。ところが一学期の終わり頃からは、三ー七は就職クラスだ等という声がぼつぼつ聞かれ始めた。これは上総教諭の温和なムードによる所が非常に大きい。

クラスの思い出といえば、何といっても、森安君の死亡が挙げられる。五月二十日の雨の朝、森小路の駅で、彼は象をたたもうとして前屈みになった時に、入ってきた電車に頭をぶつけて死んでしまったのだ。衝撃的な死だった。あの日以来、彼の座っていた席には彼の遺族によって届けられた花がいつも置いてあった。クラス写真を撮した日、彼は欠席だったので別枠で入っているが、これが彼の運命を象徴していたと感じたのは俺だけではない。いいヤツだった。

さて、大手前高校は、日数を重ねるに従って、その良さとボロさがしみじみ認識される学校である。俺は野球の試合で、北野・天王寺その他多くの学校に行ったが、これ程ボロくて狭い学校は他にはほとんどない。その点では自信を持っていい。これで、大阪城公園と府庁別館食堂がもしなかったとしたら、この世は闇である。この点で、我が三ー七のいた二階の金魚鉢は、校内でもピカ一の教室である。三年の他のクラスからは隔離され、しかも常に周囲から監視されている。ガラス張りの廊下からは少し離れているので、騒音に悩まされることも少なく、従って爆発がおこることもないが、時たま下の化学教室から本物の爆発音が聞こえてくる。教室内は清掃がゆき届いているので、埃っぽがうず高く積ったりはちっともしていない。ここも上総教諭による所が非常に大きい。窓は、あいているのかしまっているのか判断しかねるのが多く、そのため、いろんな物が飛び込んでくる。ひと頃は三百五番あたりからチョークがよく飛来した。これは人的原因によるらしい。またある時は、木の葉が左の窓から入ってすごいスピードでそのまま右の窓から出ていった。クラスの大半はその時仮眠中であったので目撃したヤツが少なかったのは残念であった。教室はボロいが中身は良かった。まず筆頭に出てくるのは、我らが上総教諭である。彼の進学指導は、我々に希望を与えてくれた。

実力百六十で京大に入学したのがいると言われ、狂喜したヤツもいたぐらいだ。H・Rで外に映画を見に行くことを、快く許可してくれたのも彼である。又、一対一で家族的な補習を行なっているのも彼である。我らが上総良雄先生に栄光あれ！

最後に上総教諭の口ぐせを一発。

「みなさんひとつしっかり勉強して少しでも良い予備校に入ってくださいネ。」

3年8組

始業式の日、クラス一同互いに、顔をみわたして呆然とした。「スゴイ」いや「ヒドイ」のである。翌日調べた結果、卒倒した者8人。鼻血を出した者11人（そのうち今も、女の子を見ると鼻血を出すもの3人）　夜なされた者7人（そのうち漏らした者5人）　さかだちしたもの10人（すべて女子）　痴呆状態に陥った者13人（この状態は現在も続いている。）

考えてみるとクラスの者全員がなんらかの精神異状をひき起こしたのである。

正常だったのは担任の阪本先生だけであった。後に、この原因を慎重に討議した結果、先生はあまり長い間職員室においでになったので、不感症になったということが判明した。

又、O・H君にいたっては、時差通学こそが、精神錯乱を予防する決め手だと暖い日も、晴天の日も、怠けずに実行していらっしゃいます。でもこの頃、みんな慣れてきたらしく、教室にはいっても吐き気を催すぐらいになりました。

しかし社会にはなんと、様々な人間がいるのでしょう。

例えば、授業中自分のイビキにびっくりしてとび起きたS・I君。学校を賭博場とかたく信じて疑わないM・V君、T・W君etc。又、タンゴヤルデン同盟を作り、「試験によくでる英単語」を気が

狂うごとくやる者。実に人生は楽しいものですなァ。

話は変わって、このクラス程、女の子にヒジテツをくらわされたクラスはないのではなかろうか。

（　）君を筆頭として、振られたもの（　）人、のべ回数でかぞえると↓＋可ではないかという噂もちらほら。そのつど純情（？）な八組の男の子は涙をながし、その涙は、食堂のラーメンの汁になったということである。嘘だと思うのなら、汁をなめてごらん、きっとショッパイはずです。そのため一時我がクラスでは、平凡パンチ、プレイボーイが頻繁に出まわり、鼻血を出す者が続出した。

ところで最後ぐらい、八組の真の姿を紹介しときましょう。実際八組は先生方の御評判の通り、品行方正、学力優秀、精力絶倫（？）の名がもっともピッタリするクラスです。

3年9組

◇プロローグ

「ヒュー。パチン！ああ、いたあ。なにをしてくれてまんねんや。」これはある日のある休憩時間の一コマである。「　」は紙パチンコがピストルの弾丸より速く、機関車よりも強くおでこに当たったことを表している。そう、幼児がよく行う紙パチンコごっこをしているのである。ジャーン！これが三年九組なのだ。超ワルノリと半ワルノリと半勉強家と超勉強家が同居しているクラスなのだ。それ

でいいのだ。

◇パート1（回顧編）

我がクラスが最もウルノリを発起したのは自治会祭のときの西部の酒場「丸腰酒場」だったであろう。その中で大活劇「ローハイド」はすごい評判だった。裸になってのたうちまわっている奴、紙製の馬に乗って郷愁を感じている奴とかいろいろいたものだ。このとき、皆に無料でジュースを配ったが、その後、食中毒にかかった者が一人もいないとは、不思議なこともあるものだ。

◇パート2（内部事情編）

「荒野の用心棒」を見て泣く奴　1人
赤色賛成、肌色反対派　1人
成人映画を見たことのある奴　18人
美少女（但し、美しさの少い女の意）　13人
人間　48人
牛　1頭

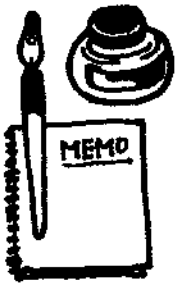
◇パート3（総括編）

最後に、クラスの本質、本来のあり方などについて考えてみたいと思ったが、これはあくまでクラス紹介というものであるらしいので、おいておきたいと思う。しかし、一、二年生の諸君！　一度、この問題について話し合って欲しい。これが三年生の切なる願いだ。

話がそれたようだが、我が三年九組は極めて個性の強い連中ばかりであったことを書いてパート3はこれでオシマイ。オラ、オラ。

◇エピローグ

あんたかて、あほやろ。うちかてあほや。ホナ、サイナラ。



Aisuru Hito e

I am happy fully

If only I can see you

From a distance all day.

For it is all I can do for you.

2－8　Yamada.

あんたかて、あほやろ。うちか

先生の紹介

井手先生・岡田先生・黒田先生・田中先生
中塚先生・長渡先生・庭野先生・・平先生・延与さん

井手先生

眼もとのやさしい先生です。声もやさしくあたたかさを感じます。だから女生徒に井手先生ファンが多いのです。（先生は御存知ないでしょう）　先生がヨットの専門家でズブぬれになって波高き荒海を舵を操って航行しておられる様子などを想像することは不可能なのですがこれは事実ですからびっくりいたします。

先生は必ず出席簿の順番にあてられますので、授業中ハラハラオドオドすることはありません。精神衛生上大へんよいことです。ところが区切りまで終って少し時間があまったとき「他の先生ならば雑談をされるでしょうが、私はしゃべり下手だから先へ進みます」といって更に先へ進まれます。授業のテンポは速いとは思えないのですが、いつのまにかたくさん進んでいてびっくりいたします。

黒板には大へんきれいにていねいに書かれます。黒板拭きで消すのがもったいないと思うのですが、先へ進むために惜し気もなく消されます。

こわい先生ではないのですが、知らない間に数学についてよく勉強せざるを得ないようになってしまいます。

数学好きでまた授業の好きなやさしい熱心な先生です。

岡田先生

いつも片手をポケットに入れ、頭を心持ち前に傾してカメのごとく落ちついて、タヌキのごとく勇猛に、すなわちカメタヌキのごとく歩いている先生がいらっしゃったら、それはまちがいなく岡田先生である。

先生は、美しい奥様とかわいいお子様のよきパパであることは言わずと知れたことである。しかし、このマイホーム先生は、だからといって利己的なところはまったくなく、むしろ、家庭が円満だからこそ、本職に専念できるのであろうというのが、うわさに流れるうわさである。それでなくては、あの悪名高く破壊亜極まりない二年六組の担任がつとまるはずがないではないか!!

授業は常にマイペースの周期で「当然」進行していく。そのため眠りの周期と一致しやすい。上まぶたと下まぶたが共有結合し、自らのパラダイスを机の上に夢見ている者をかぞえるにはおよばない。実験においては、生徒が試験管を割ろうが、方々で大小さまざまの爆発がおきようが、決して動じられないの

は先生の人格のすばらしさといおうか、習慣の恐ろしさといおうか……。質問に対しては、実に明解且つ親切に答えて下さるということである。（筆者経験皆無）好学心に燃えている生徒にも、勉強以外のことにあまりにも熱心な生徒にも人気があるのは、そういう誠実さと寛大さを備えていらっしゃるからであろう。

クラスにおいては、ガキ大将四十五名＋美女一名のよき組長である。東にラグビー大会があれば、伝統ある陸田組の旗をふり「がんばれよー」と声をかけられ、西にバスケットボール大会があれば直ちに参上……といったぐあいで、選手を元気づけられる。まさに、我クラスの[illegible]的存在である。また遅刻掃除についての偉大とまで言える比類ない寛大さは、超人間的である。その寛大さに感動して、遅刻をしないようにしよう、掃除を真面目にしよう、という動きが全くみられないのは、このよき先生に安心しきった我々の甘えであろうか？

決して、腹を立てられず、教養があり、理解があり、男らしさがあり、やさしさがあり、人間味があり……（ハヤシもあるでヨウ）の岡田先生にとわに幸あれとお祈りすると同時に、この原稿を授業中に書かして下さった（筆者が一方的に書いているのであるが）○○先生に感謝してこの筆をおく。

黒田先生

黒田昌司。年齢40才前後。住所不定（ナニ!!）職業大手前高校教諭。性別男性（推定。別に調べたわけじゃなし。）大手前高校職員室付近に生。特長、身長2m、体重100kg（10の位を四捨五入）背中に唐獅子模様の入れ墨が？（オレは見てないぞ　H!!）

性質、ふだんはきわめて紳士的で温和、しかし一学期間に二度〜三度、残酷且つ、残虐になる。（テストの時はどんなにやさしい先生でもそう見えるもの。その変身のすさまじさ！そう、華麗なる変身とでも申しましょうか。）

彼は英語の教師である。その授業には、女性層の絶大なる支援がある。やはり、彼のメガネの奥に秘められた、やさしいほほえみが子弟という間なれど、ナイーブな乙女心をあやしくくすぐるのではないのだろうか。

とにかく、彼の穏和な柔軟な人と為りは、我々を惑りようさせるのだ。（私は献身的な努力をかさね、これだけのことを書いたのです。そこで！　赤点などという時にはよろしきご配慮を……。）

二日に一度は我々のクラスに侵入してきて「きあ復習やろか！今日はどの筋や、エッこっちがあたってへん？　よっしゃ　ほんならそこからいこか」と、大阪的かつ庶民的なかけ声とともに授業をお始めになり、たとえ私達がこたえられず立たされても、ニコニコした顔つきとともに、ANOTHER、QUESTION　という非情なしうちで我々を絶望の淵へとたたきおとすのであります。そして、職員室へかえると、チョークを手をつかわずにチョークばさみにいれることを、唯一の楽しみにしているという噂が某先生より流されております。一説は、これに凝っちゃって、一時間目から昼

黒田昌司　年齢41才前後、付可不定（ナニ!!）職業大手前高校教

時は、これに凝っちゃって、一時間目から昼

休みになってもまだ無心にそれをくりかえし、その日の授業がなくなったという根も葉も実も蓋もないデマも乱れとんでおりましュ。たまには、昼休みに愛川のラケットを腰に、ハチマキをして講堂へ卓球を一発、ブチカマシにやってこられます。

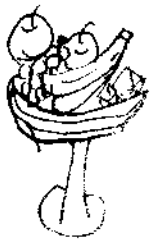
家にかえると、クレオパトラか場貴妃か、はたまたルリコか吉永小百合、ソフィアローレンなにするものぞと群がる美女をおしのけて枚方広しといえども右にでるものなしという天下の美女と、ほまれ高き奥さまと、枚方にきよらかに咲いた可憐な花とチマタで噂の娘さんと、もう一人、ゆくすえはアランドロンかマックィーン、はたまたチャールズブロンソンかとの噂でもちきりの御子息！

しめて四人の核家族の大黒柱として一人でイキがっておられます（スイマセン…スイマセン、語呂をあわすために仕方なく……）

やさしいパパとして日夜たゆまぬ努力を続け、今日の栄光をみるのであります。

だけど、ただやさしいだけでなく注意すべき所は注意しますのだ。（あんまり甘いことおへんえ〜　コマーシャルの見すぎですなあ。）でも、御安心を。どなりつけたり、腕力にうったえたりなどというミットモハズかしいことは、ゆめゆめなきりませんので……。

とにかく、教師としては最高のウツワ、中身も濃いでよし、とにかくまちがいなしに、ご立派な先生でございます。大手前生徒の英語能力の発展に力を尽くす黒田昌司に栄光あれ！



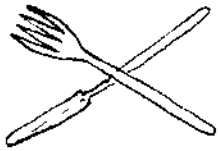
田中先生

名前を聞いて恐そうだと思う人もいるかもしれないが、一度授業をうけてみると、とんでもない、実に気にやさしくて方持ちのいいちゃん。いやお嬢様的な先生であることがわかる。体育と保健を担当されているが、常に花もはじらう天手前女生徒の美容と健康の為に努力して下さっている。たとえば、冬休み中にお餅を食べ過ぎて少々スタイルをそこねた女子の三学期第一時間目の体育には、ちゃんとぜい肉をとる美容体操をとり入れて下さった。本校の女生徒がこのように美しい（？）のも、すべて先生の指導のおかげである。

体育の授業もきることながら、先生に保健を教えてもらうクラスは、もうけものである。えてして本を読むだけの授業になりがちの保健も、先生の手にかかると実に楽しいものになる。心理学に明るい先生は、生徒の顔を見るだけで、どんな性格か、何を悩んでいるかをズバリ当ててしまわれる。それにも増して、本校にたむろするアベックを一日見るなり、この二人がどの程度の関係かまで、当ててしまわれる。（アベックの方々は、くれぐれも注意されるべし。）そういう意味では一番恐い先生と言えるかもしれない。また、先生は手相術にも通じていらっしゃって、授業のあいまに、手相術入門の手ほどきまでして下さる。それだけではもの足りない人のためにはいつでも体育研究室へ行くと、無料でみて下さるそうだ。黙ってすわればピタリと当たるで、その辺の占い師よりもずっと的中率

が高い。教師をやめてもこれで食べていけるというウワサもチラホラ……。まずは一度おためしを。

先生の授業にはしばしば「家の息子が」という言葉が出てくる。ずいぶんやんちゃな息子さんらしいが、それを困る困ると言われながら、可愛くてたまらないという顔をして話される。きっと家庭でも、良きママゴンであられるに違いないと思う。



中塚先生

我が一年三組の担任、化学が専門である。まず何と言おうか、とにかくやさしいと言ったらいいのか、それとも何と言ったらよいのだろう。我々が入学して担任の先生の話を聞く。生徒の名前を呼ぶときも、必ずといっていいくらい　××君、△○さんとこられる。何か頼まれたことは、断れない先生。だからクラスでの時間外労働が何度かあった。クリスマスにパーティをやったとき、クラスの全員に、写真とか文庫本をくださった。知り合いの人のヴァイオリンリサイタルがあってその切符をたくさんもらって、クラスのみんなに「半額は、出しますから聞きにいく人があったら来てください。」我がクラスは、先生に、地学を教えていただいている。何か、大切なことがあると、すかさずプリントして配ってくださった。我々は成績のことで、ずいぶん先生を悩ませた。別に悪気があるわけじゃないんですけど……。そんなとき、参考図書を推薦してくださったり、関係のある記事をプリントしてくださったり……。先生ありがとうございます。

我々は、先生の怒った様子を一度として見たことがあろうか。いやありはしない。常に冷静である。現在、ラグビー部、空手部の顧問、そしてフルートも吹かれる。初めの頃、頼れる先生という印象が、うすい時期があったようだが、今では、誰もが、信頼する先生である。著者は、先生の年令を十年もくいちがって想像していた。あるときなど、まるで大学院にでも通っているかのようにも思われた。

私達は、誠実というものを、じかに見たという感でいっぱいなのである。初めは、か弱いという印象があるかもしれない。しかし、月日の流れは、必ずそれを信頼の寄りどころとするであろう先生なのである。

長渡先生

先生はスポーツマンにふさわしく　長髪、江夏と同じ立教大学の出身であり、大学時代はバスケットの選手として活躍し背番号は7であったとのことだ。授業中よく大学の話しがでるが、先生の話だと長髪が巨人軍の主将になったのは先生の神通力によるものであるとのことだ。山学は天下の起東であるので先生の後輩は多い。

先生は極めて若い。身体的にも精神的にも若々しく本校の先生の平均年令を一挙に小さくした功績は大きい。他の高校へ行ったとき生徒とまちがわれ、いくら説明してもわかってもらえず叱られたことがあったそうだがそれくらい若い。生徒とは友だちのようだ。そ

り、関係のある記事をプリントしてくださったり……。先生ありがとがあったそうだがそれくらい若い。生徒とは友だちのようだ。そのため　あまり親しすぎて先生に失礼なことを言ってしまいそうになることもあった。勿論独身である。

若いだけになかなかのおシャレである。時には男性週刊紙のモデルよりイカすような服やアクセサリーを着用されている。このような先生がもっと多くなれば、スモッグの中の大手前も少しは明るくなるのではないか。

バスケットについては、先日行なわれた先生チームと生徒代表チームとの対戦での大活躍はあまりにも有名である。そのため先生が体育の先生ではなくて、政経の先生であるということを知らない人が居てはいけないので特に強調しておく。

先生の黒板の字は大きく美しくまた前衛的である。政経特有の難解なコトバが猛烈ないきおいで飛び出してくる。また資料をごっそり持参してそれを次々に引用されるので、政経の授業は中味が濃い。すなわちむつかしい。スポーツの面でも授業の面でも長渡先生に接することのできたのは好運であったと思う。

庭野先生

一年前までは大手前で一番若い先生だったが、長渡先生がこられてからは中年教師層に転落（昇進）してしまった。

先生の目のさがりぐあいは正接が○・三くらいの角度であり、またことばは「大阪弁もまじるでよ。ウハウハ喜ぶよ。」というように東京のコトバや信州の山奥のコトバ（先生の故郷は「おかーさーん！お味噌なら……」で有名な長野県）と大阪のコトバがいり乱れて混沌と一緒にブーッと鳴る。先生の授業はいうまでもなく天晴にたくしくまた整方的なものである。「でんたく、今日はバスケットをやるから、バスケット忘れてるな、よし平山、見本みせてみイ。」と先生が言う。生徒が用意をそろえて「先生、ハヤシもあるでよ。」

先生は大学在学中バスケット一本に精進して誘かとは逆に酒も煙草も麻雀もしなかった。今でも　筆者に「卒業したら麻雀を教えてくれ」という。（筆者はいつ卒業できるのか疑問だが）。大学在学中にある女性と知りあい一目ぼれ卒業後すぐ結婚、他の女性には目もくれず、もくもくと体育と恋女房にうちこんできたこの三年間である。奥さんには親切というかいかれているのだが、他の女性には正反対。女子バスケットのしごきは見事。おかげで大手前女バスは大阪府トップにおどり出ている。

先生の生まれが信州、大学が東京、現住所が茨木、奥さんの実家が若狭、日本国中股にかけての大活躍、おかげでクラブの合宿地にも不自由しない。

先生の授業をうけたこと、先生と親しくなったことは大へん得をしたような気がしてならない。後輩たちよ、庭野先生と友達になれ、損はしないと思うよ。

平先生

朝ねむい目をこすり「もう一分間だけ寝ていよう。」と思うとき

神さまのお告げのように平先生の顔がパッとあらわれ、先生の大きな声が耳にひびく。その瞬間反射的に身体がヘットに対して垂直となる。

先生は遅刻や欠席について大へんきびしい。特に遅刻は授業の流れを中断して先生や他の生徒の迷惑になるからと、いつも強く注意される。その通りだと思う。だから私は一回も遅刻しない。先生の組は、交通事故とは反対に「本日の遅刻欠席ゼロ」が一週間も一カ月も続いている。

こう書くと大へんこわいきびしい先生のように思われるかも知れないが、先生の授業はそうではない。英語で重要な事項についてはこわい声で言われるので頭の中にしみこんでしまって忘れられなくなる。だから英語がよくわかるようになり好きになる。

ときどき（いつもという生徒もあるが）いつの間にか（計画的にという生徒もあるが）脱線して、先生の学生時代のことや先生の恩師のことなど先生御自身のことやまた社会的なことなどについてまいろいろとユーモアたっぷりのためになるお話をされる。英語以外のことでも大へん勉強になる。まさに趣味と実益とを兼ねた名授業といえる。勿論れもたくなることなど全くない。

先生が黒板の下のふちに足をかけて授業をするという奇妙なクセのあることを知っている人は少ないと思うのでここで特ダネとして紹介しておく。

このたのしく中味の濃い授業も、南海ホークスがまけた日の翌日はちょっとちがってくる。よくあてられる。むつかしい質問が矢つぎ早やにあびせられる。だから我々はひたすら南海ホークスが勝つように声援しているわけである。

野球部の部員をなかくしておられ、毎年、甲子園をめざして、ユニホームを着て生徒と一緒に練習しておられるのを見ると、先生のほんとの年が信じられない。

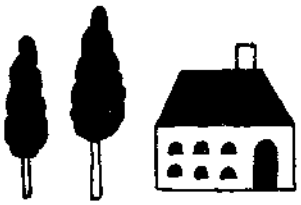
とにかく元気一杯のガンバリ先生である。

延与さん（校務員のおばさん）

大手前に6年間在学する間、先生には一度も叱られることのない人もこのおばさんにはきっと叱られることになっている。大手前で一ばんこわい人は誰か、とたずねると○○先生ととのおばさんと答えるのが普通である。（最近○○先生はやさしくなったというウワサがあるがそれがほんととするとこわいのはこのおばさんだけ）大きな声で叱られるので全くびっくりしてしまう。

でも、おばさんはまちがっていることや生徒らしくないことを注意しているのであって、心の中は大へん親切であとでは何故叱ったそのわけをくわしく説明してくれる。先生やまた親の気づかぬことも注意してもらえるから感謝しなければならないと思う。

大手前につとめてから二十四年で　おばさんより古くからつとめている先生は僅かに六人ということだ。大手前にとっては人間国宝であり、おばさんの頭の中には、戦後の大手前の歴史が刻みこまれている。いつまでも元気で我々を叱りつけてほしい（？）と思う。



ぎ早やにあびせられる。だから我々はひたすら南海ホークスが勝て

他校訪問記

大手前高校定時制・旭高校・桃山学院高校
天王寺高校・都島工業高校

大手前高校定時制

毎日、同じ教室を使い、同じ校章をつけて学校に通っている高校生がいることを我々は忘れがちである。そこで定時制生徒諸君との親睦をはかる意味も兼ねてインタビューをしてみた。

やはり我々全日制生徒とはかなり立場に相違があり、「学校よりも職場に関心がある」ということばに強い印象をうけたが、そうかといってクラブ活動などは不活発ではなく運動系クラブ、中でも陸上競技部は近畿大会に出場する位である。クラブの練習は全課目の四時間目と毎日授業が終わって八時五十五分から九時半までというわずかな時間だけだから立派だと思う。文化系クラブは女子が男子の2倍という事情から察して、運動系以上に活発かと考えていた筆者の期待は見事に裏切られ、名目上は存在していても実質上は全く存在しないクラブもいくつかあるそうである。これは全日制においてもいえることであり、この事を聞いて耳の痛い諸君は少くないと筆者は信じる。

自治会活動においても我々と同様であるが、インタビューに応じてもらった執行部の九人のうち半分以上五人の方が女性であり、しかも会長が女性であったことは、野郎が多い我々の執行部と比較してかなり雰囲気が違うなという感じを与えた。

クラス内での活動も、みんなあまりのらないようで主に口達を利用してハイキングや解散会などを開くけれども参加者が少ないとなげいておられたが生徒の個々の立場上やむをえないという声もあった。やはり仕事と勉強の両立はむずかしいようで、入学した年の夏休みまでに退学する方も相当おられるそうである。その点我々は恵まれているということを自覚せねばならないと思う。

今まで全く接触がなかったのは考えてみれば不思議なことであるが、又これ程不可解なこともない。その点はあちらの執行部の方も感じられて、これからに意志の疎通をはかることによって、授業する時間を異なるが、同一高校の生徒としての団結を深め、今までのいわゆる対立的関係から友好的関係の樹立へと双方の態度を改善していこうではないかという点で意見が一致した。今すぐというわけにはいかないが三年ほどたてばスプリング誌上に定時制生徒諸君の意見や文が掲載され、ただの自治会機関誌から大手前高等学校（もちろん定時。全日制の両方）機関誌にまで発展するのではないかという筆者の夢を単なる夢に終わらせてもらいたくないものである。

旭高校

旭高校は住宅にかこまれた市内では比較的静かなところにある。しかしそばには阪神高速道路があり汚ないドブ川もある。

学校につくと大手前出身の若い先生（旭では年よりの方らしい）の出迎えをうけ恐縮。その先生の部屋にすでに四人の生徒が待っていてすぐ懇談。その四人は正規の役員ではなく代議員の中から仮選出された人である。立候補者がなく執行部ができなくて、予算の執行や諸行事の運営をするためだそうだ。大手前はよくやっていると評価してくれるが大手前でも立候補者がなく本部が成立しない可能性は強いと思う。そうならないよう全自治会員が努力しなければならない。

でも旭では文化祭、体育祭など生徒の活動は活発のようだ。文化祭では文化委員長がハッスルして「今年は例年のマンネリを打破して変ったことをやろう」と大キャンペーンを行ない全体としてもり上った。半分以上のクラスがクラス参加し大手前の自治会祭の雰囲気をもったパライアテイにとんだたのしいもので、二日とも学校で展示や舞台行事を行なった。

文化祭などのことを話しする旭の生徒は楽しくいきいきしていてこの生徒たちが学校のまとまりかけているムードを胸んで来年度は立派な執行部を生み出すだろうと感じられた。

女生徒の割合が大手前より少し大きく男女同数に近い。そのかわり3年生では家庭科コースが女子ばかりでそのあふりで理科コースで男子組が一つある。あまり気にしていないようす。（クラス以外の人とつきあえないことはないからね）

校内の雰囲気は大手前と殆んど同じ。男子が制帽をかぶる（かぶらない）率。服装の自由さと規定の服装でない人の割合。遅刻率。SL（睡眠学習）の普及度。早弁率。話せば話すほどよく似ている。

ちがうところが一つある。これは我々には重大なこと。食堂が極めて大きくデラックス。旭高校マイナス食堂イコールゼロと言っていた。食券制度だ。それでも昼休みには満員になるので自然校外へ流れる。学校のまわりの飲食店は旭の生徒の食慾と外食罪（学校では一応校外に出ないようにと注意している）とで経営が成立している。

最後に大手前の印象をきく。話をきくと旭とあまりにも似ているのでびっくりした。もっと親しくなりたい。しかし大手前はやるときはやるという感じがする。また広い意味で高校生らしい、ということだった。

私たちの印象は、旭はなごやかでのびのびしたたのしい高校だという感じだった。

桃山学院高校

1月22日（金）、本校取材班は、桃山学院高等学部を訪問、いろいろ学校生活のようすについて伺ってみた。

まず、クラブ活動については、さすが男子校だけあって、運動部が特に活発なのであるが、困ったことには、部員について多いところと少ないところが極端だそうだ。そして、私たちが訪れた時も、グランドでは、練習も盛んだった。そして、自治会の話になり、機

講、その他詳しく説明していただいた。まず、最高議決機関は〝総会〟と呼ばれる全会員3分の1の出席によって行なわれる会が正式なのだそうだが、場所がないとのことで、評議委員会が通常、その責任を果たしている。

そして、その他、ホームルーム、運動部連合、文化部連合、風紀、体育の各委員会が設置されてある。学校行事については、ほとんど自治会主催で、5月には、本校と同じように壮烈をきわめる予算会議があって、困難な行事の一つということだ。又、文化祭は10月で文化部が中心となって、各クラスが参加、お化け屋敷、フォーク等自由感にあふれた2日間で、昨年は、エロ・グロ・ナンセンス廃止など、毎年新しい方針で、催されるそうだ。卒業式については、自治会としては、ほとんどタッチしないそうだが、それでも、送辞の廃止など、新しい形式をとり入れている。又、本校のように予餞会などの行事はなく、各クラブで送別会を開いている。そして、自治会で一番問題になっていること、これは、自治会の低調さで、新入生は与えられた「自由」に対する重要性に認識薄く、少し、わがまま的意識があるという見方が、生徒の内部に多く、自主規制必要の意見も多いという。また、自治会費（月額80円）に対応する自治会からの恩恵に不満の声が多く、会費の値上げという声もあって、難問題ということらしい。制服の自由化も最近の問題で、ただ今審議中とのことだ。

風紀面では、極端な長髪についても自由ムードで、授業エスケープもあるという。政治活動は一応自由、弾圧のような行為はなく、ビラや、掲示物も、承認必要の規約の中でも自動的承認という自由さである。途中で、単学についてはどうですかー　という問いに対してほとんどの人が気楽だとか、何でも思ったことが言えると話されていた。本校取材班の女子の中には、この時不満の色も見えたが、その他、いろいろ楽しい有意義な会が持てて一同満足した数時間訪問であった。

天王寺高校

学校はとても静かで、生徒はあまりいなかったようだ。自治会室その他のクラブ部室、食堂などの諸施設は我校よりはだいぶ整っていた。食堂は食券を買って品物と交換する制度で、カレー、ラーメンなどが10円、5円我校より高かった。

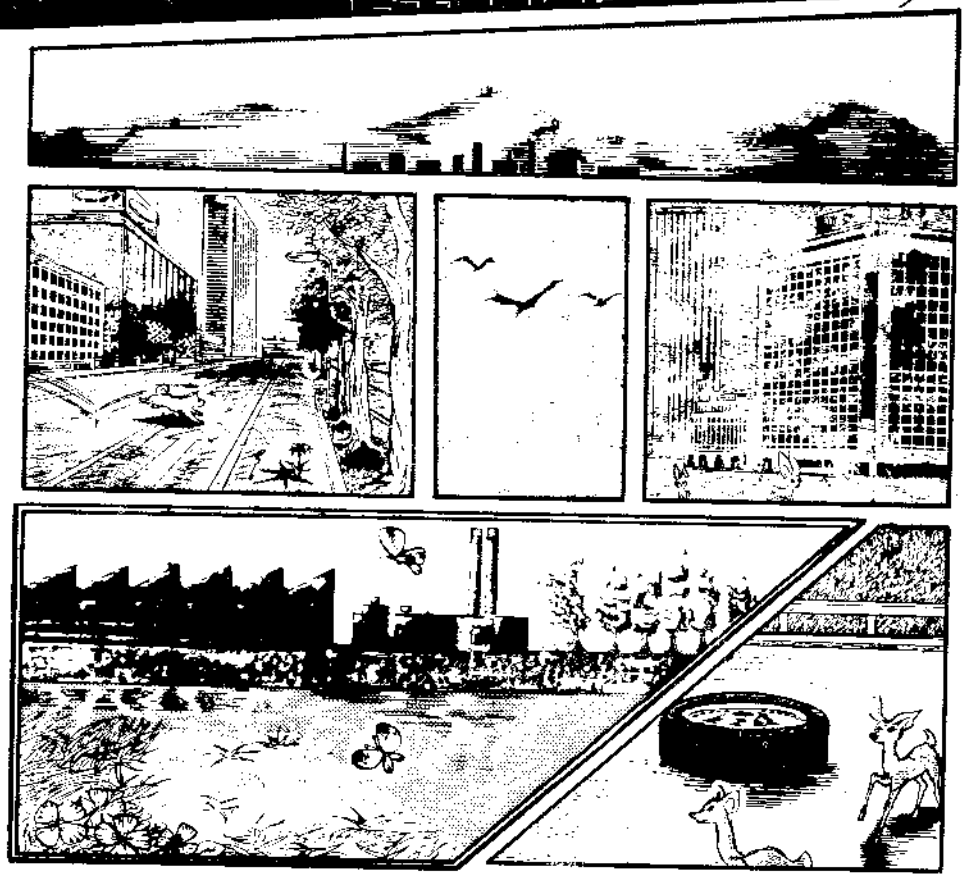
自治会活動については、まず、運動会、文化祭等の行事が学校側主催でやや強制的なものであるらしい。特に運動会は我校の体育祭と比べて娯楽的な要素はかなり少く、競技会という性格が強いという話である。

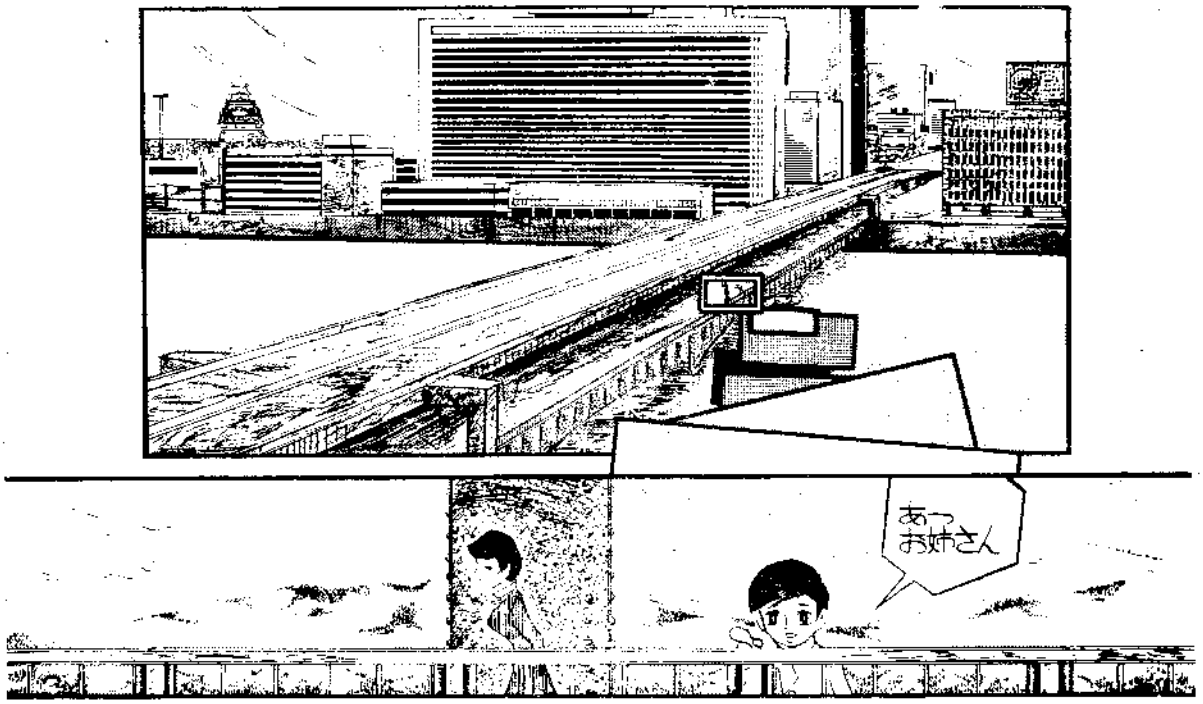
生徒の自治会への無関心度は我校よりもっとひどいようだ。例として生徒の十人に九人は会長の名前を知らないだろうとか、会合への出席率が悪いとなどを挙げた。

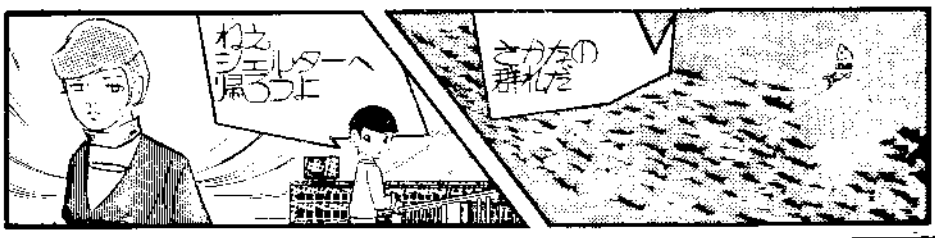
またしくみの上では各部長等が議会に属すなど執行部は議会に集中している。

後期自治会の目標は卒業式を自分たちの手でやることと会長は「三無主義追放!!」と言っていた。全体的にみて我校の方が活動はるかにさかんであるような印象をうけた。我校は去年はどうであったかわからないが、今年になって特に前期自治会執行部の人たち

THE FUTURE
CREATOR 古崎光明




あっ
お姉さん


ねえ
シェルターへ
帰ろうよ
さかなの
群れだ

ねえ おねえさん
他の人達は 皆 なぜいなくなったの？

が体育祭を全面的に生徒の手でやることなどその活動は両期的なものであったと思う。

ところで生徒の交流については即座に上級生になると盛んであるとこたえたが、一年生などは、クラスによってちがうが、異性、同性間共、対話は少ないと言っていた。

学校の雰囲気は、施設などの環境においては、我校のように周囲を大きな建物に囲まれていないので明るく、ひろびろとしていた。

が、「学校の色は？」と聞くと「ダークグレー」と言っていた。やはり受験の関係からだろうか。で、「授業の雰囲気は」と聞くと、「それ程緊張したものでもない」というような意味の答えが帰ってきた。しかし、一年でも受験勉強についてはひしひしと胸にせまるところがあるようだ。

クラブはわりあいにさかんなようだった。

ともかく、両校が一致したところは、生徒は概して保守的であることと、程度の差はあれ、無関心なことだった。

都島工業高校

「工業高校」といえば、ほとんどの人は、男子ばかりの学校と考えているでしょう。しかし、これは以前のことです。最近のように女性の力が強くなってくると、工業高校へも、女生徒が進出してくるのがあたりまえです。

わたしたちが訪問した都島工高にも、女生徒が全員で四十五人位いるそうです。しかし、女子の権利は、わりに無視されていて、男子並みにあつかわれているそうです。たとえば、体育の時間には、女子も男子と一緒に、柔道、ラグビー、サッカーなどを練習するそうです。一度、大手前の女子も男子と一緒にラグビーなどしてみたらどうでしょうか。

また、この学校では、クラブの制度が、わが校と大変違います。わが校では、毎年、予算会議を開いて、クラブの間で予算の奪い合いが行なわれますが、この学校では、予算の割合が決まっているので、たいした活動をしていないクラブでも、毎年同じ額の予算がもらえるわけです。それから、わが校ならば、同好会はクラブに昇格することができるし、クラブを廃止することもできますが、この学校では、クラブの種類が決まっているので、廃止されることもなく、同好会も絶対クラブに昇格できないそうです。これらは、昔に決められた古い制度なので、本部役員の人たちは、どうにか改正したいといっていました。

この学校の体育祭は、壮烈なる争いだそうです。ふだんの日でも、各科で対立が行われていて、つき合いもあまりないそうです。それがこの体育祭の日に爆発して、騎馬戦では、あまりの恐ろしさに、目もあけていられないとか。（少しオーバーでした。）とにかく、迫力があって見ごたえがあるそうです。一度、みなさんも見に行ってみませんか。

さて最後に、お待ちかねの食堂の話しですが、いずこも同じですね。質より量を重視しているので、中味が悪いのが問題になっているそうです。それでも食堂の利用者が多いというのも、しかたのない話しです。なにしろ安くてたくさん食べられるのですから。

このように、工業高校と普通高校とを比べると習っていることは違うけれども、その他はほとんど同じであるということです。

先生の回想記

綿谷先生・中塚先生
南先生・森先生

回想記

綿谷芳夫

古くから大手前にいる教師の一人として私に回想記を書いて欲しいとの事でした。生来運動場を駆けずり廻ったり、ボールを投げたりする事は得意で、そんな事ばかりやって来た私にはペンを取ることは最も不得意で、そんながらではないので一応お断りしたのですが、たつての依頼に負けてしまい頭の片隅に残っている昔のことどもを思いだすままに綴ってみることにしました。私が大手前（当時大手前高女）に着任したのは昭和18年9月1日で太平洋戦争の真只中で学校もすでに戦時体制：学校の前は市電が走っていたが、生徒は身体の鍛錬の為に大手前（府庁前）で下車せず一と停留所前で下車し、南から来る生徒は馬場町で、北から通学している生徒は偕行社前（今の日本工業新聞社の附近）で乗りて、二列縦隊で足並を揃えて通学、校門を入ると生徒は皆、一々、昭憲皇太后行啓記念碑に向って最敬礼をしていた。受付けの玄関の所まで来ると廊下は新しい家の廊下のように真白に光り、生徒も職員も廊下を素足で歩いていた。今のこの校舎はその当時すでに相当古いものではあったが、掃除や手入が行き届いていたので非常に気持のよい校舎であった。

この戦時体制下の大手前生は勿論、女子だけであったが何事をしても熱心によく出来た。そのやり方が又非常に頭脳的な要領のよい（良い意味での）やり方で一寸の無駄もなく気持ちよく立派に出来た教師が指示さえ適確にしておけば期待以上に立派にやり遂げてくれた。運動会でも、音楽会でも、演劇でも、防火訓練でも、研究授業でも、卒業式でも、リハーサルはたいして上手ではないが指示さえ適切であれば本番はすばらしく上手に出来、いろんな人々から激賞される事が多かった。又当時は阪急沿線の芦屋、豊中、宝塚から通学している生徒も多かった。学校は昔から遅刻がやかましかったので阪急梅田駅まで来た生徒達が到底市電やバスでは間に合いそうにない時はタクシーをよく利用していた。省線からも、阪神からも混雑組はタクシー乗り場へ集って来て制服さえ同じなら学年組がちがっていても、どこの誰でも一緒になってとびのった、運ちゃんも心得たもので胸の徽章をチラリと見て、「大手前でんな」と、なるべく信号の少ない中之島ー松屋町筋ー今の東中学校の前をとばして国民会館の横へピタリとまったそうだ。そこで割勘ではらってとび降り何くわぬ顔で登校者の列中へ這入る生徒も可成りいた。この国民会館というのもなかなか芸の細いところで、あらゆる角度か

ら見つからぬためであった。実に要領のよいのには感心させられることが多かった。

運動部も常に如何にすれば短時間の練習で効果を上げられるかということを考えながら練習していた。それ故練習量に比しては試合の成績は良好であった。そしてその練習を節約した時間（早く家に帰って、早く学習にとりかかり）はもっぱら学習に細していた。そこで大手前生は運動にも勉強にも音楽や絵や書道にも優れた生徒であると世間からも定評であった。又陽気であり、指導力にも卓越していた。戦時中にはよく「撃ちてしやまむ」という言葉が流行したが、運動の試合に行ってもこの精神が横溢して、負けから非常にくやしがって直ぐ学校へ帰って、その日から練習をして、その翌年報復した事もあった。この時代の卒業生が今、私の家の近くにも沢山住んでいますが皆、小学校のＰＴＡの委員の中心人物として積極的に活躍しておられるのをみても本校の生徒は如何に指導力があり積極的であるかが窺われます。しかし一般に風采はあまりあがらなかった、どこかモッサリしたところがあった。要するにこの時代の大手前生の気質を一口で云えば〝天下の大手前生〟は頭が良くて、もっさり型である。ガリ勉、カマボコ型も可成りいたが一般には質実剛健型、いってみれば勝気、淡白、堅実、熱心で、積極性に富んでいた。一番で卒業してもビリで出ても大手前の卒業というプライドを持っていた。戦争も愈々熾烈をきわめ私も亦二度目の応召で御川部で南ベトナム（サイゴン→プノンペン）→陸路タイ（バンコック）→空路ビルマ（ラングーン→マンダレー）へとインパール作戦に参加、前線へ向う途中マンダレーで思いもかけぬ大手前生からの沢山の慰問袋と慰問の手紙をいただき戦友や部下から非常に羨しがられたがその時も大手前生の心情がうかがわれて心暖まる思いで感謝、感激裡に出発した事が今なお脳裏に深く印象づけられている。

戦後再び荒廃した大手前に帰って来た。プールにはまだ焼夷弾がささっており、金鵄会館も焼夷弾で半分破壊されており、中庭もコートも半畑に変り果てゝいた。その後数年して遂次復興され運動場も前々校長佐藤先生の尽力で現在の広さにまで拡張された。その間学制改革があっても本校も北野中学と職員、生徒、交流して新制大手前高校が誕生、北野中学から約半数の男生徒と職員が来られ、こゝに新しい大手前高校としての伝統の基礎が出来た。女生徒には大手前タイプといわれる前述の気質が依然として残っていたが、その上に旧北野中学の伝統や気質が注ぎ込まれカクテルされ混然一体となって新しい大手前高校気質（タイプ）なるものが出来上ったように思う、がその底流にはやはり大手前高女臭さがどうしても流れているように思われたが時代と共に社会の変遷にともなって、そういったものも現在では遂次新しいものに変りつつあるように思われますが何れにしても大手前高校の生徒は立派な人間になるような雰囲気を自からの手で作り出して行き、それが又後輩達のためにも何らかの役に立つようなものを作るのが必要ではないだろうか。例えば生徒は自発的に皆、何かのクラブにはいり、放課後は一斉にスポーツをやって心身を鍛錬し、5時30分になれば一斉に下校、急いで帰宅し、学習にいそしみ、興味活動に専念出来、何事をする時でも熱心に精神を集中して出来るタイプになる……予習や復習をやっていない生徒は一人も居ないといったタイプに……熱心といえばスポーツの校内大会やコーラス大会には朝早くからクラス員が熱心に練習している風景が見られるがこれもやはり一つの大手前タイプ…だと昔のよい伝統が残っているように思われる。その他現在の大手前生のタイプはどうだろうか？…規定の紙面もなくなったので書く事が出来なくなりましたのでいつかの機会を期待していたゞいて…ペンをおきます。

出来なくなりましたのでいつかの機会を期待しておりますン
をおきます。

石垣

回想記にかえて

南　景雄

三島由紀夫のハラキリが世の中を変えることはないとするならば山崎君が七度死に、山木君が七度生きたとしても、世の中はやはり変らないだろう。（三島の生死と山崎君らのそれとを同質のものとして扱っていると誤解しないでほしい。）

私が大手前高校に来てから、もうかれこれ十七年。それは諸君の過去の全生涯にほぼ匹敵するだろう。短い人生の一部としては長すぎるほどの歳月ではある。だが私はそれらの日々を回想して、いったい何を諸君に語り得るであろうか。真の回想記とは、その世界への永訣ののちに初めて書き得るものなのではなかろうか。

今年の正月、ある卒業生からの年賀状に、こういう意味のことが書かれていた。「高校の頃は目的意識もあり生活に充実感もあって楽しかったが、今では大きな夢も無く、頽落した自分を痛感する」この優秀な青年（学業成績のことだけを言っているのではない。）は、大手前を卒業して今年が五年目である。おそらくこれは偽りのない回顧であろうし、またこの感慨は彼の生涯変らぬものであるのかも知れない。

諸君は晴れの入学式の日にくぐった、正にその同じ師表の門から卒業式の日にも出てゆくのだ。これは実に象徴的なことではないか。何となれば、大手前の門を出るためにその門から入って来たのだから。体は同じ門から出ても、心は別の門から出てゆく人が何人いるだろうか。もっとも、同じその門を、とんどは追憶に生きる人として、もう一度くぐり抜けようとすることもまた自由である。

私の知る限りでの十七年間の大手前について、その編年記をつくることはむしろ容易のわざである。だが、事実の羅列は歴史にとっておそらく無意味であろう。

「昔ハヨゴザンシタ」などと私は到底言う気にはなれない。ただ、そのかみファイヤーカーニバルの篝火は林々と大阪城内の堀端に燃え、ツイストの輪は三三五五天守の高楼をめぐり、深みゆく五月闇のまっただ中、東の間の仮装に妖しく煌めくアナクロニズムの波間を、悔悟者はおのがじし失なわれた青春のシルエットを追い求めてやまなかった。ーただそれだけのことである。

つい二年程前まで、修学旅行はずっと長年の間九州を志向し続けて来た。私も三年に一度は諸君と経験を共にした。恋と友情の夢は長崎の薄明とともに花ひらき、島原の唄は天草にかける虹の橋をとえて、阿蘇の峯に消えがての雲とたなびく……その九州旅行の最後の年のこと。別府からの帰路の船中で、偶然新婚旅行中の卒業生が若奥さんを連れて私のキャビンを訪ねて来た。よく聴いてみると、彼が持った六年前の修学旅行――従ってその年の修学旅行と全く同じコースを再度辿っていることがわかった。

どうして人生行路の軌跡はこうもダルなのであろうか。この年を最後に、卒業旅行は東へ転じた。

こうした歴史ならぬエピソードのフラグメントは、いくら書き続けても果てしがない。しかしそれらはいかに美しくとも、十七年の重たい灰色の時間の中にあっては、ただただ空しい限りである。幼児は積木を積み上げて

はまた突き崩す。だがそれは常に未来へ向ってなのだ。

数年前、私の学級でクラス新聞をつくることになり、それに「石垣」というタイトルがつけられた。生徒諸君がつけたのだ。ただ何となくつけられたのかも知れない。しかし私は心打たれた。

諸君は在学三年間、あの大阪城の石垣を、登下校のたびごとに、いったいどんな心持ちでながめるのであろう。全く身動き一つ出来ない、もうぎりぎりいっぱいに、びっしりと押しつめられた、あの一つ一つの石の哀しみを。それでいて、否、それ故にこそ、微動だもしない城の石垣を。私はそれを十七年間、朝な夕な見つめつづけて来た。私の回想は重たくて灰色だ。あの大阪城の石垣のように。

私の高校時代

中塚五郎

昨年十一月二十五日、突然起こった三島由紀夫の自決事件は私にあの暗い戦争中のことをまざまざと実感をもってよみがえらせた。私はいまはっきりと思い出す。私たちは、あの頃いま流行の「生きがい」という言葉とはまったく逆に、「死にがい」を求めて生きなければならなかったのだ。

満洲事変にはじまった十五年にわたる戦争は私が小学校に入学する以前にすでに始まっていて、中学校から高校に進学する頃には、もうどうにもならぬ破局に突入していた。政府の発表がどうであろうと、日本の破滅は直観的に明らかだった。私たちは、自分の二十才以後の姿を想像することができなかった。私たちが死ぬことによってのみ、日本が救われるということをばくぜんと感じ、またそのように教えられた。ただ、どのような死に方をすることが最も意義があるかを考えねばならなかった。しかし、一方私たちの心の奥底では、押えようとしても、押えることのできない若さと、生命力とがこのような生き方にはげしく反発していた。したがって、私たちが自分の未来を考えるとき、いいようのない暗い気持におちいるのであった。

私が自分の中学、高校時代をふり返るとき、その記憶の大部分は、このような暗い思い出ばかりである。その中にただ一つ、ぱっと明るく光が差込んだように感ずるのが、第三高等学校の一年なのである。私は、いま考えてみて、あの時代によくあのように自由な学校が存在し得たものだと不思議な気がする。三高に私が入学する前の年、中学校では軍事教練が強化され、敵国の言葉として英語はすでに廃止されていた。ところが、三高では、英語の時間にオックスフォード辞典を編集した英国人の粘り強さがたたえられ、英国首相チャーチルの名前が出てきても、その文人としての偉大さに敬意が表されるのである。それは、千年の歴史を耐え抜いてきた京都の、芯の強さが表われていたのではなかったかと、私はいま思う。そしてこの自由さの中に、英国のスポーツ、ラグビー部がまだ生き残っていたのである。

ラグビー部といえば、私の中学時代、北野のラグビー部の全盛期であった。全国大会に四年連続出場し、最後の年は戦時下の変則大会であったとはいえ、見事優勝している。その前年は、強豪秋田工業を準決勝で押しまくりながら、抽選のため惜敗している。また北野、天王寺の定期戦は大阪スポーツの華であった。したがって、ラグビー部員といえば、全校でのスターであり、やせっぽちで運動神経のにぶい私など、そばにも寄れない存在であった。

ところが、その私が三高入学と同時にラグビー部から勧誘を受けたのである。それは恐らく、北野出身であったからであろう。私を熱心に勧誘してくれたのは、北朝鮮出身の三年生であった。その人が、いくらかたどたどしい日本語で何度もきてくれるうちに、やっ

てみようという気になったのである。

練習は勿論つらかった。それに、戦争中のこととて、ジャージも靴もなかった。けれど毎晩ねる前にも腹筋と指の屈伸をくり返して頑張っているうちに、少しずつ上級生についていけるようになった。練習が終ったあと、くたくたに疲れていたけれど、「僕にもラグビーができる」という嬉しさに胸が一ぱいだったことを昨日のように思い出すことができる。

私のラグビー部生活はたった一年であった。実際はもっと短かかったかもしれない。五月には三年生が、七月には二年生が、工場に動員されて学校から姿を消した。そして一年が終ると私たちも、大阪の住友金属に航空機材料をつくるために、全員動員された。そこで結核にかかった私は、もう学生時代、スポーツはできなかった。したがって、三高時代のたった一年のラグビー部生活が、何物にもかえがたい私の青春時代の貴重な思い出なのである。

私はラグビー部生活で、最も印象に残る試合は、三年生が学園を去るとき行なわれた送別試合である。ゲームは昭和十九年五月十九日、雨上りの三高校庭で行なわれた。相手は関西で三高とともに最も古くラグビーを始めた同志社大学であった。三高の選手たちは、日本最古の定期戦である対慶応戦のためにとってあった最後のジャージを着て斗かった。ゲームは三高が押しまくり、33－5で圧勝した。試合後、私たちは、知っている限りの三高の歌、ラグビー部の歌を歌った。三年生の人たちは、もう何も思い残すことないおもむきで三・三。五。五散っていった。それ切りで、三年生の人たちとは一度もあっていない。私を勧誘してくれたあの北朝鮮の人もどうしているだろうか。あるいは戦場で死んだ人もいるかもしれない。けれど、あの雨上りの日の夕暮れに、マントをひっかけ、からかさを肩にして、吉田山の方に散っていった三年生の人たちの後姿は、私の心の中にいまもはっきり焼きついているのである。

「昭和二十七年四月のこと」

森　延　哉

昭和二十七年四月、私は大手前高校に入学した。中学は天王寺区の高津中学（現在の夕陽丘中学。不思議に思う人もあろうが、私たちの卒業後、夕陽丘中学と改名。今の高津中学はそのあとで新設された）だったので学区外、それで中学から一緒に来た友人も少なく東、船場の出身者がわがちの顔にふるまっている中で小さくなっていた。

願書を出す一カ月位前までは高津高校（行くつもりだったのに家が東成区のため、高津は学区外になるから大手前へ行けと言われ、その通りしたのが十九年にもなる本校との悪縁のはじまりである。

高校に入って驚いたこと、とまどったことはいろいろあったが、その一つは上級生がいたことだといえば、どう聞こえるかしら。何しろ新制中学発足当時、したがって独自の校舎を持った中学なんて存在しなかった。昔の小学校は戦後も小学校に、昔の中学、女学校が戦後の高校になったのだから、戦後の中学にそれらの一部を間借りすることからはじまった。

一年は生玉小学校の一部、二年は清水谷高校の一部、三年は今の五条小学校の分校の校舎にと転々し、三学年バラバラで過すのが当り前の生活を送って来たため、上級生、下級生の感覚が全くスッポリと欠けてしまった。クラブ活動も学年独自、生徒会もそうだったようだ。それにしてもあの活発だった生徒会活動。ワンポストに数人の候補者という選挙、高校へ入って選挙のたびに候補者探しにやっきという姿が不思議に思えたものだった。ともかく上級生、下級生の感覚がなくていきなり恐ろしい二年生、三年生のいる高校へ来たのだからはじめのうちはこわかった。廊下でぶっつかってどなられ、ふるえあがった。小学校五年以来五年ぶりのことであった。小

学校とちがって高校の上級生は無精ヒゲを生やしたりしてオッさんのように見えた。何となく上級生を敬遠するようになった。

現在まで私に先輩後輩の意識がうすいのはこのためかも知れない。高校三カ年だけでなく、大学に入っても内心いつも先輩に白い眼を向けつづけていたのを思い出す。一つ二つ年長だからといって何だと、良くいえばコーセン、悪くいえばゴーマンな態度をとっていた。そういう傾向は今でも少しある。

そのころ、たしか水曜は半日、その前は週五日制の時代もあったとかいうことだ。科目の数も少なく、随分と楽だった。

高校受験の際、何か大失敗をしたように自分で思いこみ、もうだめだ、就職しようと大手前から今里まで徒歩で帰りながらつぶやいていたのを思い出す。父が半ば失業したような状態で、入ったからどうなるという経済的な見通しは全くなかった。発表を見て合格していることがわかった時、やはりそれなりにうれしかったし、その上、近所の人からアルバイトの話もあり、学資の方も何とかなりそうなメドがたつと心が何となく明るくなって来た。季節は春、若さは若し、何とかなる気にすぐなっていく。

校舎は大正時代に出来たというオンボロ（最近になって汚くなったというわけではないんだ）校庭は現在の半分位、体育館もなかったが、それとて何もなしの中学から見れば天国のようだった。図書館にはいっぱい本が並んでおり、さあうんと読むぞといいきかせた。

最初のHR教室は本館三階、今の社会科準備室の真上にあたった所と思ったが、どうだろう。その後、時間のたびごとに教室を移動してまわったので記憶も怪しい。ただその隣りに映研の部室があり、映画のポスターがはってあった。「前売り入場券三十円」（何という時代だ！）とあるのを見て映画の好きな私はすっかり満足してしまうのだった。そのポスターが、ビンセント・ミネリ監督、ジーン・ケリー主演の「パリのアメリカ人」であるのを今でもおぼえている。

その隣りのHR教室で一年生四十何人かが神妙にひかえ、まだ二十代の若くてスマートな英語教師、何か話をしておられるその間に時々ポーッとほほを染められる。その人が私たちの担任になることを知らされるのである。

「……私が今度君たちの担任をする片山龍夫です。」

そうして私の高校生活がはじまったのである。

☆「あなた　卒業したら　すぐ結婚するってほんと？」

「えゝ、どこの会社もだめだったの」

☆「父さん、今年から　大学の授業料が上がるんだって」

「おや、とまったことだね。

でも、おまえなら受験料だけですむだろう。」

S・M

☆春や春

どの面みても

にきび花

詩 POEM

血のような乱れた愛のプレリュード

2ノ1　太田文夫

いのちあづけます
ながれながれて
このよのはては
てふのただよふ
よるのてんごく

森閑……
プロットのない小説の
散った花びらナンマイダ……
血のような
男に捨てられた女の日のような
言葉のない愛の告白のような
飾りのないショーウインドウのような
生きている人間の葬式のような
人気のない盛り場のような
もし、生きることが許されるならば

もう一人、人を殺したいと思っている
まるで忠実な犬のごとき死刑囚のような

『血のような乱れた愛のプレリュード』

怒濤は去った
崩壊さえもない
黄昏、消された人の悲しみのふくらみが
まるで昨日落とした僕の目玉のように
心を圧迫している
ああ、僕の昨日が泣いている
昨日まで　僕は昨日が恐かった
でも今日は昨日が、昨日までの　昨日じゃな
くて　TEDOHERDAE　なのだ！

あはづにあいひしてへ
いついつうふー
まあはでへもおふ……

「第三部　完」

影よ

2ノ1　副島正純

この悲しくも寂しげなる沼のほとりで
何をそんなにきめざめと泣いているのです
青い影よ
何を泣くことがありましょう
沼はさわさわと音を立て
生気を失った蕾は歌い
私とあなたとここに居る
それだけで充分なのに
一体どうしたのです

この沼の底は見えない
見えないながらも深いのだ
私達はいつでもこの沼の底に身を横たえて
悪霊と話ができるのだ
死神にこの首をくれてやることができるのだ
これ以上すばらしいことが
影よ
私達にありますか
そして
これが私達に与えられた
最後のものなのです。

ある日　あるとき

2ノ7　竹内信博

今ぼくは授業を聞いていない
机の上にうずくまって何かを考えている
ぼくのうでがぼくをおおい
ぼくはa^2となった
aは正だろうか負だろうか
aが正のときぼくはaとなり
aが負のときぼくは$-a$となる
ぼくはaか$-a$か
ぼくが$-a$ならばどうすれば
どうすればaとなる
対数をとろうと微分しようと
ぼくは$-a$のまま
ああだれかぼくをaにしてくれ
なんでも君のほしいものをあげる
なんでもあげるからaにしてくれ
でないとぼくは0になってしまう

無題

2ノ7　神頭　徹

幸福の涙がねずみの心をぬらしたとき
それをひとはねずみとりと呼ぶのでしょうか

その日の空は暗かった
ねずみの瞳もくらかった
空は今にも泣きそうで
ねずみはすでに泣いていた

かあさんとっても楽しそう
むすめの方をふりむいて
明るい声で笑います

むすめは胸をはずませて
もどかしそうにせかします
かあさんはやくやりましょう

黒い川の橋の上
その日もはるかな
明日の風が
きのうのようにわたります

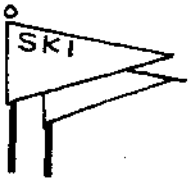
思えばあのとき空腹で
何も知らずに食いついた
その晩
ねずみはしあわせで
楽しい夢路へ旅だった

ところが今はオリの中
ひとりで冷いオリの中
あのとき
ねずみは空腹で
ちゅうでエサに食いついた

ゆれるゆれるオリの中
オリはもうすぐ水の中
白いヒモにつるされて
オリはもうすぐ水の中
ねずみの涙の一つぶが
ひととき
川を澄ませます

ねずみよねずみ
小さな生命
なぜにおまえが
わるいのか

明日の風に
はとばれて
遠い世界へ
旅に出る



泉　スプリング

1ノ5　向井里美

闇の中に眠っていた
山々の頂線が　おぼろにあかく
月は美しくまたたきをのこして
海のかなたに沈むころ
窓にさきとめられていた日の光が
金色の矢となって
私の心をつらぬくのを
君は知らないか

まばゆい朝
金粉をまきちらした庭の
草花が　いきづくように
においをこぼしているのを
君は知らないか

ふじ色にかすむ遠くの尾根
そっともりあがった丘は
なんと母の乳房に似ていることか！
草の露は幾千幾万の光を宿し
ときどき小さく震える

光は今にもまして一度に輝き
そのまま　大気に溶けて沈んで消える。

ああ　君
知らない国までつづいてゆく
この空の色を
人はなんと呼ぶのだろう
蒼い
たよりなげにすきとおり
手をのばせば天にもつきぬけて
ゆきそうな
そんな無限の可能性を秘めた色
……涙色？

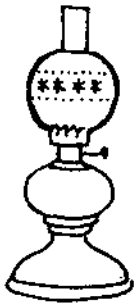
そんな涙の一片が
日にしみいるような緑の中で
静かに揺たわっているのを
君は知らないか
そうだ　これが
私達の泉ースプリングー

ねえ　君
入日の色がうすずみ色に
小さなともしびが闇の中に
浮きあがるころ
泉のほとりに　ただひとり

月のあかりに髪をすき
返らぬ人をまちわびる
ラウテンデラインを
知らないか

ニンフたちが金銀のししゅう糸で
空を飾るころ
大理石のプリマベーラが
琴をかなでたのは
この泉ではないだろうか

ナルシスの花が
そっと顔を伏せている
この水辺で
私達は手をにぎり
清い泉のその中で
一つになろう
永遠の友情を誓うため。



イッヒ、リーベ、ディッヒ

2ノ8　山田雅信

ぼくは憶えている
あの日　あの時
教室から見えた夕焼空の真赤だったこと
真赤な教室の片隅に
そうじ中だけどぼくはすわっていた
机の上にひざをかかえて……
それで手にもったほうきの
始末に困っていたとき
あの感動的な声が聞こえてきた
声の主と君はそうじをしていた
君ははづかしそうに
下向いてだまって
ほうきをうごかしていた
ぼくは
ぼくをひやかした男を
追いかけることしかできなかった
あの日　あの時
教室から見えた夕焼空の真赤だったこと
ぼくは忘れない

4・19－12・5

2ノ8　山田雅信

その日　ぼくは決意する
君に真赤なバラをあげようと
君が受けとって困るくらいに
でも　結局
花の絵ハガキ一枚だけ

その日ぼくは決意する
君を心から愛してあげようと
君をこの腕の中で泣かしはしないと
でも　結局
街頭でちょっと話しするだけ

つぶやき

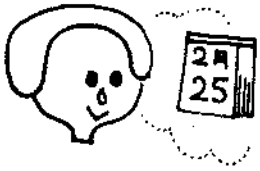
2ノ1　西島正純

空は輝きを忘れた雲を引きずって歩き
陰鬱な景色はごろごろ転がって行く
道だけが直と処び
先端が太陽に飲まれている
その中で

一体何を求めるのか
がんじがらめに縛られて
なお進もうとする不具者よ
その生ける屍の眼よ

墓にもどれ
あの湿った土の下にもどれ
そうして
この永遠に同化せよ
君の吐いた血は
増桶にべっとりとついた
その瞬間　君は
一切を止めるべきだったのだ

それでも進もうとする
そら
ばらばらにこわれた君の影が
かちゃかちゃと音を立てて君についてゆく



◆◆短歌◆◆修学旅行に拾う

白樺と燃える真紅と空の青
風さやさやと山の秋を吹く
2ノ1 松本 茂樹

どうしてか言いたいことも言えぬまま
窓の外ばかり眺めていた
2ノ1 田中 偉

星くずは砕けた僕の心であろうか
夜陰にかくれて空を見上げる
2ノ1 太宰 文夫

一人して心さびしくながむれば
ダムの寒さはたえられぬなり
2ノ1 富山あい子

声震え友に言いし我がことば
自らの胸に強く残る
2ノ1 紀本 岳志

風強く肌しむ寒を耐えかねて
暖を求めてそばすすりけり
2ノ1 金川 秀一

たそがれの緑の谷間に浮きいでて
幻のごとく見えし山々
2ノ2 織戸 寿

青紙に赤黄緑をちりばめた
秋の信濃の山の景色よ
2ノ2 野嶋 哲郎

紫の白樺生ふる連峰より
わたりし風のくまぎきに鳴る
2ノ2 鷲川 恵子

りんごむくゆびさきにふと思いだす
紅きりんごにこぼれたひかり
2ノ2 林 千章

大沼の青き水辺にたたずみて
彼の人思いて一人悲しむ
2ノ2 今西久美子

小にしえの白根を行きし旅人も
めでしと思うみずうみのいろ
2ノ2 高橋 恭子

さびしさを我のみ秘めて夜半をゆく
悲しく光る星空のもと
2ノ3 浜田 潤

信濃路の夜空を仰ぎ深呼吸
はく息白く星に吸われし
2ノ3 福原 山子

すすきたつ野になだらかにすそながす
霞にけむる赤き浅間よ
2ノ3 谷 仁

湖に旅のなごりは眠りけり
友と投げたる一片の石
2ノ3 森本 理

深き青黒き緑に波声なし
　誰ぞ投げぬる石の波の輪　　2ノ3　戸部　久三

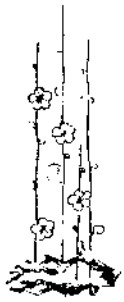
暗天のランプのごとき尾のもと
　添いて道行く二人の世界　　2ノ3　山本　忠宏

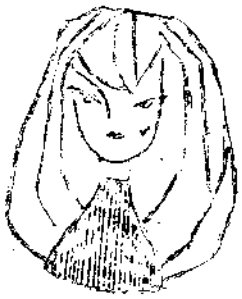
車窓より見ゆる浅間のうすけむり
　ああわれは今信濃路にあり　　2ノ3　見島　和子

いつのひかめぐりあうべう人の名を
　よぶようきこゆ佐久の草笛　　2ノ3　三木　直弘

夜ふけまでかくれて配るトランプに
　「先生来た」の合図あるなり　　2ノ3・三木　靖夫

秋天に白く起ちたる騎馬武者見たり
　昔の夢は善光寺平　　2ノ3　松尾　和真





日本における詩及び それからの文離滅裂なる考察

2ノ1　副島正純

一般人の詩に対する考えというものは、あまりに浅薄である。ただ適当に改行しさえすれば、それで事足りると信じている。甚しきに到っては、単さえ並べれば詩である、と豪語する者さえ居る。（そのようなことを軽々しく口に出すような者に限って、無知でありながら、己れは道を極めたのだというような顔をしている。）

いろいろの入門書なるものにあるよう、詩は何処にでもある。しかし、けっして簡単に表現できるものではない。よく、幼児の作った詩を「思ったことを、素直にあらわしている」などという評を見るが、その大部分は、幼児が作ったということに意義があるのであって、真にそれ自体が優秀であるかどうかについては、疑問がある。中高校生においては、これら幼児と技巧的には何ら変わりのない作品を平気で綴る者が多い。

そもそも詩とは何であるかーと、全てを論ずると、超大作になってしまうので、真に知りたい方は、萩原朔太郎著「詩の原理」を参照されたい。以下、部分的に論じていくから一見矛盾が起こるかもしれぬことを断っておこう。

詩の国語中における最大の役割は、語を磨きあげてゆくことにある。体内に流れを有し、わななく詩人の魂をあらわにし、一語一語が生きてその意を存分に発揮し、小宇宙を展開する。常に文学の最高峰に位置する所以である。

日本における韻文は発達しにくく、これは、あまりに平らなる大和言葉に因がある。韻律とはアクセントの強弱に伴うものであり、従って「日本の詩に、西洋の「韻文」という語が持っている特殊な修辞的なクラシズムに適応すべく、あまりに素朴で散文的」ということになってしまうのだ。この最大要因は、中世において、文章語と口語が分離し、その後、口語は遊客の町民の会話の媒体としてしか認められず、何ら発展がなかったことにある、と、簡単に記しておこう。

定義された美の造形に、和歌などの、五七。七五の調べが生じた。これはおそらく、西洋語においては不可能な、我が国独特のものだろう。この調子の繰り返しは、たしかに口調は良い。が、いつまでも続くと、だらだらとなり、飽きてしまう。五七五、五七五七七は引き締まり、余情を残すものとしては、これだけで最長であり、最短のものである。

新体詩以後の詩人達は、かかる難題をはね返すべく努力した。そして、画期的新風をもたらしたのが萩原朔太郎だ。自由詩の中に脈打つ韻律を導入し、使用された語は極限までにその意味を持ち、全くそれ以外の語での代用を許さない。多数の方御存知の「竹」などは、そのあまりに典型的なる例だ。彼は、口語自由詩を　ほぼ完成の域へ達しせしめた。

西洋においては、大体口語と文語は一致していると見てよく、従って、古来幾世紀にも渡って、数多くの詩により、それらは磨きあげられてきたのである。

しかるに、日本において、その大々的試みは、明治に入って漸く始ったといってよいだろう。近代詩人達はその過渡期にあたり、絶望的に煩悶せねばならなかった。また、これから先も、何世紀かに股がって、そうであろう。

しかし、明治大正でも一部見られたように、詩の持つ本来の意義を忘れながら〝詩人〟と称する者が少なくない。難しい言葉を知っている点のみが、幼児と異なる位のような、あるいは、他人には全く通じぬ言葉を行列させ、自分を超現実主義の大家と信じている者も、かなりの数にのぼる。

何故に〝文学の最高峰〟たる聖域が、かくも乱れているのだろうか。おおよそ、日本語に対するしっかりした認識の不足が原因するようだ。言葉を安易に使用している。一般中高校生においては、それがあまりに甚だしい。使われている語が、どうしてもそれでなければならないという理由が見当らず、まさに散文を改行によって多くのスペースを裂いた、という感がするものが多すぎる。

日本語には日本語特有のニュアンスがある。それを駆使しようとしない。自国だから―という気軽さがあるのだろう。しかし、真に日本語を知っている人、知ろうとしている人々は、この日本国内に一体どれだけ居るだろうか。そうして、無闇と外国ものを取り入れたがる。外国文化導入が悪いなどとは言わぬが、現代人は、反省を知らずして、ただ横文字を追いかけまわしている。

確かに英仏独などの、世界の代表的な言語は、日本より完成されており、すばらしい。外国商社には良心的な所も多いし、音楽もいいかもしれない。しかし、果たして、その真なる良さを知って導入しているのかどうか？答えは否！横文字は自分達に分からぬものだから、何となく高級に思える。西洋のものだから、高級品に見える。この田舎根性が、日本人にはあまりに強く、次第に日本を顧ることをしなくなってきている。

日本人の精神文化には、秀でたものが多数にある。しかし、現代において、行間から書き手の意図を汲む繊細さは消えかかり、風流を楽しむ心は銭を楽しむ心に。時代と共に考え方は考えると反論される諸君。君らは、一体、祖国の精神を知ろうとしたことがあるか!! 西洋には、先人を尊ぶという風潮がある。が、そんな精神だけは輸入せず放ってある。それは、他人に「カーッコイイ」と言ってもらえるものではないからだ。「英語こそは、世界最高の言語」とする英国民の誇りを見習っても、一文の得にもならないからだ。

詩はけっして易しくはない。わずか一語、一行に詩人は苦しむ。その苦しみを知らずして安易に言葉を使う者は、つまりは日本そのものを冒涜しているのだ。こんな人々に対して、僕は怒りを禁じ得ない。よりよく磨こうとする努力もせずに「日本語なんて不便だ」などと放言する者に到っては、論外である。そんな方々は、早々にこの日本を去って、米国なり英国なりへ出て行って下さい！とお願いする。

高校生と麻雀

2ノ2　野端哲郎

現在、二年生の男子の間に静かなるブームをおこしているのが日本の国技だというウワサもある麻雀である。なぜこのように麻雀がはやるのか、ルールが複雑であるから飽きないとか、かっこええとかまあ理由はいろいろあろうが、現在の高校生活で最も欠けているといわれるいわゆるコミュニケーションの機会にこれほど富んでいるゲームは他になかろう。つまり、パイをつもりそろえながらいろいろとつまらない話をすることによって意志の疎通をはかるのである。トランプではこうはいかない。話などをしているひまはなく、

必死に考えながらゲームを進めるからおもしろいことはおもしろいけど親密性を深めるという点では麻雀にかなり劣る。またトランプでは競技時間が非常に短いし、引き分けというようなことがほとんどおこらない。現代的といえば現代的であるが、これは余りにも人間性がなさすぎて人間性回復が理想とされている現在では時代に逆行するものであるともいえる。

意志の疎通が目的ならば高校生なら高校生らしくもっと健康的なスポーツでもやればいいじゃないかなどといわれるお問いむきには次のようなことも考慮に入れて欲しい。

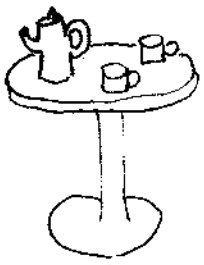
四、五人集まって何か球技でもしようと思う。まず入用なのが球（ボールともいう）それに広い場所、この二つをそろえるのは現在では相当むずかしい。それに運動が得意であるものと不得意なもの、この両者が必ず存在する。

一般に不得手なものは自分より運動が得手なものに対して劣等感をいだきやすいし、得手な方も不得手なものと一緒にやっていると かなりイライラしてくるものである。それにわりと早く飽きがくる。これでは意志疎通なんてあったものではない。

こうして考えてみると、四、五人で行なう本当の意味でのリクレーションなんか、なかなか見つからないものである。ましてや学校生活の中で互いに親密を深めることはおそらく不可能であろう。以上のような理由で麻雀がはやるということを、学校生活の問題に結びつけて考えることは行き過ぎであろうか。ぼくはかなり関係があると思うのであるが。

しかし、麻雀に余りに熱中して勉学の方がおろそかになるのは高校生であるという立場上、かなりまずいと考える。何事に対してもそれにおぼれるのはいけないとおっしゃった先生もおられた。ぼくも全く同感である。

しかし、高校生が麻雀をするなんて身分不相応であるという意見に関しては、同調しかねるのである。



机草子

2ノ7　堀　幸雄

前大統言相場小豆殿、大手前に入らせたまひて欠点あまたおはせしに「あはれ、こはいかに。」とてうち泣かれぬ。

日々は筆をとらむとするほどに甚く気なく、食まむとするほどにパンすらなし。

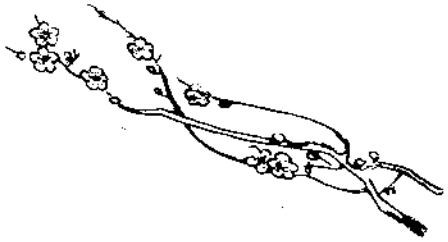
せめかたなくチャートを開きたまひてこれを読まれむこと一時余り「いとかたきことどもなり」とのたまひて、しばし寝ぬること二時所夜になりて『ヤンタン』に聞き入らせたまふ。またの日に試験ありしに時などは夜もすがら机に向かひて『ヤンタン』さへ聞かるることなく丁夜までチャートを読まれむことしばしはなり。

さりとて欠点とはいと心苦し

先生方にも小豆殿の敷きをいとど御心苦しうおぼしやらせ給ひて追試つかうまつらせたまふとかや

追伸　文法のあやまりはユルシテモラエルノデハナイダロウカハテ　ー？

わ



編集後記

皆さん、スプリング11号はいかがでしたか？
昨年に引き続き、大型サイズのスプリングです。
しかし、
「今年のスプリングは今までのとは少しちがっているな！」とお気づきの方もおありでしょう。
そうです。
皆さんの理解をもっと深めるため、クラス・クラブの紹介に従来よりはるかにページ数をさき、そして内容もぐっと充実したものにしたつもりです。
まだまだ不満も多く、不完全なものでありますが、来年の又その先のスプリングへの飛躍を期待します。
最後に、皆さんの有形・無形のご協力、ありがとうございました。